

173  
/

行 刊 月 一 年 五 十 五

官 令 全 報

太 告	自第壹號至第三號
太 布	自第壹號至第貳號
太 達	自第百拾號至第百拾壹號
內 乙	自第百拾三號至第百拾五號
大 達	第壹號
大 乙	自第百拾貳號至第百拾三號
陸 甲	自第百拾壹號至第百拾三號
陸 乙	自第百拾九號至第百拾三號
海 丙	自第百拾七號至第百拾五號
文 達	自第百拾五號至第百拾八號
農 達	第貳號
司 丙	自第百拾九號至第百拾拾號
司 丁	自第百拾三號至第百拾五號
警 達	自第百拾六號至第百拾七號
警 甲	自第百拾五號至第百拾六號
東 甲	自第百拾七號至第百拾八號
東 乙	自第百拾四號至第百拾六號

○明治十四年十二月之部

太 告	自第壹號至第三號
太 布	第壹號
太 達	自第壹號至第肆號
內 乙	自第壹號至第貳號
大 達	第壹號
陸 乙	第壹號
司 丙	第壹號
司 丁	自第壹號至第第八號
警 甲	第壹號
司 日誌	明治七年前的第拾七號
雜 報	貳拾四件
例 指 令	三拾九件
附 錄	都鄙日乘
太	四拾八件

部之月七年四治則

第 六 十 六 號



特30

東  
東  
報  
全

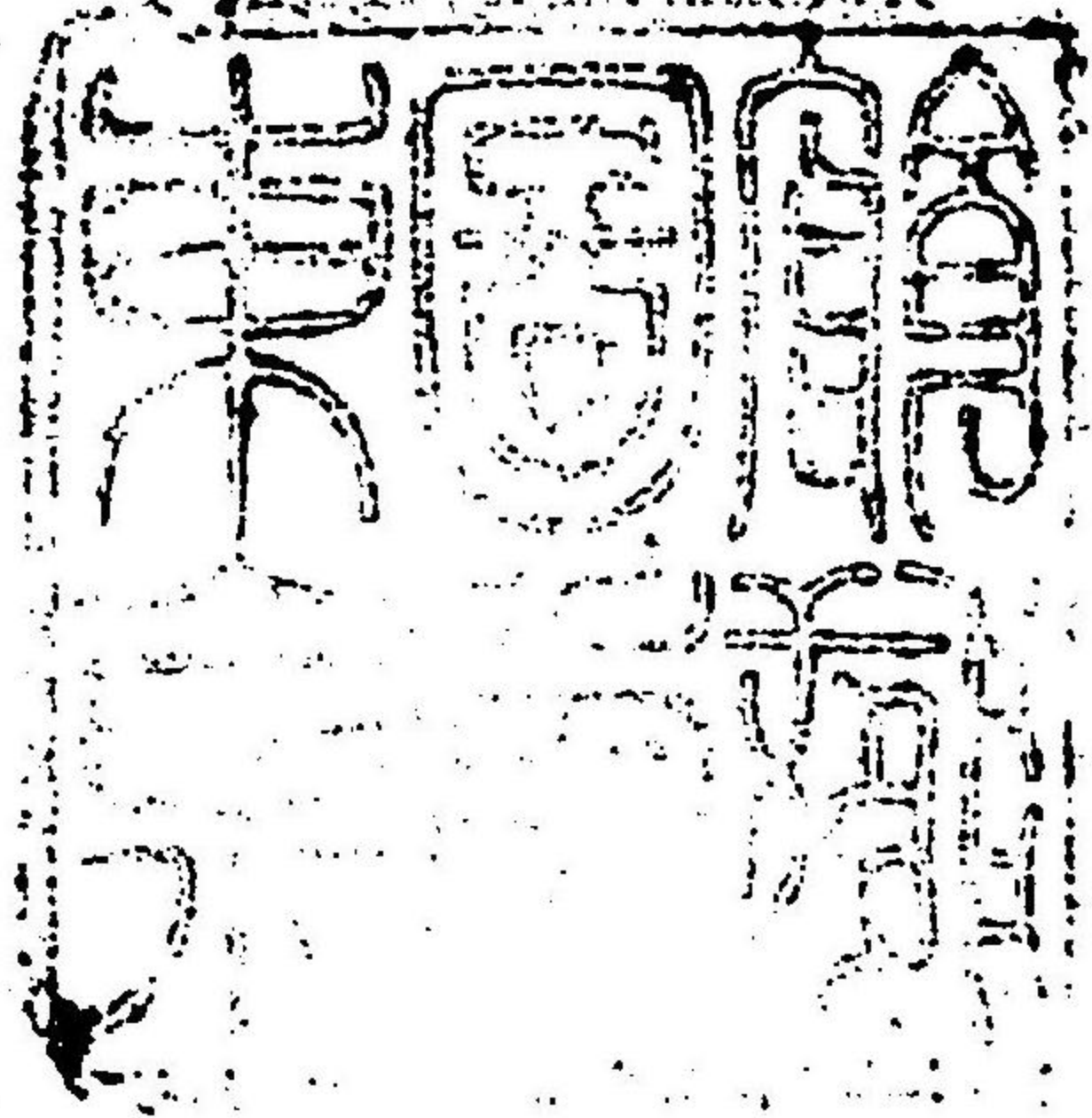
明治十五年一月三十一日刊行

報

第六十六號

東京神田區神田五軒町一人番地

弘命社發兌





22  
4  
020

官令全報第六十六號目次便覽

東 甲	警 甲	宮 達	司 丁	司 丙	農 達	文 達	海 丙	陸 乙	陸 甲	大 乙	大 告	內 乙	太 達	太 布	太 告
○明治十四年十二月之部															
自第六拾八號至第八拾三號															
自第壹號至第貳號															
自第百拾號至第百拾壹號															
自第六拾三號至第六拾五號															
第壹號															
自第五拾貳號至第五拾三號															
自第三拾壹號至第三拾三號															
自第六拾九號至第七拾三號															
自第七拾號至第七拾五號															
自第三拾五號至第三拾八號															
第貳號															
自第拾九號至第貳拾號															
自第三拾三號至第三拾五號															
自第六號至第七號															
自第五拾五號至第六拾號															
自第百七拾六號至第百八拾四號															
○明治十五年一月之部															
東乙															
自第百四拾壹號至第百四拾六號															
正誤															
壹件															
太															
壹件															
大															
壹件															
開															
勅諭															
壹															
自第壹號至第三號															
太告															
第壹號															
太布															
自第壹號至第四號															
太達															
自第壹號至第貳號															
內乙															
第壹號															
大達															
第壹號															
陸乙															
第壹號															
司丙															
第壹號															
司丁															
自第壹號至第八號															
警甲															
第壹號															
太正誤															
三件															



明 治 四 年 第 七 月 之 部

太

四十八件

司日誌	明治六年前第拾七號
雜報	二十四件
伺指令	三十九件
附錄	都鄙日乘

官令全報第六拾六號目錄 明治十五年 一月卅一日 弘令社發兌

〔太政官〕

御布告

明治十四年十二月

- 第六拾八號 明治十五年郵便規則及罰則頒分ノ事 五
- 第六拾九號 陸軍刑法改定及施行日限ノ事 五
- 第七拾號 海軍刑法同上 五
- 第七拾壹號 輕罪裁判所ヲ開ク時當分警部ヲノ檢事ノ代理ヲセシムル事 五
- 第七拾貳號 刑法施行ニ付法律規則中罰例ニ係ルモノ處斷方ノ事 六
- 第七拾三號 無能力者代人及民事擔當人ト稱スル者ノ事 七
- 第七拾四號 治罪法中刑事ノ控訴ニ關スル條件ハ當分ノ内實施セス十二月廿八日存目
- 第七拾五號 西洋形船々長運轉手機關手免狀規則改定及實施日限ノ事 七
- 第七拾六號 裁判所名稱區畫表始審ノ行中削除合併ノ事 十一
- 第七拾七號 治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所開應スル場所ノ事 十二
- 第七拾八號 重罪裁判所管轄區畫ヲ定メ十五年一月一日ヨリ實施ノ事 十二
- 第七拾九號 北海道并沖繩縣ハ當分從前ノ通於其官廳裁判事務執行ノ事 十五
- 第八拾號 十四年第四十八號布告改正ノ事 十五
- 第八拾壹號 刑法中新舊法比照ノ事 十五
- 第八拾貳號 大審院各裁判所ニ於テ審理ニ着手ノ刑事處分ノ事 十八
- 第八拾三號 治安裁判所始審裁判所ノ權限制定ノ事 十八



正 誤 本年第六十七号布告中正誤 三十

勅 諭 軍人ノ勅諭寫 六十

第 壹 號 治罪法第三百八十一條第一項ニ變則ノ事 六十七

第 貳 號 地方稅規則中改正及施行日限ノ事 七十七

第 參 號 營業稅雜種稅規則中改正及施行日限ノ事 七十八

大 太政官

御布達 明治十四年十二月

第 壹 號 西洋形船々長運轉手機關手免狀規程改定ノ事 十九

第 貳 號 各裁判所位置管轄區畫心得方ノ事 二十九

第 參 號 陸中釜石鑛山用ノ鐵道落成ニ付人民便利ノ爲メ 七十五

乘車及荷物運輸ヲ差許サルノ事

大 太政官

御 達 明治十四年十二月

第百拾壹號 旅費定則中追加之事 二十九

第百拾貳號 警部巡查ノ等級ヲ廢シ俸給ヲ定ムルノ事 二十九

第 壹 號 官舎會渡規則中修繕費ノ爲備置ク金額支出并編入科目ノ事 六十七

第 貳 號 各府縣經費ノ内(俸給廳費史誌編輯社費等)豫算帳ノ事 六十七

第 參 號 神官職員中官等設置ノ事 六十八

第 四 號 歲入科目中(地稅郵稅賣藥稅)科目加除更正ノ事 六十八

正 誤 十四年十二月第八十一号布告刑法新舊比照法中正誤 八十

正 誤 同第一号布達西洋形船々長運轉手機關手試驗規程中正誤 八十

正 誤 同第七十五号布告免狀規則第九條第二項中正誤 八十

大 内務省

御 達 明治十四年十二月

乙第六拾三號 監獄則中覆面巾罰具調製方ノ事 五十五

乙第六拾五號 獄事計表改正及樣本ニ倣ヒ調製ノ事 五十八

乙 第 壹 號 警察月報書式改正及差出日限等ノ事 (第六十七号ニ全載ス) 八十

乙 第 二 號 警部補ヲ以テ其署長ニ充及巡查ヲシテ代理セシムルノ事 八十

大 大藏省

御布達 明治十四年十二月

告 第 壹 號 公債證書紛失 六十一

乙第五拾貳號 各廳國稅事務擔當現員取調差出日限其書式ヲ示ス 六十二

乙第五拾三號 本年第三十七号(租額)達中追加ノ事 六十三

正 誤 本年乙第四十八号達書中納付ノ下「期限」ノ二字ヲ脱ス 六十八

第 壹 號 民有開墾地調查順序ヲ定メラルノ事 六十八

大 陸軍省

御 達 明治十四年十二月

達甲第卅壹號 順宮鉄次郎引籠中無届他出ニ付捕縛方ノ事 六十四



達甲第卅貳號 常備軍服役滿期ノ者心得ノ達 六十四  
 達甲第卅三號 各種兵中行狀方正技藝ニ熟シ勤務勉勵者歸休兵員ノ事 六十五  
 達乙六拾九號 陸軍部内代理條例ヲ定ムルノ事 六十五  
 達乙第七拾號 將校下士等艦員ニ轉シ所管轉換ノ者名簿交付方ノ事 六十六  
 達乙七十三號 陸軍懲罰令ヲ定メ施行日限ノ事 六十七  
 達乙第壹號 觀兵式假規則改訂 明治十五年一月 六十九

〔海軍省〕 御達 明治十四年十二月

丙第七拾號 大藏省出納局へ納拂日限ノ事 三十  
 丙第七拾五號 海軍下士以下懲罰則ヲ定メラルノ事 三十

〔文部省〕 御達 明治十四年十二月

第三拾五號 十三年第十八号御達(取調罪表配付)廢止ノ事 三十一  
 第三拾六號 學事年報野表中記入方及差出期限ノ事 三十一  
 第三拾七號 師範學校中小學校教科用圖并教員生徒試驗用圖書表ノ事 三十三  
 第三拾八號 集會ヲ舉行シ及遊興弄戲猥褻詭激ニ涉ル者等取締方ノ事 三十四

○〔農商務省〕 御達 明治十四年十二月

第貳號 十一年乙第七號達(官地肥料)中削除字ノ事 三十五

〔司法省〕 御達 明治十四年十二月

丙第拾九號 警察署ニテ審判ノ違警罪事件表及既決犯罪表ノ事 三十五

丙第二拾號 新法實施後既決囚逃走者ノ令狀發遣心得方ノ事 三十八  
 丁第三拾三號 刑事裁判言渡ヲ犯人ノ本籍へ通知及犯人前科取調心得方 三十  
 丁第三拾四號 治罪法中表式ヲ定メ及ヒ調成方ノ事 四十  
 丁第三拾五號 本省刑行ノ書籍頒布部數ノ事 四十

明治十五年一月

丙第壹號 刑事裁判統計表調製ニ付違警罪事件記載方(全報六十七号ニ載ス) 七十三  
 丁第貳號 各廳供用書籍目錄調製手續并離形ヲ示スノ事 八十一  
 丁第參號 陸海軍治罪法御制定以前舊慣ニ據リ治罪手續執行ノ達 七十四  
 丁第四號 人民ヨリ官府ニ對スル詞訟ノ受否 八十二  
 丁第五號 又ハ判決經同ノ件移廳處分方ノ事 八十三  
 丁第六號 刑事裁判統計表調製ニ付豫審事件記載差出方ノ事 八十三  
 丁第七號 陸海軍々々へ勅諭ノ達心得方ノ事 八十三  
 丁第八號 裁判所ヨリ管内へ達スヘキ事件ハ從前ノ手續ニ從フヘキ事 八十四  
 丁第十四號 十四年丁第三十四号達中改正ノ事 八十四

〔宮内省〕 御達 明治十四年十二月

乙第六號 賀表書式中改正ノ事 四十一  
 乙第七號 明治十五年新年式被仰出ノ事 四十一

〔開拓使〕 正課 明治十四年十二月

正課 本年甲第三号布達帳内鐵道貨物運送規則中正誤 五十五



警視廳 御布達

明治十四年十二月

- 甲第五拾五號 馬車取締規則改正ノ事 四十四
- 甲第五拾七號 傳染病者屆規則ヲ定ムルノ事 四十八
- 甲第五拾八號 本廳諸規則未條へ追加及施行日限ノ事 四十九
- 甲第五拾九號 消防出初式執行ノ事 五十
- 甲第六拾號 違警罪目改正及施行期日ノ事 五十
- 甲第壹號 小形旅客船取締規則中増字ノ事 七十五

東京府

御布達

明治十四年十二月

- 甲百七拾六號 産婆開業試験ノ事 五十一
- 甲百七拾八號 人民私設ノ橋梁等憲兵巡行ノ節賃錢請求成ラサルノ事 五十一
- 甲百七拾九號 常陸國東茨城郡小川村園部川浚濶ニ付賃錢及期限ノ事 五十二
- 甲百八拾號 本年內務省甲第一号告示別冊ハ郡區島役所へ渡置 存目
- 甲百八拾壹號 命祿公債證書發見 十二月 存目
- 甲百八拾貳號 海軍々樂隊通學生二十五名ヲ限リ入學差許サルノ事 十二月 存目
- 甲百八拾三號 金祿公債證書騙取 十二月 存目
- 甲百八拾四號 本年第六拾八号布告別紙郡區島役所へ渡置 十二月 存目
- 乙百四拾壹號 本年第一百拾号達第一二号納稅證書改正ノ事 十二月 五十三
- 乙百四拾貳號 陸軍武官休暇規則改正ノ事 十二月 五十三

司法省日誌明治六年前第十七號

目次

- 乙百四拾三號 新年賀ノ節有無勳等ノ者拜賀禮服用參賀日ノ事 五十四
- 乙百四拾四號 本年乙第百五號達地方稅金決算仕譯書中追加ノ事 五十四
- 乙百四拾五號 白酒釀造製成檢査及課稅取計方ノ事 五十四
- 乙百四拾六號 地稅年賦延納金心得方ノ事 五十四
- 印幡裁判所ヨリ出版條例ニ違犯ノ者處斷方伺 二
- 廣島縣士族藤田高之以下進退伺 三
- 正院廻リ司法少判事小畑美稻進退伺 四
- 東京裁判所聽訟課ヨリ平民呼出ノ節着服ノ儀伺 四
- 警保寮廻リ高田營直當省鑑札遺失進退伺 四
- 宮内省廻リ岸中錄進退伺 四
- 教部省廻リ元權大録山崎進退伺 四
- 折原長次郎御門鑑札盜難失亡ノ儀ニ付進退伺 五
- 名東縣ヨリ流罪人取扱處分ノ儀ニ付伺 五
- 入間裁判所ヨリ持兇器強盜取財者處分ノ儀ニ付伺 六

明治四年 辛未 七月 之部

太政官

明治四年七月

英人キングへ手紙爲負逃去候者捕亡再達



東海道富士川天龍川渡船賃錢定則	二
戶籍法第四號本屬ヲ以テ寄住ノ地ニ編輯スルノ例取消ノ事	二
東京横濱ノ間郵便時間賃錢表	二
神官祿制	三
本社建物ノ外上地及祭典社用等區別調方ノ雛形	六
郷社定則	七
神社氏子調ノ事	八
神官ノ輩守札差出方心得ノ事	十
大教御趣意ノ事	十一
軍醫寮被置ノ事	十一
傳染疫ノ儀ニ付再達	十一
通商司被廢ノ事	十一
刑部省彈正臺被廢司法省被置ノ事	十一
社寺祿未年分渡方ノ事	十一
華族元服家督并僧侶官位住職等ノ節獻上物被止ノ事	十一
府縣諸拜借改正ニ付證文書改方再達	十一
官祿切手渡日割ノ事	十一
十四日ヨリ十六日迄休暇ノ事	十一
新貨條例再頒布	十一
舊彈正臺調ノ件司法省ヘ伺ノ事	十一
廢藩置縣	十二

廢藩ノ大參事以下是迄ノ通事務取扱ノ事	十二
諸藩製造ノ紙幣七月十四日ノ相場ヲ以テ引換ノ事	十二
辨官被廢ノ事	十三
伺届等關係官省ヘ可差出ノ事	十四
金銀銅内國限賣買被許ノ事	十三
大學被廢文部省被置ノ事	十八
廢藩ニ付是迄取扱ノ庶務大參事處決ノ事	十四
二十三日ヨリ第九時參朝ノ事	廿二
諸御門番兵文官通行ノ節禮式當分被止ノ事	廿二
寄留旅行ノ者ヘ鑑札渡スニ不及ノ事	十四
從前藩印押印ノ儘用ユルノ事	十四
藩債取調ノ雛形	十四
文部宮内兩省ヘ官職被置ノ事	十五
當未年租稅舊貫ニ仍リ從來ノ方法取調可伺ノ事	十八
諸御門警衛兵規則改正	十九
廢藩置縣ノ分午年租稅ヲ以諸費取計ノ事	十九
御門鑑札第一ノ番号引替ノ事	十九
傳馬宿入用米不及上納等ノ事	二十
奏任官官旨政府ヨリ下渡卿輔可相渡ノ事	二十
民部省被廢ノ事	廿七



○ 大藏省中寮司被廢ノ事	二十
○ 土木司被置ノ事	廿七日 存目
○ 諸道驛々相對人馬繼立ノ仕法調方ノ事	二十
○ 舊民政部省布達ノ事件當官ヨリ達ノ事	二十一
○ 官職廢置ノ事	二十一
○ 清濁酒醬油釀造稅則	二十二

雜報之部目次 明治十五年一月

〔太政官〕 御達

○ 海軍將校以下警察上ニ係ル職務上犯罪處分ノ事	一
○ 開拓使將來置縣ノ方法取調上申ノ事	一
○ 海軍下士以下懲罰則ヲ定ムルノ事	十二
○ 黑田清隆轉任西郷從道兼官宣下ノ事	三十六

〔陸軍省〕 御達

○ 憲兵將校以下警察上ノ過誤失錯處分法ノ事	二
○ 兵營ニ屬スル倉庫窓鐵格子漸次取設ノ事	二
○ 第四軍管常備兵ノ補欠兵ノ事	二

〔農商務省〕 御達

○ 府縣連合共進會褒賞金給與內規	二
------------------	---

〔宮内省〕 御達

○ 博覽會共進會開設ノ節主務局長幹事トナル可キ事	五
○ 博覽會事務掌管ニ但書追加ノ事	五
○ 各局事務規定中改正追加ノ事	十六

○ 一月四日政始ニ付太政官ニ臨幸之事	五
○ 一月五日新年宴會ニ付參内刻限并酒饌賜方ノ事	五

〔警視廳〕 御達

○ 零服制定ニ付從前ノ零服廢止ノ事	七
○ 巡查屯所職務事務心得中追加改正ノ事	六
○ 馬車取締規則處分手續	六
○ 全上中鑑札檢査証ニ係ル條件ハ十五年二月一日ニ實施ノ事	七
○ 飲食ノ中毒及誤用等ニヨリ死スル者有之節通報ノ事	七
○ 違警罪處分手續	八
○ 癪狂院ニ護送ノ患者死亡ノ節檢視ノ事	十一
○ 人力車蹴込ニ番号札附着セサル者處分ノ事	三十六
○ 路上撒水注意ノ事	三十六

〔東京憲兵本部〕 御達

○ 憲兵下士卒入院患者及隊付醫官治療投藥官費ノ事	十二
--------------------------	----

〔東京府〕 御達



本廳ノ布達主務卿ニ申報スル按文ノ事

十二

○(伺指令)

- 陸軍省伺 陸軍治罪法頒布迄舊慣ニ依リ治罪スヘキノ事 十七
- 海軍省伺 下士以下滿年賜金及ヒ歸國旅費支給ノ事 十七
- 大坂府伺 徴兵免否取調ノ件 十九
- 埼玉縣伺 同上 二十
- 茨城縣伺 徴兵適齡者ノ父兄ノ検査場へ呼出往復旅費支給方ノ事 二十
- 長野縣伺 徴兵免否ノ事 二十
- 東京鎮臺伺 衛戍兵交代延期ノ事 二十一
- 岡山縣伺 無籍者三十二歳以上徴兵免否ノ事 二十一
- 京都府伺 徴兵免否ノ件 二十二
- 憲兵本部伺 下兵其他一般死傷患者救護ノ醫官看病卒附属シ置レ度ノ事 二十二
- 憲兵本部伺 憲兵隊醫官へ看病人看病卒各一人宛テ附属シ置レ度ノ事 二十二
- 憲兵本部伺 本務ヨリ下級ノ職ヲ代理ノ者本務相當ノ増俸支給致度事 二十三
- 長野縣伺 徴兵免否調方ノ事 二十三
- 東京砲兵工廠伺 村田銃用彈丸製造方ノ事 二十三
- 廣嶋縣伺 徴兵免否ノ事 二十四
- 高知縣伺 徴兵検査呼出ノ節發病者醫員診斷書ノ件 二十五
- 埼玉縣伺 徴兵免否ノ事 二十六

- 東京鎮臺伺 常備補充兵ノ事 二十六
- 東京鎮臺伺 豫備軍艦員外國へ旅行或ハ滞在ノ事 二十六
- 工兵第二方面伺 埋葬地番人設置并地所撰定ノ事 二十七
- 陸軍軍馬局伺 競馬場ヨリ寄附金請求ノ事 二十七
- 鹿兒嶋縣伺 徴兵醫員及筆生身分取扱ノ事 二十八
- 千葉縣伺 徴兵免否ノ事 二十八
- 滋賀縣伺 徴兵取調ノ事 二十八
- 陸軍士官學校伺 士官生徒修學中下士ノ職務ヲ帶フ者手當金ノ事 二十九
- 東京鎮臺伺 隊附下士へ年功加俸支給方ノ事 三十二
- 廣島縣伺 單身附籍者徵集地ノ事 三十二
- 福井縣伺 縣立病院生徒平時免役并徵集猶豫ノ事 三十三
- 埼玉縣伺 徴兵免否ノ事 三十三
- 全縣伺 軍人處刑游歸隊者へ旅費採替返戻ノ事 三十四
- 大坂鎮臺伺 隊馬疾病ノ節飼料ヲ大豆其他ノ品ニ換用ノ事 三十四
- 熊本鎮臺伺 沖繩長崎分遣隊歸營後休暇ノ事 三十四
- 憲兵本部伺 各屯所へ馬匹備付ノ事 三十五
- 嶋根縣伺 博覽會賞牌及褒狀寫製造品へ附着ノ事 二十九
- 高知縣伺 學務委員隣村兼務ノ事 三十五
- 長崎縣伺 學校教員ノ卒業證書沒收並返附ノ事 三十五
- 越前區伺 皇城接近ノ場所へ商業開店ノ事 三十



深川區伺 建物讓渡公證ノ事  
麴町區伺 納稅切符記入方ノ事

三十一  
三十一

附

錄 都鄙日乘

自明治十四年十二月二十五日  
至明治十五年一月十五日

目錄畢

官令全報第六十六號

明治十五年  
第一一月

弘令社發兌

勅諭寫

我國の軍隊は世々天皇の統率し給ふ所にそある昔神武天皇躬つから大伴物部の兵どもを率ゐ中國のまつろはぬものともを討ち平々給ひ高御座に即かせられて天下しろまめし給ひしより二千五百有餘年を経ぬ此間世の權の移り換るに隨ひて兵制は沿革も亦屢なりた古は天皇躬つから軍隊を卒の給ふ御制にて時ありては皇后皇太子の代らせ給ふこともありつれど大凡兵權を臣下に委ね給ふことはあかりき中世又至たりて文武の制度皆唐國風に倣はせ給ひ六衛府を置き左右馬寮を建て防人おと設けられしかは兵制は整ひたれども打續ける昇平に狂れて朝廷は政務も漸文弱に流れれば兵農おのつから二に分れ古の徴兵はいつとなく壯兵の姿に變り遂に武士となり兵馬の權は一向に其武士どもの棟梁たる者に歸し世の亂と共に政治の大權も亦其手に落ち凡七百年の間武家の政治とはありぬ世の權の移り換りて斯なれるは人力もて挽回をへきよあらそとはいひなから且は我國體に戻り且は我祖宗の御制を背き奉り淺間まき次第なりき降りて弘化嘉永の頃より徳川の幕府其政衰へ剩外國は事とも起りて其侮をも受たりぬへき勢に迫りたりれ之朕か皇祖仁孝天皇皇考孝明天皇いたく宸襟を惱し給ひしこそ忝くも又惶々然るに朕幼くして天津日嗣を受たり初征夷大將軍其政權を返上し大名小名其版籍を奉還し年を経ずして海内一統の世とあり古の制度に復しぬ是文武の忠臣良將ありて朕を輔翼せる功績あり歴世祖宗の專養生を憐れ給ひし御遺澤ありといへとも併我臣民の其心に順逆の理を辨へ大義の重きを知れるか故おこそあれされぬ此時に於て兵制を更め



我國の光を耀さんと思ひ此十五年の程に陸海軍の制を以て今の様に建定めぬ夫兵馬の大權は朕が統ふる所あり其司々をこぞ臣下に任すなれ其大綱は朕親之を攬り肯て臣下よ委ぬべきものにあらす子々孫々に至るまで篤く斯旨を傳へ天子は文武の大權を掌握するの義を存して再中世以降の如き失體なからんことを望むあり朕は汝等軍人の大元帥なるをされ朕の汝等を股肱と頼み汝等の朕を頭首と仰きてそ其親と特と深あるべき朕が國家を保護して上天の惠を應じ祖宗の恩に報いせむらする事を得るも得ざるも汝等軍人か其職を盡すと盡さざるに由るをわし我國の稜威振はさることあらは汝等能く朕と其憂を共よせよ我武維揚りて其榮を耀さし朕汝等と其譽を借すべし汝等皆其職を守り朕と一心となりて力を國家の保護に盡さし我國の蒼生は永く大平に福を受け我國の威烈は大に世界の光華ともありぬへし朕斯も深く汝等軍人に望むされは猶訓諭すべき事こそあれいてや之を左に述へむ

一軍人の忠節を盡すと本分とすべし凡生を我國に稟くるもの誰うは國を報ゆるの心なるべき況して軍人たらん者は此心の固からて物の用も立ち得へしとも思はれず軍人にして報國の心堅固ならざるは如何程技藝も熟し學術に長するも猶偶人にひとしかるへま其隊伍も整ひ節制も正くとも忠節を存せざる軍隊の事は臨みて烏合の衆に同ぐるべし抑國家を保護し國權を維持するの兵力に在れば兵力の消長は是國運の盛衰あることを辨へ世論を感せず政治は拘らず只一途ま己か本分の忠節を守り義の山嶽よりも重く死の鴻毛よりも輕しと覺悟せよ其操を破りて不覺を取り汚名を受るなけれ

一軍人は禮儀を正くすべし凡軍人より上元帥より下一卒に至るまで其間に官職の階級ありて統屬するのさならず同列同級とても停年に新舊あれは新任の者は舊任のものに服従とべきものそ下級のものは上官の命を承ること實の直に朕か命を承る義なり

と心得よ己の隷屬する所にあらずとも上級の者の勿論停年の己より舊きものに對しての總て敬禮を盡すへま又上級の者は下級のものに向ひ聊も輕侮驕傲の振舞あるべからん公務の爲は威嚴を主とする時は格別なれとも其外は務めて懇に取扱ひ慈愛を專一と心掛け上下一致とて王事小勤勞せよ若軍人たるものよまて禮儀を紊り上を敬いす下を惠ますまて一致の和諧を失ひたらんは皆軍隊の蠱毒たるのみりの國家の爲もゆるま難き罪人あるべし

一軍人の武勇を尙ふへま夫武勇は我國にては古よりいとも貴へる所なれ我國の臣民たふんもの武勇あるては叶ふまじ況して軍人の戰に臨み敵に當る職あれば片時も武勇を忘れてよかるべきやさのあれ武勇に大勇あり小勇ありて同らる血氣にのやり粗暴の振舞ふとせんは武勇とい謂ひ難し軍人たふむもの常に能く膽力を練り思慮を彈きて事を謀るべし小敵たりとも侮らず大敵たりとも懼れず己の武職を盡さむこそ誠の大勇のありは武勇を尙ふもの常に人と接するは温和を第一とし諸人の愛敬を得むと心掛けよ由るべき勇を好きて猛威を振ひたらは果は世人も忌嫌ひて豺狼などの如く思ひあむ心すべきことにて

一軍人は信義を重すべし凡信義を守ること常の道にはわれどわきて軍人は信義を重くして一日も隊伍の中に交りてあらんこと難かるべし信とい己の言を踐行ひ義とい己か分を盡すといふなりされ信義を盡さむと思ひ、始より其事の成し得へしか得へらざるのを審は思考すべし臆氣ある事を假初に諾ひてよしなは關係を結ひ後ま至りて信義を立てんとすれは進退谷りて身の措き所も苦むことあり悔もとも其詮あし始ま能々事の順逆を辨へ是非を考へ其言は所詮踐むべからんと知り其義はとても守るべからずと悟りあり速に止るこそよけれ古より或は小節の信義を立てんとて大綱の



順逆を誤り或ハ公道の理非ヲ踏迷ひて私情の信義ヲ守りあたら英雄豪傑ともう禍ヲ遭ひ身ヲ滅し屍の上の汚名を後世まで遺せること其例尠らぬものを深く警めてや  
あるべき

一軍人の質素を旨とせし凡質素を旨とせされバ文弱ヲ流レ輕薄ヲ趨リ驕奢華靡の風  
と好み遂ハ貪汚に陥リて志も無下に賤くなり節操も武勇も其甲斐なく世人ハ爪は  
まきせらるゝ迄に至りぬへし其身生涯の不幸なりといふも中々愚なり此風一たび軍  
人の間に起りてハ彼の傳染病の如く蔓延ス士風も兵氣も頓に衰へぬハきを明あり朕  
深く之を懼れて曩に免黜條例を施行し略此事を誡め置つれと猶も其惡習の出んことを  
患ひて心安からぬハ故に又之を訓ふるをかま汝等軍人ゆめ此訓誡を等閑に思ひそ  
右の五ヶ條ハ軍人たらんもの暫も忽にすへからとさて之を行んにハ一の誠心こそ大  
切かれ抑此五ヶ條之我軍人の精神よまて一の誠心ハ又五ヶ條の精神なり心誠ならされ  
ハ如何なる嘉言も善行も皆らはへの裝飾にて何の用にかは立つべき心たよ誠あれば何  
事も成るものぞかし況えてや此五ヶ條は天地の公道人倫の常經あり行ひ安く守り易ま  
汝等軍人能く朕か訓に遵ひて此道ヲ守り行ひ國ヲ報ゆるの務を盡さハ日本國の蒼生舉  
りて之を悦びん朕一人ハ憚のみならんや

明治十五年一月四日

御名

〔第六拾八號〕 (輪廓附)

明治十五年郵便規則及ヒ罰則ハ明治十四年郵便規則及ヒ罰則ヲ相用ヒ右規則中別紙ノ  
通改正ス

右奉 勅旨布告候事

明治十四年十二月廿六日

太政大臣三條實美  
農商務卿西郷從道  
(別紙寄ス)

〔第六拾九號〕 (輪廓附)

陸軍刑法別冊ノ通改定シ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

右奉 勅旨布告候事

明治十四年十二月二十八日

太政大臣三條實美  
陸軍卿 大山 巖

〔第七拾號〕 (輪廓附)

海軍刑法別冊ノ通改定シ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

右奉 勅旨布告候事

明治十四年十二月二十八日

太政大臣三條實美  
海軍卿 川村純義

〔第七拾壹號〕

(別冊ハ一ノ冊ヲナシタルモノニシテ本号ニ掲載スル能ハス故ニ附録ニ全載ス)



治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開ク時ハ當分ノ内其所在ノ地警部ヲシテ檢事ノ職務ヲ代理セシム

右奉 勅旨布告候事 明治十四年十二月二十八日

太政大臣三條實美 司法卿 大木喬任

第六十七號

明治十五年一月一日ヨリ刑法施行候ニ付法律規則中罰例ニ係ルモノハ左ノ例ニ照シテ處斷スヘシ

- 第一條 凡懲役ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス
- 第二條 凡禁獄及ヒ禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス
- 第三條 凡罰金及ヒ科料ハ二圓以上ヲ罰金ニ處シ一圓未満ヲ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第四條 法ニ照シ律ニ照シ若クハ違令違式ニ照シ處斷ストアリ及ヒ谷川申付トアルハ總テ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第五條 法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス
- 第六條 法律規則中罰例アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依テ處斷ス
- 第七條 前數條ノ罪ヲ犯シ拘留科料ニ處スル者ト雖モ輕罪裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス但始審裁判所々在ノ地ヲ除ク外ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルヲ得

右奉 勅旨布告候事 明治十四年十二月二十八日

太政大臣三條實美 司法卿 大木喬任

第七十三號

活罪法ニ於テ無能力者法律ニ定メタル代人及ヒ民事擔當人ト稱スル者ハ左ノ通無能力者

- 一未丁年者 二妻タル者 三白痴癡癩人 四治産ノ禁ヲ受ケタル者
- 法律ニ定メタル代人
- 一未丁年者ノ父若クハ母又ハ親屬後見人 二夫タル者 三白痴癡癩人ノ保管者 四治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ財産管理人
- 民事擔當人
- 一未丁年者ノ父若クハ母又ハ同居ノ親屬ニシテ監督ヲ爲ス者 二夫タル者 三白痴癡癩人ノ保管者 四雇主 但雇人其雇主ノ命シタル事件ヲ行フ時

右奉 勅旨布告候事 明治十四年十二月二十八日

太政大臣三條實美 司法卿 大木喬任

第七拾五號 (輪廓附)

西洋形船船長運轉手機關手免狀規則別冊之通改定來十五年一月一日ヨリ施行シ九年(六月)第八十二號同年(六月)第九十四號同年(十二月)第一百五十三號同年(十二月)第一百五十七號十三年(十二月)第五十八號十四年(二月)第十三號同年(三月)第十八號布告ハ同日ヨリ都テ之ヲ廢止ス

右奉 勅旨布告候事 明治十四年十二月廿八日

太政大臣三條實美 農商務卿西鄉從道



西洋形船々長運轉手免狀規則

此規則ハ海軍諸艦ニ關セサルモノトス

此規則中内國航船ト稱スルハ支那朝鮮ノ間ニ於ケル鴨綠江ヨリ露領黑龍江ニ至ルノ沿岸及ヒ薩俄噠諸港ニ航スルモノモ亦包含ス

第一條 船長、運轉手、機關手ノ職ヲ執ル者ハ此規則ニ遵ヒ其職ニ應スル等級ノ免狀ヲ農商務卿ヨリ受ケ之ヲ所持スヘシ

第二條 免狀ハ甲乙及ヒ小形船機關手ノ三種トナシ又甲乙ノ兩種トモ船長、一等運轉手、二等運轉手、一等機關手、二等機關手ノ五ニ分チ各々試驗規程ニ從ヒ及第セシ者ニ授與スヘシ

第三條 試驗ノ規程ハ第壹號布達ニ據ルヘシ

第四條 高等ノ免狀ハ下等ノ免狀ニ代用スルヲ得下等ノ免狀ハ高等ノ免狀ニ代用スルヲ得ス

甲種船長ノ免狀ハ乙種船長ノ免狀ニ對シ高等ノ効力ヲ有シ運轉手、機關手ノ免狀ニ於ケルモ亦同シ

乙種二等運轉手ノ免狀ハ從前ノ小形船船長ノ免狀ニ對シ高等ノ効力ヲ有シ乙種二等機關手免狀ノ小形船機關手免狀ニ於ケルモ亦同シ

第五條 從前授與シタル本免狀ハ甲種免狀ト同一ノ効力ヲ有シ又假免狀ハ當分ノ内乙種免狀ニ代用スルヲ得

從前授與シタル小形船々長ノ免狀ハ其効力ヲ存シ又從前ノ小形船機關手ノ免狀ハ當分ノ内本則ノ小形船機關手免狀ニ代用スルヲ得

第六條 免狀ノ書換又ハ再授ヲ請フトキハ手數料金壹圓ヲ納ムヘシ但シ再授ヲ請フ者

ハ二名以上ノ證人ヲ要ス

第七條 免狀ハ其筋吏員ノ指圖ニ應シ何時タリトモ其檢査ヲ受クヘシ

第八條 甲種免狀試驗課程ニ合格スト認メタル外國政府ノ本免狀ヲ所持セル船長、運轉手、機關手ハ更ニ試驗ヲ要セス原免狀同等ノ免狀ヲ授與スヘシ

第九條 左ニ三項ニ記載スル各船ハ其所用ノ區別及ヒ登簿噸數、公稱馬力ノ限度ニ從ヒ應等若シハ高等ノ免狀ヲ受有スル職員ヲ乘組マシムヘシ

第一項 三百噸未満 外國航船 甲種免狀船長 一名以上

二百噸以上 同 甲種免狀船長 一等運轉手 同

一百馬力未満 同 同 二等運轉手 同

一百馬力以上 同 同 一等機關手 同

第二項 三百噸以上 內國航船 乙種免狀船長 同

三百噸未満 同 同 一等運轉手 同

五百噸以上 同 同 船長 同

五百噸未満 同 同 一等運轉手 同



二拾馬力以上 同 乙種免狀二等機關手 同

五拾馬力以上 同 乙種免狀一等機關手 同

一百馬力未滿 同 若シハ甲種免狀二等機關手 同

一百馬力以上 同 甲種免狀一等機關手 同

同 二等機關手 同

第三項

二十噸(瀛船ハ)以上 同 乙種免狀二等運轉手 同

一百噸未滿 同 若クハ從前ノ小形船船長 同

二拾馬力未滿 同 小形船機關手 同

二拾馬力未滿 港内若クハ湖川用 小形船機關手 同

但シ二十馬力以上ノモノハ第二項ニ準ヒ機關手ヲ乘組マレムヘシ

前記各項ニ從ヒ應等若クハ高等ノ免狀ヲ受有セス或ハ禁止ニ係リ受有シ能ハス

シテ其職ヲ執リ出航スル者及ヒ之ヲシテ其職ヲ執ラシメ又ハ其職員ヲ減シテ出航セ

ムル者ハ各貳圓以上貳百五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第十條 農商務卿ハ船長、運轉手、機關手ノ技術劣等ニシテ其職ヲ執ルニ不適當ナリト

考察スルトキ又ハ左ニ掲クル事項ニ於テハ其筋吏員ヲシテ之ヲ審問セシメ其免狀ノ

使用ヲ停止シ或ハ禁止スルコトアルヘシ

第一 亂醉、粗暴其他ノ不品行若クハ指揮ニ悖戻シ又ハ職務ニ怠ル者

第二 失錯又ハ不當ノ所爲ニ由テ船ヲ失ヒ或ハ棄テ或ハ之ニ大損害ヲ生シ又ハ人命

ヲ害ヒ或ハ大傷痕ヲ被ラシメシ者

第三 輕罪以上ノ刑ニ處セラレタル者

第十一條 前條審問中檢察官又ハ被害者ヨリ裁判所ニ出訴スルキハ農商務卿其審問ヲ

中止シ裁判確定ヲ竣テ之ヲ處分スヘシ

第十二條 免狀ノ使用ヲ停止シ或ハ禁止スルトキハ農商務卿其免狀ヲ取揚クヘシ若シ

之ヲ拒ムモノハ貳圓以上貳百五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

但シ第九條末項ノ罪ト俱ニ發スルキハ罰金ヲ並ヒ科スヘシ

第十三條 免狀使用ノ停止或ハ禁止ノ處分ニ服ヒサル者ハ其筋へ上訴スルコトヲ得ヘシ

第十四條 免狀ノ使用ヲ禁止シタル者ト雖モ一ケ年ノ後ニ至リ農商務卿ノ考察ヲ以テ

更ニ相當ノ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

(備考) 明治九年六月六日第八十二號第九十四號御布告(全報十五號明九六月之節初

葉十五葉)○九年十二月十二日第百五十二號第百五十七號御布告(全報五號四

十九葉九十三葉)○十三年二月廿八日第五十八號御布告(全報五十四號廿四葉

)○十四年二月十七日第十三號御布告(全報五十九號五十二葉)○十四年三月

廿二日第十八號御布告(全報五十六號七十九葉)○本日第壹號御布達(本號下

ニ載ス)參觀

第七拾六號 (輪廓附)

本年(十月)第五十三號布告裁判所名稱區畫表始審ノ行中相川豐岡洲本田邊脇町高山西

郷平戸福江嚴原天草大曲八戸ノ名稱ヲ削除シ其管轄ハ相川ヲ新瀉ニ豐岡ヲ姫路ニ洲本

ヲ神戶ニ田邊ヲ和歌山ニ脇町ヲ徳島ニ高山ヲ岐阜ニ西郷ヲ松江ニ平戸福江嚴原ヲ長崎

ニ天草ヲ熊本ニ大曲ヲ秋田ニ八戸ヲ弘前ニ合併ス



右奉 勅旨布告候事

明治十四年十二月二十八日

太政大臣三條實美  
司法卿 大木喬任

(備考)十四年十月十六日第五十三号御布告(全報六十三號十五葉)參觀

〔第七拾七號〕(輪廓附)

本年(十月)第五十四號ヲ以テ輕罪ニシテ豫審ヲ要セサルモノニ限リ治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開クヲ得ヘキ旨布告候處當分ノ内相川豐岡洲本田邊脇町高山西郷平戸福江嚴原天草大島大曲八戸ノ各治安裁判所ニ於テハ輕罪裁判所ヲ開キ總テノ輕罪ヲ裁判スルコトヲ得ヘシ

但本文ノ場合ニ於テ訟庭内治罪ノ手續等ハ本年第五十四號布告但書ノ通タルヘシ  
右奉 勅旨布告候事

明治十四年十二月二十八日

太政大臣三條實美  
司法卿 大木喬任

(備考)十四年十月十六日第五十四號御布告(全報第六十三號二十九葉)參觀

〔第七拾八號〕(輪廓附)

重罪裁判所管轄區畫別紙ノ通相定メ明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

但治罪法第七拾二條ニ從ヒ管内便宜ノ裁判所ニ於テ一ヶ所又ハ數ヶ所開臨スヘシ  
右奉 勅旨布告候事

明治十四年十二月廿八日

太政大臣三條實美  
司法卿 大木喬任

重罪裁判所管轄

東京重罪裁判所	管轄	東京始審裁判所管轄ノ地方
神奈川重罪裁判所	同	橫濱始審裁判所管轄ノ地方
新潟重罪裁判所	同	新潟 高田 長岡 新發田始審裁判所管轄ノ地方
埼玉重罪裁判所	同	浦和 熊谷始審裁判所管轄ノ地方
千葉重罪裁判所	同	千葉 木更津始審裁判所管轄ノ地方
栃木重罪裁判所	同	栃木宇都宮始審裁判所管轄ノ地方
群馬重罪裁判所	同	前橋始審裁判所管轄ノ地方
茨城重罪裁判所	同	水戸 土浦始審裁判所管轄ノ地方
山梨重罪裁判所	同	甲府始審裁判所管轄ノ地方
静岡重罪裁判所	同	静岡 濱松始審裁判所管轄ノ地方
長野重罪裁判所	同	松本 長野 上田始審裁判所管轄ノ地方
大坂重罪裁判所	同	大坂 堺 奈良始審裁判所管轄ノ地方
京都重罪裁判所	同	京都 園部 宮津始審裁判所管轄ノ地方
兵庫重罪裁判所	同	神戸 姫路始審裁判所管轄ノ地方
和歌山重罪裁判所	同	和歌山始審裁判所管轄ノ地方
滋賀重罪裁判所	同	大津 彦根始審裁判所管轄ノ地方
德島重罪裁判所	同	德島始審裁判所管轄ノ地方
岡山重罪裁判所	同	岡山 津山始審裁判所管轄ノ地方
福井重罪裁判所	同	福井始審裁判所管轄ノ地方
石川重罪裁判所	同	金澤 富山 七尾始審裁判所管轄ノ地方



高知重罪裁判所 管轄 高知 中村始審裁判所管轄ノ地方  
 愛媛重罪裁判所 同 松山 高松 宇和島始審裁判所管轄ノ地方  
 長崎重罪裁判所 同 長崎佐賀始審裁判所管轄ノ地方  
 福岡重罪裁判所 同 福岡始審裁判所管轄ノ地方  
 熊本重罪裁判所 同 熊本始審裁判所管轄ノ地方  
 大分重罪裁判所 同 大分中津始審裁判所管轄ノ地方  
 鹿兒島重罪裁判所 同 鹿兒島宮崎始審裁判所管轄ノ地方 沖繩縣管轄ノ地方  
 函館重罪裁判所 同 函館始審裁判所管轄ノ地方 地方開拓使(札幌根室)本支廳管轄ノ地方  
 青森重罪裁判所 同 弘前始審裁判所管轄ノ地方  
 愛知重罪裁判所 同 名古屋 岡崎始審裁判所管轄ノ地方  
 岐阜重罪裁判所 同 岐阜始審裁判所管轄ノ地方  
 三重重罪裁判所 同 安濃津 山田始審裁判所管轄ノ地方  
 宮城重罪裁判所 同 仙臺始審裁判所管轄ノ地方  
 福島重罪裁判所 同 福島 若松 平 白川始審裁判所管轄ノ地方  
 磐手重罪裁判所 同 盛岡 磐井始審裁判所管轄ノ地方  
 山形重罪裁判所 同 山形 米澤 酒田始審裁判所管轄ノ地方  
 秋田重罪裁判所 同 秋田始審裁判所管轄ノ地方  
 廣嶋重罪裁判所 同 廣嶋 尾道始審裁判所管轄ノ地方  
 山口重罪裁判所 同 山口始審裁判所管轄ノ地方  
 島根重罪裁判所 同 松江 濱田始審裁判所管轄ノ地方  
 鳥取重罪裁判所 同 鳥取 米子始審裁判所管轄ノ地方

〔第七拾九號〕 (輪廓附)

各裁判所ノ位置及管轄區畫ノ儀本年(十月)第五十三號ヲ以テ布告候處北海道(函館始審裁判所管内ヲ除ク)并ニ沖繩縣ノ儀ハ當分從前ノ通其所轄ノ官廳ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜ノ取計ヲ爲スヘシ  
 但控訴ノ儀北海道ハ函館控訴裁判所沖繩縣ハ長崎控訴裁判所ノ管轄ニ屬ス  
 右奉 勅旨布告候事  
 明治十四年十二月二十八日  
 太政大臣三條實美  
 司法卿 大木喬任

〔第八拾號〕 (輪廓附)

本年(九月)第四十八號布告左ノ通改正ス  
 違警罪ノ儀ハ本年第三十六號布告ニ據リ明治十五年一月一日ヨリ治安裁判所ニ於テ裁判スヘキ處當分ノ内府縣警察署及ヒ其分署ニ於テ裁判セシムヘシ  
 右奉 勅旨布告候事  
 明治十四年十二月二十八日  
 太政大臣三條實美  
 司法卿 大木喬任

〔第八拾壹號〕 (輪廓附)

(備考)十四年九月廿日第四十八號御布告(全報六十二號五十二葉)參觀  
 刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照スルニハ左ニ從フヘシ  
 第一條 新舊法比照スルニハ左ノ如シ  
 新法  
 舊法



一 死刑 斬絞  
 二 無期徒刑 懲役終身  
 三 有期徒刑 禁獄終身  
 四 無期徒刑 懲役十年  
 五 有期徒刑 懲役七年  
 六 重懲役 懲役十年  
 七 輕懲役 懲役七年  
 八 重禁獄 禁獄十年  
 九 輕禁獄 禁獄七年  
 十 重禁錮 懲役十一年以上五年以下  
 十一 輕禁錮 禁獄鎖錮十一年以上五年以下  
 十二 罰金 贖罪收贖罰金料二圓以上  
 十三 拘留 懲役禁獄鎖錮拘留十日以下  
 十四 科料 贖罪收贖罰金料二圓未滿

第二條 舊法ノ刑期新法主刑ノ刑期內ニ在ル時ハ新法ニ從フ但舊法ノ刑期ニ過クルヲ得ス(舊法ニ於テ懲役百日ニ該ル者新法ニ照シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ二月以上百日以下ノ重禁錮ニ處スルノ類)

若シ舊法ノ刑期新法主刑ノ短期ニ等シクシテ舊法ニ定テ新法ニ定テアル時ハ舊法ニ從フ法ニ從テ(舊法ニ於テ禁獄三十日ニ該ル者新法ニ照ラシ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ舊法ニ從ヒ禁獄三十日ニ處スルノ類)

第三條 舊法新法ノ刑共ニ短期長期アル者ハ其短期ノ短キ者ニ從フ但其長期ノ短キ者

ニ過ルヲ得ス(舊法ニ於テ一年以上三年以下ノ懲役ニ該ル者新法ニ照ラシ三月以上四年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處スルノ類)

若シ舊法新法ノ刑其短期等シクシテ舊法ニ定テ新法ニ定テアル時ハ舊法ニ從フ(舊法ニ於テ二月以上三年以下ノ禁獄ニ該ル者新法ニ照ラシ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ舊法ニ從ヒ二月以上二年以下ノ禁獄ニ處スルノ類)

第四條 舊法ノ贖罪收贖若シハ罰金科料ノ金額新法主刑ノ金額內ニ在ル時ハ新法ニ從フ但舊法ノ金額ニ過クルヲ得ス

第五條 舊法新法ノ罰金科料共ニ多數寡數アル者ハ其寡數ノ寡キ者ニ從フ但其多數ノ寡キ者ニ過クルヲ得ス

第六條 舊法ニ於テ單ニ體ニ刑該ル者新法ニ於テ罰金ヲ附加ス可キ時ハ其罰金ヲ附加セズ

第七條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金科料ニ該ル時ハ新法ニ從フ

第八條 舊法ニ於テ贖罪收贖若シハ罰金科料ニ該ル者新法ニ照シ體刑ニ該ル時ハ舊法ニ從フ

一圓ヲ一日ニ折算シ輕禁錮又ハ拘留ニ換フ但一圓未滿ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

第九條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ重罪ノ刑ニ處スル時ハ新法ノ附加刑ヲ適用セズ但除族追奪位記沒收ノ類ハ舊法ニ從フ

第十條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ禁錮ノ刑ニ處スル時ハ監視ヲ附加セズ

第十一條 華士族ノ犯罪新法ニ於テ輕罪ニ該ル者舊法ニ從ヒ處斷スル時ハ其族ヲ除セズ

第十二條 新法ト舊法トナ比照スルニハ各其本法ニ照シ加減シタル者ヲ以本刑ト爲ス



第十三條 舊法ニ於テ棒鎖ニ該ル者ハ仍ホ棒鎖ニ處ス  
右奉 勅旨布告候事

明治十四年十二月二十八日

太政大臣三條實美  
司法卿 大木喬任

〔第八拾二號〕 (輪廓附)

大審院各裁判所ニ於テ明治十四年十二月三十一日以前審理ニ着手セシ刑事ハ十五年一月一日以後ト雖モ治罪法ニ拘ハラヌ仍ホ從前ノ規則ニ從ヒ處分スヘシ  
右奉 勅旨布告候事

明治十四年十二月廿八日

太政大臣三條實美  
司法卿 大木喬任

〔第八拾三號〕 (輪廓附)

治安裁判所及ヒ始審裁判所ノ權限左ノ通制定ス  
右奉 勅旨布告候事

明治十四年十二月廿八日

太政大臣三條實美  
司法卿 大木喬任

第一條 治安裁判所ハ訴訟事件ヲ勸解ス但諸官廳ニ對スル事件及ヒ商事ニ係リ急速ヲ要スル事件ハ勸解スルノ限ニ在ラス  
第二條 治安裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓未滿ノ訴訟ニ付始審ノ裁判ヲ爲ス  
第三條 治安裁判所ハ人事其他金額ニ見積ル可カラサルモノヲ裁判スルヲ得ス  
第四條 始審裁判所ハ請求ノ金額及ヒ價額百圓以上並ニ第三條ニ掲ケタル治安裁判所

權外ノ訴訟ニ付始審ノ裁判ヲ爲ス  
第五條 始審裁判所ハ其管轄地内ノ治安裁判所ノ始審裁判ニ對スル控訴ニ付終審ノ裁判ヲ爲ス  
但控訴ノ手續ハ明治十年第拾九號布告控訴手續ニ照準スヘシ

〔第一壹號〕 (輪廓附)

今般第七十五號(本號前ニ全載ス)ヲ以テ西洋形船船長運轉手機關手免狀則規改定ニ付別冊ノ通試驗規程ヲ定ム  
右布達候事

明治十四年十二月廿八日

太政大臣三條實美  
農商務卿西鄉從道

西洋形船々長運轉手機關手試驗規程  
第一條 凡ソ此規程ニ從テ試驗ヲ願フ者ハ受験ノ當日ヨリ二日以前ニ其履歷書及ヒ性行善真ナルノ保證書ヲ添ヘ願書ヲ試驗所ヘ出スヘシ  
但シ願書用紙ハ試驗所ヨリ附與スヘシ  
第二條 定時試驗ハ毎月第二火曜日東京試驗所ニ於テ之ヲ開クヘシ若シ開カサルトキハ農商務省ヨリ其旨ヲ十五日前ニ廣告スヘシ  
第三條 試驗願書ヲ出ストキ左ニ掲載セル試驗料ヲ前納スヘシ  
甲種免狀

- 船長 七圓
- 一等運轉手 五圓
- 二等運轉手 三圓
- 一等機關手 七圓
- 二等機關手 五圓



乙種免狀

- 船長 五圓 一等運轉手 三圓
- 二等運轉手 二圓 一等機關手 五圓
- 二等機關手 三圓
- 小形船機關手免狀 二圓

小形船機關手

二圓

第四條 定日外ダリトモ別段手數料トシテ金五圓ヲ納メ臨時試驗ヲ願フトキハ東京ニ限リ司驗官ノ都合ニ因テ之ヲ許スコトアルヘシ

第五條 船長、運轉手、機關手免狀規則第八條ニ從ヒ甲種免狀ヲ請願スル者ハ本途試驗料ノ半額ヲ納ムヘシ

第六條 甲種免狀ヲ受有スヘキ受験人ハ左ニ記載セル各款ニ從ヒ履歴アルモノニシテ其試驗問題ニ應答ススシ

二等運轉手

二等運轉手ノ受験人ハ十九歲以上ニシテ少クトモ四ヶ年間西洋形航洋船ノ運航ニ從事セシ者又ハ司驗官ノ允當ト見認ムル學校ニ於テ航海運用學卒業ノ上少クトモ三ヶ年間西洋形船ノ運航ニ從事セシモノトス

試驗問題

- 通常文書ノ記載
- 加減乗除及ヒ對數ノ用方
- 航海日誌ニ記セル前日ノ正午ヨリ當日ノ正午マデノ航路、航程ニ羅鍼ノ偏差、自差、風壓、流潮ヲ加減シテ本船所在ノ經緯度及ヒ直航距離方位ヲ知ルノ算法

○起程、已達兩所ノ經緯度ヲ以テ瑪氏航法及ヒ中分緯度航法ニ據リ航路、航程ヲ知ルノ算法

- 太陽子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ルノ算法
- 太陽出沒方位ニ據リ羅鍼ノ誤指ヲ知ルノ算法
- 六分儀ノ用方
- 航海日誌ノ記載方
- 索具ノ取付及ヒ取脱方
- 揚帆、卸帆、縮帆ノ方法
- 順轉、逆轉及ヒ諸帆ヲ整頓スルノ方法
- 船貨積載ノ方法
- 測程線ノ尺度其用方及ヒ沙漏ノ時限
- 大小測鉛ノ重量其線ノ尺度符號及ヒ其用方
- 萬國信號法
- 海上衝突豫防規則
- 海員雇入雇止規則
- 壹等運轉手
- 壹等運轉手ノ受験人ハ二十一歲以上ニシテ少クトモ一ヶ年間登簿噸數一百以上ノ航洋船ニアリテ二等運轉手ノ免狀ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス
- 試驗問題 二等運轉手ノ試驗問題ヲ合セ
- 太陽方位角ニ據リ羅鍼ノ誤指ヲ知ルノ算法
- 潮時ノ算法



- 時辰儀ト太陽高度トニ據リ經度ヲ知ルノ算法
- 岬角、燈臺等ノ方位ヲ測リ或ハ經緯度ニ據リ海圖ニ本船所在ノ位置ヲ記シ又偏差、自差ヲ加減シテ鍼路ヲ定メ航程ヲ求ムルノ方法
- 六分儀、動鏡、地平鏡等ノ位置ヲ正シ又太陽及ヒ地平線ニ據リ器差ヲ求ムルノ方法
- 錨泊、放泊ノ方法
- 風潮ノ變化ニ際シ放泊船ヲ安全ニ所置スルノ方法
- 出入港運轉ノ方法
- 櫓ヲ立ルノ方法
- 重貨積載ノ方法
- 暴風ノ際船ヲ運轉シ或ハ不慮ノ災害ニ臨ミ之ヲ處置スルノ方法
- 日本海岸ノ地勢

船長

船長ノ受驗人ハ二十三歳以上ニシテ少クトモ一ケ年間登簿噸數一百以上ノ航洋船ニアリテ一等運轉手ノ免狀ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス

試驗問題

- 二等及一等運轉手ノ試驗問題ヲ合セ
- 子午線ニ近キ太陽ノ高度ニ據リ緯度ヲ知ルノ算法
- 星象子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ルノ算法
- 地平儀ヲ用ヒテ測リタル太陽高度ノ改正
- 各種ノ方法ニ據リ本位羅鍼ノ自差ヲ定メ及ヒ那氏ノ式ニ從テ其圖ヲ製スルノ方法
- 難破ノ際人命ヲ救助スルノ方法
- 颶風ノ解明及ヒ之ヲ避ルノ方法

二等機關手

二等機關手ノ受驗人ハ二十一歳以上ニシテ少クトモ四ケ年間公稱馬力五十以上ノ航洋船ニアリテ機關運轉ニ從事セシ者又ハ同職官ノ允當ト認ムル蒸機製造所ニアリテ少クトモ三ケ年間蒸機及ヒ機關ノ製造又ハ修繕ニ從事シ且少クトモ一ケ年間公稱馬力五十以上ノ航洋船ニアリテ機關運轉ニ從事セシモノトス

試驗問題

- 通常文書ノ記載
- 加減乗除及ヒ比例法
- 機關室日誌ノ記載方
- 馬力ノ解明及ヒ算法
- 唧筒ニテ排出スル水量ヲ知ルノ算法
- 安全瓣ノ種類、効用及ヒ算法
- 蒸機及ヒ機關ノ檢査并所置
- 蒸機各種ノ解明及ヒ其固定法
- 瓣嘴ノ効用及ヒ諸管接合ノ方法
- 外輪及ヒ螺旋用高壓、低壓及ヒ聯成機關ノ解明及ヒ其運轉ノ方法
- 蒸機及ヒ機關ノ損所ヲ修繕スルノ方法
- 蒸機及ヒ機關ニ属スル諸器ノ効用及ヒ用法
- 沸溢、擦熱ヲ起スノ原因ヲ熟知シ及ヒ之ヲ回復スルノ方法
- 驗温器、驗氣器、驗油器ノ効用及ヒ用法

一等機關手

一等機關手ノ受驗人ハ二十三歳以上ニシテ少クトモ一ケ年公稱馬力五十以上ノ航洋船



- アリテ二等機關手ノ免狀ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス
- 試驗問題 二等機關手ノ試驗問題ヲ合セ
- 而体ノ求積及ヒ開平法
- 瀛鐘ノ強弱ヲ知ルノ算法
- 膨脹力ノ效用及ヒ算法
- 指感器ノ用方及ヒ之ニ係リ實馬力ヲ知ルノ算法
- 螺旋ノ勾配及ヒ其角度ヲ求ムルノ算法
- 製造ノ爲メ機關及ヒ機關ニ於ル局部ノ製圖
- 加熱器ノ種類及ヒ其效用
- 滑瓣及ヒ車軸ノ位置ヲ正シ之ヲ裝置スルノ方法
- 瀛鐘及ヒ機關ニ於ケル肝要ナル部分ノ割合
- 第七條 乙種免狀ヲ受有スヘキ受験人ハ左ニ記載スル各款ニ從ヒ履歷アルモノニシテ其試驗問題ニ應答スヘシ
- 二等運轉手
- 二等運轉手ノ受験人ハ二十歳以上ニシテ少クモ六ヶ年海上ニアリテ船舶ノ運航ニ從事シ内少クトモ三ヶ年間西洋形航洋船ニアリシモノトス
- 試驗問題
- 通常文書ノ解讀
- 加減乗除
- 羅鍼ノ解明
- 揚帆・卸帆及ヒ諸帆ヲ整頓スルノ方法
- 船貨積載ノ方法

- 測程線ノ尺度其用方及ヒ沙漏ノ時限
- 大小測鉛ノ重量其線ノ尺度符號及其用方
- 海上衝突豫防規則
- 海員雇入雇止規則
- 一等運轉手
- 一等運轉手ノ受験人ハ二十歳以上ニシテ少クトモ七ヶ年海上ニアリテ船舶ノ運航ニ從事シ内少クトモ四ヶ年間登簿噸數一百以上ノ航洋船ニアリシモノトス
- 試驗問題 二等運轉手ノ試驗問題ヲ合セ
- 航海日誌ノ記載方
- 航海日誌ニ記セル前日ノ正午ヨリ當日ノ正午マデノ鍼路、航程ニ羅鍼ノ偏差、自差、風壓、流潮ヲ加減シテ本船所在ノ經緯度及ヒ直航距離方位ヲ知ルノ算法
- 太陽出沒方位ニ據リ羅鍼ノ誤指ヲ知ルノ算法
- 羅鍼ニ據リ岬角、燈臺等ノ方位ヲ測リ又ハ經緯度ニ據リ海圖上ニ本船所在ノ位置ヲ記シ及ヒ偏差、自差ヲ加減シテ鍼路ヲ定メ航程ヲ測ルノ方法
- 順轉、逆轉、縮帆及ヒ出入港運轉ノ方法
- 重貨積載ノ方法
- 萬國信號法
- 船長
- 船長ノ受験人ハ二十五歳以上ニシテ少クトモ二ヶ年間登簿噸數一百以上ノ航洋船ニアリテ一等運轉手ノ免狀ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス
- 試驗問題 二等及ヒ一等運轉手ノ試驗問題ヲ合セ



- 太陽子午線高度ニ據リ緯度ヲ知ルノ算法
- 時辰儀ト太陽高度トニ據リ經度ヲ知ルノ算法
- 六分儀ノ用法及ヒ動鏡、地平鏡等ノ位置ヲ正シ太陽又ハ地平線ニ據リ器ヲ差求ムルノ方法
- 暴風ノ隊船舶ヲ運轉シ及ヒ不慮ノ災害ニ臨ミ之レヲ處置スルノ方法
- 颶風ノ定則及ヒ之レヲ避ルノ方法
- 日本海岸ノ地勢
- 二等機關手
- 二等機關手ノ受験人ハ二十二歳以上ニシテ少クトモ五ヶ年間船用機關運轉ニ従事セシ者又ハ司驗官ノ允當ト認ムル蒸機製造所ニアリテ少クトモ三ヶ年間蒸機及ヒ機關ノ製造又ハ修繕ニ従事シ且二ヶ年以上船用機關運轉ニ従事セシモノトス
- 試験問題
- 通常文書ノ解讀
- 加減乗除
- 機關室日誌ノ記載方
- 蒸機及ヒ機關ノ檢査并所置
- 運轉中蒸機及ヒ機關ニ於ケル注意
- 安全瓣ノ種類効用及ヒ其錘量ノ増減
- 蒸機及ヒ機關ニ屬スル諸器ノ効用及ヒ用法
- 瓣嘴ノ効用及ヒ諸管接合ノ方法
- 蒸機及ヒ機關ノ部分ニ生セル損所ヲ假リニ修繕スルノ方法

- 沸溢、擦熱ヲ生セントキ之ヲ回復スルノ方法
- 驗温器、驗氣器、驗油器ノ効用及ヒ用法
- 一等機關手
- 一等機關手ノ受験人ハ二十五歳以上ニシテ少クトモ二ヶ年間公稱馬力五十以上ノ航洋船ニアリテ二等機關手ノ免狀ヲ受有シ其職ヲ執リシモノトス
- 試験問題
- 二等機關手ノ試験問題ヲ合セ
- 馬力ノ解明及ヒ算法
- 蒸機各種ノ解明及ヒ安全瓣ノ算法
- 外輪及ヒ螺旋用高壓、低壓、及ヒ聯成機關ノ解明及ヒ其運轉ノ方法
- 膨脹力ノ解明及ヒ算法
- 加熱器ノ効用及ヒ其種類
- 蒸機及ヒ機關中肝要ナル部分ノ割合
- 第八條 小形船機關手ノ免狀ヲ受有スヘキ受験人ハ左ニ記載スル履歴アルモノニシテ其口上試験問題ニ應答スヘシ
- 小形船機關手
- 小形船機關手ノ受験人ハ二十一歳以上ニシテ少クトモ三ヶ年間船用機關運轉ニ従事セシモノトス
- 試験問題
- 通常ノ讀書
- 蒸機及ヒ機關ノ檢査并所置
- 運轉中蒸機及ヒ機關ニ於ケル注意



○安全瓣ノ効用及ヒ其重量ノ増減  
 ○瀝罐及ヒ機關ニ屬スル諸器ノ効用及ヒ用法  
 ○瀝罐及ヒ機關ノ部分ニ生セル損所ヲ假リニ修繕スルノ方法  
 ○沸溢及ヒ擦熱ヲ生セシトキ之ヲ回復スルノ方法  
 第九條 乙種免狀若クハ從前ノ假免狀ヲ受有シ既ニ一ケ年以上其職ヲ執リシ者ハ甲種  
 ニ於テ同等ノ試験ヲ出願スルヲ得ベシ  
 第十條 甲種ニ從テ試験ニ於テ其紙上ノ答ヲ爲スノ時限ハ五時間ト定メ乙種ノ時限ハ  
 三時間ト定ム若シ此時限ヲ過キテ其答ヲ畢ラサレハ之ヲ落第者ト爲スヘシ  
 第十一條 受験人ハ書籍及ヒ書留類ヲ携帶シテ試験場ヘ入ルヲ許サス  
 第十二條 船長及ヒ運轉手ノ受験人ハ平生各自ノ熟知セル算式及ヒ航海表ヲ用ヒテ問  
 題ニ答フルハ妨ケナシ故ニ自己ノ慣用セル表ニ限リ試験場ニ携帶シ得ベシ  
 第十三條 受験人若シ他ノ受験人ノ文案ヲ竊取シ或ハ助力ヲ授受シ其他如何ナル手段  
 ニ據ルモ出場中他ノ受験人ト往復セシコト發覺スルニ於テハ之レヲ落第者トナスヘ  
 シ  
 第十四條 紙上ノ問題ニ應答スルニ方リ其問題ノ總數三分一ヨリ以上ノ誤算アルモノ  
 又ハ問題中ノ算法ヲ解シ得サルモノハ落第者トナスヘシ然レトモ其誤算問題ノ總數  
 三分一ニ止ルトキハ之ヲ改正セシメ其正算ヲ得ルモノハ紙上ノ試験ニ於テ及第者ト  
 ナスヘシ  
 第十五條 受験人紙上ノ試験ニ落第スルコト三回ニ及フハ其最後落第ノ日ヨリ三ケ  
 月以上ヲ經ルニ非サレハ再試ヲ許サス又口上ノ試験ニ落第スルコト三回ニ及フトキ  
 ハ其最後落第ノ日ヨリ六ケ月以上賃地修業セルノ確証アルニ非サレハ再試ヲ許サス

第十六條 受験人紙上及ヒ口上ノ問題ニ正シク答ヘ畢ルトキハ司驗官ヨリ直ニ及第証  
 書ヲ本人ニ附與シ其旨ヲ農商務省ヘ報告スヘシ  
 農商務省ニ於テハ其報告ニ據リ受験人及ヒ司驗官ノ氏名ヲ簿冊ニ登記シ應答ノ免狀  
 ナ授與スヘシ

〔第貳號〕 (輪廓附)

本年十月第五十三號布告ヲ以テ各裁判所ノ位置及ヒ管轄ノ區畫改正候ニ付テハ從前  
 布告布達中上等級裁判所トアルハ控訴裁判所地方裁判所トアルハ始審裁判所區裁判所ト  
 アルハ治安裁判所ト改マリ候儀ト心得ヘシ  
 右布達候事

明治十四年十二月廿八日

太政大臣三條實美  
司法卿 大木喬任

(備考)十四年十月六日第五十三號御布告(全報六十三號十五葉)參觀

〔太政官〕 第百拾號

十四年十二月廿四日 官省院使廳附縣

明治九年(六月)第六十四號達旅費定則外國ノ部第一章ヘ左ノ通追加候條此旨相達候事  
 第四項 在勤又ハ出張先ニ於テ死去ノ節ハ該地ヨリ内地開港場マテハ第二章ニ照シ陸  
 路旅費及船客料ノ額夫ヨリ郷里マテハ内國ノ部第七章ニ準シ手當トシテ之ヲ給ス

〔太政官〕 第百拾壹號

十四年十二月二十八日 府縣(東京府ヲ除ク)

警部巡查ノ等級ヲ廢シ俸給左ノ通相定候條此旨相達候事

判

任

等

外







○小學教則、小學校生徒試驗法等施行ノ影響其他普通教育ニ係ル總テノ狀況及ヒ意見等ヲ記載スヘシ  
中學校

○公私立學校増減廢止ノ緣由、教員ノ學力及ヒ供給ノ概略、生徒ノ増減及ヒ學業進否ノ狀況(前ニ同シ)其他高等ノ普通學科ニ係ル總テノ狀況及ヒ意見等ヲ記載スヘシ但府縣立ニ係ル分ハ以上ノ諸項ノ外沿革概略、學校維持方法等ヲ加ヘ一學校コトニ別ニ記載スヘシ

師範學校附小學教員  
○學校設置廢止ノ緣由、教員ノ學力及ヒ供給ノ概略、生徒ノ増減及ヒ學業進否ノ狀況(前ニ同シ)

○小學校教員免許狀授與規則、教員品行檢定規則等施行ノ影響其他小學教員養成等ニ係ル總テノ狀況及ヒ意見等ヲ記載スヘシ但沿革概略、學校維持方法等ハ一學校コトニ別ニ記載スヘシ

專門學校及農學校商業學校職工學校  
○學校設置廢止ノ緣由及ヒ教授ノ要旨、教員ノ學力及ヒ供給ノ概略、生徒ノ増減及ヒ學業進否等凡ツ該學藝ニ關スル教育ノ現狀ヲ觀察スルニ足ルノ條項ヲ記載スヘシ但府縣立ニ係ル分ハ右ノ外沿革概略、學校維持方法等一學校コトニ別ニ記載スヘシ

各種學校  
○學校設置廢止ノ緣由及ヒ教授ノ要旨、教員ノ學力及ヒ供給ノ概略、生徒ノ増減及ヒ學業進否ノ狀況等記載スヘシ  
幼稚園ノ現況

書籍館教育博物館ノ現況

公學費

○府縣立及ヒ町村立學校ノ學費ノ要領(例ヘハ地方稅及ヒ協議集金等ニ資リテ學費ヲ支辦スルカ又ハ積金利子ヲ以テ學費ニ充テ他ノ補助ヲ要セサルノ類)收支ノ方法及ヒ學校資財増減ノ緣由蓄積ノ方法其他學校會計上ニ係ル總テノ狀況及ヒ意見等ヲ記載スヘシ

府縣會教育費議決ノ狀況

○議決金額細目ト原案金額細目トノ比較増減及ヒ前年議決金額細目トノ比較増減等ヲ掲ケ其他教育費ニ係ル議事ノ梗概ヲ記載スヘシ

教育會ノ概略

學事關係職員

○學務課所務ノ要旨、學務擔任郡區吏及ヒ學務委員ノ増減、學務委員薦舉規則施行ノ影響其他學務關係職員事務ヲ措辦スル總テノ狀況及ヒ意見等ヲ記載スヘシ  
將來學事施設上須要ノ件  
其他學事ニ付申報スヘキ條件ハ便宜類聚記載スヘシ

表式(第三拾七號)(輪廓附)

師範學校中學校小學校教科用圖書并ニ教員生徒試驗用圖書開申ノ節ハ左ノ書式ニ據リ記載可致此旨相達候事

但從前達中本文教科書開申ニ係ル書式ハ廢止候儀ト可心得事

明治十四年十二月廿七日

文部卿福岡孝弟

表式







件數

何月何日調

檢察官

氏名印

何月何日閱

署長

氏名印

○檢察官意見アルキハ表末ニ記載ス可シ但シ長文ニ涉ルキハ別紙ニ記スルモ可ナリ左  
 ニ一ニノ文例ヲ示ス  
 ○犯罪事件前表ニ比スレハ若干ノ増加アルハ近來管内ニ某事業興起シタルニ因リ人口  
 輻輳スルニ原由セリト思考ス  
 ○又ハ犯罪事件斯ク増加スト雖モ過半ハ何々ノトニ關スル犯罪ナルヲ以テ久シカラズ  
 シテ常ニ復ス可シト思考ス  
 ○又ハ何月以來未決事件ノ増加セシハ係リ官員疾病或ハ何々ニ因リ何月以來事務ヲ執  
 ルヲ能ハサルニ由ル  
 ○又ハ事件ノ減少スルハ何々ニ原由セリ因テ久シカラズシテ増加ヲ見ルニ至ル可シト  
 思考ス  
 ○署長意見アラハ亦前文ニ準ス  
 ○治罪法第四百六十四條既決犯罪表式

何警察署(警察分署)既決犯罪表  
 「横線下朱書」

號		氏名	年 齡	職 業	住 所	出 生 地	本 籍	罪 名	刑 名	犯 數	裁判言渡ノ年月日	對審 關席 區別
		伊 藤 某	何年何月	何々	何府何郡何町 何縣何區何村	同上	同上	竊盜	重禁錮何年或ハ(何月)	初犯(或ハ再犯)	何年何月何日	對審裁判(或ハ關席裁判)

此表一葉一人ヲ記載シ(イロハ)ノ順序ヲ以テ氏名ヲ區別シテ編綴シ探討ニ便ニス可シ  
 表中ノ朱書ハ記載ノ一例ヲ示スモノナレハ「口」以下モ之ニ準ス可シ



①〔丙〕第二十號 大審院 裁判所 警視廳 府縣(東京府ヲ除ク)  
 新法實施後ハ既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル刑法第六十二條ノ令狀ハ總テ其刑ノ  
 執行ヲ爲ス地ノ始審裁判所檢事ヨリ發スル儀ト可心得此旨相達候事  
 明治十四年十二月廿八日 司法卿大木喬任

②丁第三十三號

刑事裁判言渡ヲ犯人ノ本籍へ通知シ及ヒ犯人前科取調ノ儀是迄區々相成居候處來明治  
 十五年一月ヨリ左ノ通可相心得此旨相達候事  
 明治十四年十二月十九日 司法卿大木喬任  
 刑事裁判言渡アリタルキハ治罪法第四百六十四條ニ掲ケル既決犯罪表寫ヲ犯人本籍ノ  
 地ノ輕罪裁判所檢事ニ送致ス可シ右送致ヲ受タル檢事ハ其旨ヲ犯人本籍ノ地ノ戸長ニ  
 通知シ該表ハイロハ標號ニ從ヒ區別編纂致置可シ  
 犯人ノ前科取調ヲ要スルキハ犯人本籍ノ地ノ輕罪裁判所檢事ニ照會シ檢事ハ編纂致  
 置タル既決犯罪表寫ヲ送致ス可シ

既決犯罪表

イ號

何裁判所

イ號目錄

伊藤 某	一丁
生駒 某	二丁
飯塚 某	三丁

(以下廿二空罫ニ付路ス)

何裁判所既決犯罪表  
 横線下朱書

氏名	年齢	職業	住所	出生地	本籍	罪名
伊藤 某	何年何月	何々	何府何郡何町 何縣何區何村	同上	同上	窃盜



刑名	重禁錮何年(或ハ何月)
犯數	初犯(或ハ再犯)
裁判言渡ヲ爲シタル年月日	何年何月何日
對審席區別	對審裁判(或ハ闕席裁判)

此表治罪法第四百六十四條ニ依リ裁判言渡確定シ又ハ闕席裁判アリタル時其言渡ヲ爲シタル裁判所ノ書記之ヲ作ルモノトス但一葉一人ヲ記載シ(イロハ)ノ順序ヲ以テ氏名ヲ區別シテ之ヲ編綴シ探討ニ便ス可シ  
表中ノ朱書ハ記載ノ一例ヲ示スモノナレハ(ロ)以下モ之ニ準ス可シ

司(丁)第三十四號  
大審院 裁判所  
治罪法第五十二條第六十八條第七十六條第八十二條第四百六十四條表式別紙ノ通相定候條右ニ照準シテ調成ス可シ此旨相達候事  
但明治十年丙第十七号達犯罪未決件數表丁第六十二號達犯罪糾問表ハ來ル十五年一月一日ヨリ廢止候事  
明治十四年十二月二十三日  
司法卿大木喬任

司(丁)第三十五號  
大審院 裁判所  
當省刊行ノ書籍是迄本廳へ三部支區廳へ壹部相渡來候處明治十五年一月ヨリ各廳ニ備本トノ一部ツ、相渡候餘ハ去ル明治十年丁第八十八號達ノ通可相心得候此旨相達候事  
明治十四年十二月二十三日  
司法卿大木喬任

明治十四年十二月廿四日

司法卿 大木喬任

司(乙)第六號 (輪廓附)

本年七月當省達賀表書式中第五項左ノ通改正候條此旨相達候事  
明治十四年十二月廿二日  
第五項  
宮内卿德大寺實則  
一有位華族東京府外ニ住居并寄留ノ輩ハ部長局ヲ經テ上ルヘシ  
但判任官以下奉職ノ輩ハ本文同様ト心得ヘシ

司(乙)第七號  
來明治十五年新年式別冊之通被 仰出候條此段及御達候也  
明治十四年十二月廿二日  
宮内卿德大寺實則  
官省院使御中

明治十五年  
新年式  
一日  
午前五時  
同 七時  
同 八時  
同 時  
四方拜  
親王同妃并宮内省勅任官同夫人同  
省奏任官於内廷拜賀  
同  
皇太后宮へ拜賀  
大臣參議諸省卿以下在京勅任官同



同 九時

同 十時

夫人并麝香間祇候同夫人等拜賀  
同  
皇太后宮へ拜賀

在京文官奏任武官六等以上拜賀  
但非職并後備軍艦員六等以上奏  
任武官全上

同 十一時

同 青山御所へ參賀

同 一時

判任官各廳へ參賀  
在京七等已下奏任武官拜賀  
但非職并後備軍艦員七等以下奏  
任武官全上

二日 同 二時

同 青山御所へ參賀

午前七時三十分

在京非役從六位以上同勳六等以上  
ノ輩拜賀  
但退職罷役武官從六位以上同勳  
六等以上ノ輩全上

同 八時三十分

同 青山御所へ參賀

同 十時

各國公使同夫人拜賀  
非役正七位以下同勳七等以下ノ輩  
地方廳へ參賀

但退職罷役武官正七位以下同勳

午後一時

七等以下ノ輩全上

三日

午前九時

御雇外國人并勳六等以上外國人拜  
賀

四日

午前九時

元始祭  
賢所 皇靈 神殿等 御親祭

五日

午前十一時

政始  
先奏 神宮之事

新年宴會

親王大臣參議諸省卿以下在京勅  
任官麝香間祇候并各國公使宮中  
ニ於テ賜フ

七日

午前十時

陸軍始

十六日 午前十時

元老院開院

在京奏任官各廳ニ於テ賜フ  
在京有位華族ハ部長局ニ於テ賜  
フ



二十一日  
午前十時

在京神官奏任以上及神道教導職六級以上拜賀  
在京各宗教導職六級以上拜賀

〔甲第五十五號〕

馬車取締規則左之通改正來、明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布達候事  
但從前營業者ハ右規則ニ照準シ鑑札受取方願出ヘシ

明治十四年十二月十九日

警視總監 樺山資紀  
東京府知事 松田道之

馬車取締規則

- 第一條 乘合馬車會馬車荷馬車ノ營業ヲ爲サントスル者及ヒ乘合馬車ノ馭者馬丁タルヘキ者ハ第一第二號書式ニ準シ區ハ區長郡ハ區長ノ與印ヲ受テ警視廳ヘ願出テ鑑札ヲ受クヘシ但應業ノ節ハ鑑札ヲ所轄警察署ヘ返納スヘシ
- 第二條 馭者ハ滿二十歲以上タルヘシ但技術ノ巧拙ヲ検査シ許否スルモノトス
- 第三條 轉居改姓名及ヒ鑑札ノ遺失若クハ毀損シタルモノハ第三號書式ニ準シ第一條ノ手續ヲ以テ更ニ鑑札ヲ受クヘシ尤轉居改姓名ヲ除クノ外區區長ノ與印ヲ要セス
- 第四條 馭者馬丁ハ鑑札ヲ顯帶シ何人ニ限ラヌ要用ノ場合ニ於テ見シテ求ムルルキハ之ヲ示スヘシ
- 第五條 鑑札ヲ貸借シ及ヒ檢印ヲ轉用ス可カラス
- 第六條 乘合馬車ハ其所有主ノ住所姓名及ヒ乘客ノ定員ヲ記シタル木札（長七寸巾五寸）ヲ車休後面見易キ所ニ釘付スヘシ

- 第七條 乘合馬車ノ構造及ヒ乘客定員ハ左ノ各項ニ從フヘシ
  - 一 四輪ニシテ運轉自在且堅牢ナルモノ但屋上ニ客坐ヲ具フルヲ得ズ
  - 二 腰掛臺巾一尺一寸以上ヲ以テ一人ノ度トス
  - 三 乘合馬車ハ馬一匹ニ付乘客六人ヲ以テ限リトス
  - 四 乘客十歲未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト看做シ保護人アル三歲未滿ノモノハ定員外トス
- 第八條 乘合馬車ノ車體並馬匹ハ毎月一回（日割ハ第四號表ニ依ル）警視廳ニ於テ検査ノ上其証ヲ付ス廢業ノ節ハ之ヲ所轄警察署ヘ返納スヘシ又主務官吏ヲ派シテ臨時検査セシムルヲアルヘシ
- 但検査定日事故アリ不參者ハ其旨届出指圖ヲ受クヘシ尤モ當日大祭祝日ニ當ルルハ其次日（日曜日ナレハ順延）ヲ以テス
- 第九條 検査上左ノ二項ニ關ルハモノハ其使用ヲ許サス
  - 一 車體脆弱ニシテ危險ノ虞アルモノ
  - 二 馬匹疾病毀傷其衰弱シテ馳驅ニ耐ヘスト思量スルモノ
- 第十條 定期検査ヲ受ケサル車馬ハ使用スルヲ許サス但検査証ハ馭者常ニ攜帶スヘシ
- 第十一條 乘合馬車ノ立場ハ其地ノ圖面ヲ以テ警視廳ヘ出願尤許ヲ受クヘシ但立場ノ掃除ハ該營業人ノ負擔トス
- 第十二條 賃錢ハ警視廳ノ認可ヲ受ケ車中見易キ所ニ之ヲ表記スヘシ
- 第十三條 車内ニ遺留品アルルキハ其主分明ナルハ之ヲ還付シ然ラサルハ速ニ警察署ヘ届出ヘシ



第十四條 傳染病或ハ瘋癲又ハ亂醉ト看認ムルキハ乗車セシムヘカラス若シ乗客中傳染病アルキハ速ニ最寄警察署若クハ巡查屯所同派出所又ハ巡行巡查ヘ届出ヘシ

第十五條 往來雜沓ノ場所若クハ街角橋梁ヲ通過スルキハ徐行シ且懸ケ聲ヲ爲スヘシ

第十六條 軍隊及ヒ馬車ニ行逢フ時ハ左方ニ避ケ坂路ハ上ノ車之ヲ避クヘシ尤モ郵便馬車ニ行逢フ時ハ殊ニ避讓ニ注意スヘシ

第十七條 前車徐行シ後車疾行スルキハ後車懸ケ聲ヲ爲スヘシ前車ハ便宜之レヲ避ケ後車ヲ通過セシムヘシ

第十八條 行人ニ對シ強テ乗車ヲ勸メ又ハ侮慢無禮ノ言行ヲ爲スヘカラス

第十九條 約束外ノ金錢ヲ請求ス可ラス

第二十條 濫リニ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第二十一條 濫リニ狹隘ノ小路ヲ疾驅スカラス

第二十二條 制止ヲ肯セズシテ人ノ群集シタル場所ニ入ルヘカラス

第二十三條 失火場三丁以内ニ入ルヘカラス

第二十四條 馬車ヲ並ヘ驅セ行人ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第二十五條 行人ノ妨ケトナル場所ヘ駐止スヘカラス

第二十六條 夜中燈火ナクシテ疾驅スヘカラス

第二十七條 馬匹ヲ慘酷ニ鞭撻驅逐スヘカラス

第二十八條 此規則ニ背キタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラル、ノ外警視廳ニ於テ營業ヲ停止又ハ禁止スルコトアルヘシ

第二十九條 途上ニ於テ危險ノ虞アリト思量スル馬車ハ巡查ニ於テ一時其使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第三十條 馬夫自ラ率キ駁者ヲ用ヒサルモノ其營業ニアラサルモノ此規則第一條ヨリ第十四條迄及ヒ第十八條第十九條ヲ除ク外之ヲ遵守スヘシ

第一號 書式

私儀左ニ記スル馬車ヲ以テ營業仕度候間鑑札御渡方奉願候也

何郡(區)何町(村)何番地(寄留)  
(何府縣)士族(平民)

年号月日

警視總監姓名殿

一 乘合馬車(貸馬車荷馬車)

何輛

一 馬

何匹

當區(村)内在籍ノ者ニ相違無之候也

何區長(何戶長)姓名印

第二号 書式

私儀駁者(馬丁)營業仕度候間鑑札御渡方奉願候也

(住ル氏名及與書等部テ第一號ニ同シ)

第三號 書式

私儀何郡(區)何町(村)何番地ヨリ何郡(區)何町(村)何番地ヘ移轉仕候間(御渡ノ鑑札遺失(紛失)又ハ毀損仕候ニ付)鑑札御書換(御渡方)奉願候也

(住所氏名及與書等部テ第一號ニ同シ)

第四號 車馬檢査日割

第二月曜日 麴町區 日本橋區



同 火曜日 神田區 赤坂區  
 同 水曜日 牛込區 淺草區  
 同 木曜日 芝區 小石川區  
 同 金曜日 四谷區 下谷區 木所區 荏原郡  
 東多摩郡 南豐島郡 北豐嶋郡  
 南足立郡 南葛飾郡  
 同 土曜日 京橋區 麻布區 本郷區 深川區  
 一檢査ノ日ハ午前第八時出頭之事  
 (備考)十三年十二月十五日甲第四十九號御布達(全報五十四號四十二葉)參觀

醫〔甲第五十七號〕

傳染病者屆規則左之通相定候條此旨布達候事

明治十四年十二月廿二日

警視總監榊山資紀

傳染病者屆規則

第一條 醫師傳傳病ヲ診斷スルモノハ傳染病豫防規則第二條所定ノ時間内ニ所轄警察署へ届出ヘシ  
 第二條 郡村ニアリテハ第一條手續ヲ以醫師ヨリ戶長役場若クハ衛生委員へ届出ヘシ但シ戶長及ヒ衛生委員ニ於テハ速カニ其届書ヲ所轄警察署へ送付スヘシ  
 第三條 他醫ノ施治ニ係ル患者ヲ診斷シ萬一傳染病ナルキハ前醫届出ノ有無ヲ問ヒ若シ無届ナレハ速ニ第一條第二條ノ手續ヲナスヘシ  
 第四條 醫師二名以上ニ其所見ヲ異ニスルキハ各自意見書ヲ以テ届出ヘシ  
 第五條 若シ傳染病者死亡シタルキハ二十四時間ニ全治ノモノハ三日間内醫師ノ届書

チ得テ其患者ノ家ヨリ第一條第二條ノ手續ヲ以テ届出ヘシ  
 第六條 此規則ニ違背シタル者ハ違背罪ヲ以テ罰セラルヘシ

醫〔甲五十八號〕

當應左ノ規則各末條ニ左ノ一條ヲ追加シ來明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布達候事

明治十四年十二月廿二日

警視總監榊山資紀

八品商取締規則 明治九年十一月甲第八號布達  
 寄席取締規則 同十年二月甲第六號布達  
 旅人宿規則 同年同日甲第七號布達  
 櫻弓店取締規則 同年同日甲第八號布達  
 雇人請宿規則 同年十月甲第五十二號布達  
 街路取締規則 同十一年一月甲第五號布達  
 角紙并行司取締規則及興行場取締規則 同年二月甲第十一號布達  
 牛乳搾取人取締規則 同年六月甲第四十五號布達  
 神田玉川兩上水取締禁例 同年十月甲第五十七號布達  
 水製造人并販賣人取締規則 同十一年十二月甲第六十三號布達  
 市街掃除規則及廁構造并尿尿汲取規則 同十二年一月甲第四號布達  
 湯屋取締規則 同年十月甲第三十二號布達  
 諸獵屠場及ヒ賣肉規則 同十三年三月甲第十七號布達



火葬場取締規則  
千川水道取締條例  
雇人受宿取締規則  
兩替屋取締規則  
此規則ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰ヒラルヘシ

同年九月甲第三十五号布達  
同十四年五月甲第廿五号布達  
同十年十月甲第五十二號布達  
同九年七月乙第四號達

警(甲第五拾九號)

來十五年一月四日消防組出初式執行候ニ付同日午前第八時各所火ノ見ニ於テ總出信號ヲ爲打集合セシメ候條爲心得此旨布達候事  
明治十四年十二月廿六日  
警視總監樺山資紀

警(甲第六拾號)

違警罪目左ノ通改正來明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布達候事  
明治十四年十二月廿八日  
警視總監樺山資紀  
左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留又ハ五錢以上一圓九拾五錢以下ノ科料ニ處セラル可シ  
一 街路取締規則ニ違背シタル者  
二 火葬場取締規則ニ違背シタル者  
三 畜犬規則ニ違背シタル者  
四 駁者馬丁又ハ人力車輓等取締規則ニ違背シタル者  
五 諸藝人取締規則ニ違背シタル者  
六 人家稠密ノ場所ニ於テ溢リニ鑿鑿ノ干場ヲ設ケタル者  
七 神佛祭典等ノ飾強テ出費ヲ促シタル者

- 八 強テ合力ヲ申掛ケ若シハ物品ヲ押賣シタル者
- 九 工事等ノ際雇使スル者ハ故障シタル者
- 十 裸體又ハ袒裼シ或ハ股脚ヲ露シ其他醜體ヲ爲シ路上ニ行步シタル者
- 十一 夜間十二時後歌舞音曲等其他喧噪シテ他ノ安眠ヲ妨ケタル者但訴テハ其罪ヲ論ス
- 十二 海藻魚類等ノ干場ニ妨害ヲ爲シタル者
- 十三 制限ニ背キタル筏ヲ河川ニ浮ヘ又ハ運漕シタル者
- 十四 濫リニ川中ニ杭木ヲ打建テタル者
- 十五 外國人ヲ私ニ止宿又ハ雜居セシメタル者
- 十六 各所ニ榜示セル禁條ヲ犯シタル者
- 十七 新聞紙、雜誌、雜報類ヲ路上ニ讀ミ賣シタル者
- 十八 紙屑拾ヒノ者府籠ニ名札ヲ表出セサル者

警(甲第七十六號)

新規産婆開業ノ者試験ノ儀學科上相當ノ試験ヲ受ケ難キ者ハ當分ノ内産婆取扱等簡易ノ試験ヲ行ヒ合格ノ者ハ當應ノ假免狀下付致スヘク候條志願ノ者ハ履歷書相添試験願出ヘシ此旨布達候事  
明治十四年十二月廿二日  
東京府知事松田道之

警(甲第七十八號)

人民私費ヲ以テ架設ノ橋梁渡津及ヒ開鑿ノ道路等憲兵巡行ノ時ハ單騎獨歩ト雖モ制服着用ノ節ニ限リ其費錢請求相成ラス候條此旨布達候事



明治十四年十二月廿二日

東京府知事松田道之

〔甲〕第七十九號

茨城縣下常陸國茨城郡小川村ニ於テ園部川浚渫ニ付入費償却ノ爲メ本年十一月ヨリ來明治二十九年十月迄該川出入ノ諸物貨一駄ニ付金三厘宛取立ベキ筈ニ候條此旨布達候事

明治十四年十二月二十三日

東京府知事松田道之

〔甲〕第八十號

海軍々樂通學生二十五名入學差許相成候條志願ノ者ハ左ノ通相心得明治十五年一月十四日迄ニ海軍省軍務局ヘ願出ベシ此旨布達候事

明治十四年十二月廿八日

東京府知事松田道之

- 一通學生ハ年齡滿十四年以上滿十六年以下ニシテ體格健康齒列齊整身長四尺五寸以上ノ者ヲ撰ヒ採用ス故ニ體格檢查シテ合格ナラサルモノハ通學ヲ許サス
- 一入學ノ日ヨリ滿四ケ月ヲ以テ樂科ノ試驗ヲ行ヒ及第スルモノヲ樂生ニ任シ落第スル者ハ更ニ二ケ月間演習セシメ然ル後再ヒ試驗ヲ行ヒ及第スル者ヲ樂生ニ任シ尙ホ落第スルモノハ成業ノ目的ナキヲ以テ通學ヲ免ス
- 一通學中ハ衣食共ニ自費タルベシ
- 但樂器其他科業ニ關スル一切ノ物品ハ官費トス
- 一行狀不良ノ者ハ通學ヲ免ス
- 一既ニ常律實決懲役一年以上ニ處セラレタル者ハ通學出願スルヲ許サス

軍樂通學之願

東京府何(區郡)何(町村)何番地(住寄留)

何府縣華士族平民

何某男或弟

何 某

何年何月何國何郡何地ニ於テ出生

寄留者ナレハ

本籍住所何國何郡何村何番地

右之者軍樂志願ニ付御檢査之上通學御差許被成下度此段奉願候也

東京府何 區郡何(町村)何番地(住寄留)

何府縣華士族平民

身元引受人

何 某 印

年号月日

海軍省軍務局長

官氏名殿

前書ノ者當郡區村在籍寄留ニ相違無之候也

東京府何郡區長

何 某 印

〔乙〕第一百八十一號

本年乙第一百十号達第一号第二号納稅證書別紙ノ通改正候條此旨相達候事 (別紙略ス)

明治十四年十二月廿二日

東京府知事松田道之

〔乙〕第一百四十二號

陸軍武官休暇規則之通 改正相成候條此旨相達候事

郡區役所長役場



明治十四年十二月廿四日

東京府知事松田道之

(別紙甲則ハ陸達甲二十号ト同シ全報六十五号五十九號ニ載ス故ニ略ス)

乙第四百四十三號

區役所 戸長役場

明治十五年新年賀ノ儀非徒六位以上同勤六等以上ノ輩ハ大禮服着用帶勤無位ノ輩ハ通常禮服用退職罷役武官從六位以上同勤六等以上ノ輩ハ正服着用一月二日午前七時三十分拜賀及ヒ同八時三十分青山御所へ參賀非徒正七位以下同勤七等以下退職罷役官正七位以下同勤七等以下ノ輩(若用總テ前同勤)同九時當廳へ參賀候様右ノ輩(華族ヲ除ク)へ告示スヘシ此旨相達候事

但各時限二十分前參集シ若シ不參ノ輩ハ届書差出ズヘシ且勳章ナク通常禮服用換用ノ輩へハ當廳ヨリ御門鑑相渡スヘキニ付添テ告示スヘシ

明治十四年十二月廿六日

東京府知事松田道之

乙第四百四十四號

郡區役所

本年乙第四百五号達地方税金決算什譯書左ノ通追加候條此旨相達候事 (追加略ス)

明治十四年十二月廿六日

東京府知事松田道之

乙第四百四十五號

郡區役所

白酒醸造ハ自今製成前則チ釀ノ儘ヲ檢査シ其石數ニ應シ課稅方取計フヘシ此旨相達候事

明治十四年十二月廿八日

東京府知事松田道之

乙第四百四十六號

郡區役所 戸長役場

抽稅年賦延納金徵收期限ノ儀本年乙第八十三號ヲ以テ相達候條成明治九年同十年改組増額本年分ノ年賦延納金ハ調査ノ都合有之ニ付追テ日限相達候上徵收スヘキ義ト心得ヘシ此旨相達候事

明治十四年十二月廿八日

東京府知事松田道之

開拓使

正誤 十四年十二月十九日

本年(八月)當使甲第三號布達帳内鉄道札帳手宮間貨物運送假規則中正誤

第五條中(貨物ノ障)ノ下害字ヲ脱ス 第十條中(十斤毎ニ)ノ下其字ヲ脱ス

第十八條中(安着請合ナ)ハノノ誤 貨物運送賃錢表第三級中(索麵)ハ素麵(草類)ハ草類(双物)ハ刃物ノ誤 乘客賃錢表第十一項中(許サル)ハ許サ、ルノ誤 (備考)十四年八月三日甲第三號御達(全報六十一號四十五號)參觀

乙第六十三號

(輪廓附)

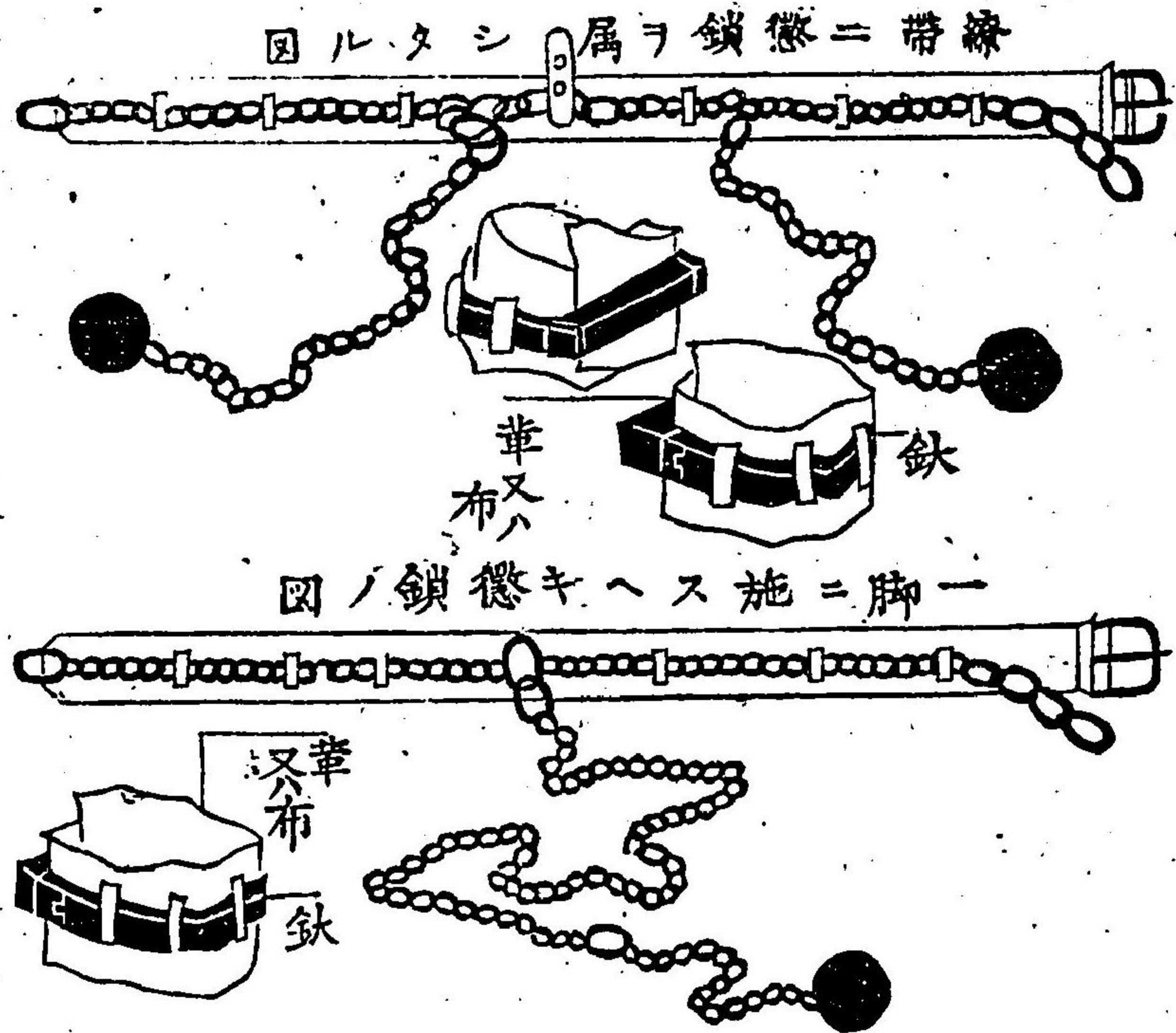
警視廳府縣(東京府ヲ除ク)集治監

監獄則第十七條ノ覆而巾及ヒ第九條ノ罰具左ノ圖式ニ倣ヒ調製スヘシ此旨相達候事

明治十四年十二月廿二日

內務卿 山田顯義

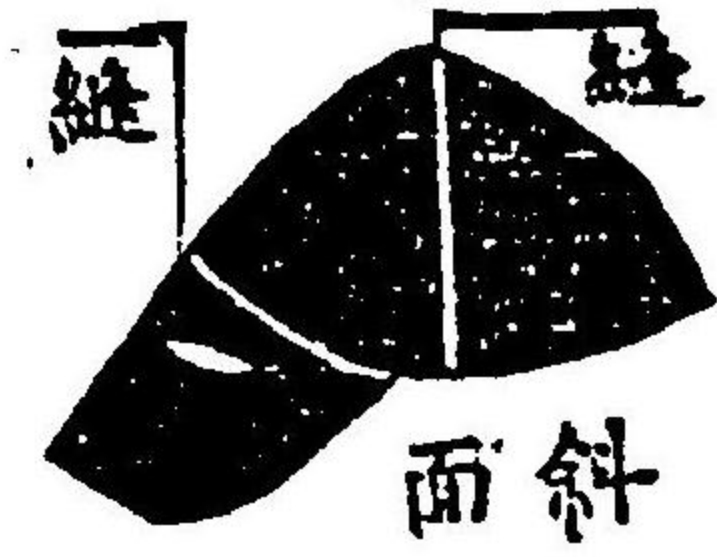
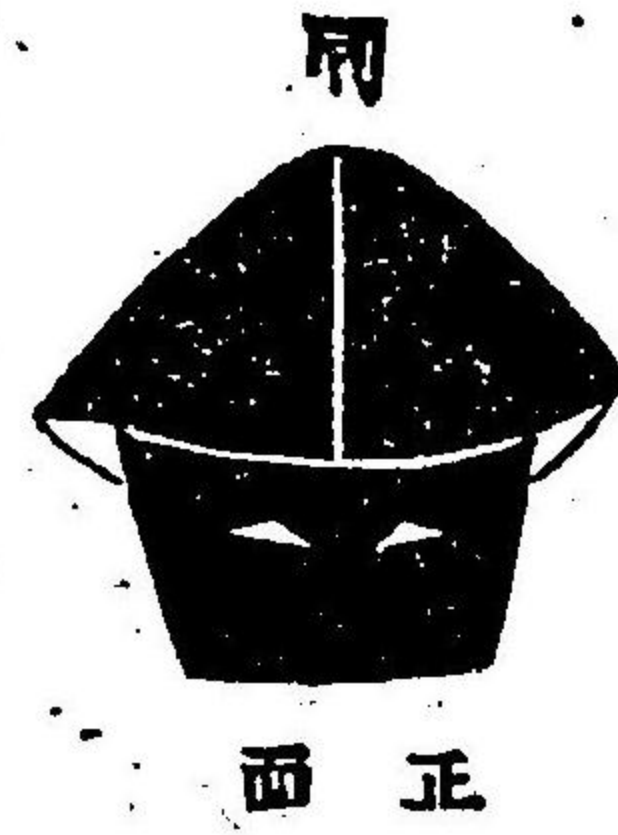




要犯疑獄ニ係  
ル者ニ覆面巾  
ヲ蒙ラシメタ  
ル圖

問無刑徒ノ囚  
又犯罪シテ懲  
鎖ヲ施サレタ  
ル圖

覆面巾





〔乙〕第六十五號 (輪廓附) 警視廳府縣(東京府ヲ除ク)集治監獄事計表別冊様本之通改定候條來十五年一月一日以後右様本ニ倣ヒ調製スヘシ此旨相違候事

明治十四年十二月二十六日

内務卿山田顯義

監獄經理諸表申報及記載例

- 一各廳ニ於テ申報スヘキ監獄事務ノ諸件ハ月報并ニ雜報及ヒ雜報附録等ノ様本ニ照シ正副二通ヲ調製スヘシ
- 一月報ハ每翌月十五日以内ニ其地ヲ發シ雜報及ヒ雜報附録ハ一月ヨリ六月迄ヲ前期トシ七月ヨリ十二月迄ヲ後期トシ前期分ハ七月中後期分ハ翌年一月中其地ヲ發シ申報スヘシ
- 一絶島又ハ遠隔ノ地ニ支署アリテ期限内ニ調製シ得ヘカテサル事アルトキハ先ツ編製シ得ヘキ分ヲ申報シ其餘ハ追次申報スヘシ(本文ノ場合ニ於テハ其事由ヲ具シテ申出ヘシ)
- 一凡ソ表記ノ文字ハ緯線橫讀ノ用ニ供スルヲ例トス其人員金員等ノ記入ハ數字ヲ用フヘシ
- 一金員ハ釐位ニ止メ釐位ニ滿サルモノハ四捨五入ノ法ニ依ルヘシ其算位ノ標印ニハ千位ト百位ノ間ト圓位ト錢位トノ間ニ、點ヲ附スルヲ例トス
- 一凡ソ數ニ零位アルトキハ小圓ヲ記スヘシ(例ハ金壹圓ハ一、〇〇〇金壹圓五錢ハ一、〇五〇百人ハ一〇〇百人ハ一〇八ト記スルノ類ナリ)
- 一表面各種目ヘ記入スヘキ件ナキトキハ每區圓〇ヲ填入シ其誤脱ニ非ルヲ表スヘシ
- 一署及ヒ監獄ノ數ハ附屬建物又ハ監舍ノ棟數ニ關セズ單ニ場名ヲ以テ其數ト爲シ毎月

盡日ノ現數ヲ掲クヘシ

- 一官吏ノ界内ニハ監獄ノ署務ニ從事スル官吏ノ本官兼官トモ毎月盡日ノ現員ヲ掲クヘシ但シ屬警部等ヨリノ兼任又ハ備等ヨリノ兼務ハ兼官ノ區ニ掲ケ書記ノ看守長ヲ兼任シ看守長ノ書記ヲ兼任スル者ハ本官ノ區ノミニ掲クヘシ
- 一准判任ニ非ル御用掛ハ總テ備ノ區ニ掲クヘシ
- 一看守押丁賞罰ノ界内ニハ其人員ノミヲ掲クヘシ其人員ハ每賞罰ニ各一人トナスヲ例トス
- 一未己決監懲治場及ヒ刑餘留置并ニ乳兒ノ各界内現員ノ區ニハ總テ毎月盡日ノ現員ヲ掲ケ入山監逃走死亡賞罰等ハ其月中ノ員數ヲ掲クヘシ
- 一本月中罹病ノ區ニハ其月中病ニ罹リタル人員ヲ掲クヘシ但一人ニシテ數日ニ滿ル病ニ罹ルハ止テ一人トシ其病愈テ他日又病ニ罹ル者ハ又一人トナスヲ例トス
- 一已決監界内役事ノ區ニハ其月中ノ延人員ヲ掲ケ免役ノ目ニハ大祭祝日并ニ父母ノ喪ニ遭ヒ免役セラレシ者休役ノ目ニハ裁判所召喚及ヒ關室減食ノ處罰中又ハ疾病其他ノ事故ニ依リ休役セシ延人員ヲ掲クヘシ
- 一懲治場界内教科ノ區ニハ其月中ノ延人員ヲ掲ケ休力作ノ目ニハ大祭祝日其他事故ニ依リ休業セシ延人員ヲ掲クヘシ
- 一懲罰ノ區ニハ其月中ニ懲罰セシ現員ヲ掲ク若シ罰期滿ルモ改悛ノ狀ナク一旦之ヲ免シ更ニ之ヲ科スル如キハ一人ニ算セス一月中ニ再ヒ犯則シテ懲罰セラレシモノハ各一人トナスヘシ
- 一主刑ノ罰金ヨリ換ル禁錮モ輕禁錮ノ區ニ掲クヘシ



一科料ヨリ換ル拘留モ拘留ノ區ニシテ揭クヘシ  
 一諸罰則違犯ノ界内ニハ都テ刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ依テ入場セシ者ヲ揭クヘシ  
 一人員多寡ノ界内最多最寡ノ區ニハ其月中最モ多人數ナル日ノ現員ト最モ少人數ナル日ノ現員ヲ揭ケ在監延人員ノ區ニハ毎月一日ヨリ盡日マテ日々ノ在監人員(刑餘留置及ヒ乳兒ヲ除キ)テ一ヶ月分積算シタルモノヲ揭クヘシ  
 一役事界内延人員ノ區ニハ毎月一日ヨリ盡日マテ日々役(内役外役)ニ服セシ人員ヲ積算ノ之ヲ揭ケ工錢收入高同給與高ノ區ニハ其月中收入及ヒ給與セシ金額ヲ揭クヘシ  
 一雜報及ヒ雜報附録ハ總テ六ヶ月(自一月至六月自七月至十二月)間ニ在テ入監入場セシ者假ニ出獄シタル者幽閉ヲ免セラレタル者ノ現員ヲ揭クヘシ  
 一諸表中比較ノ界内増減ノ區ニ於ル月報ハ前月ト本月ト雜報及ヒ雜報附録ハ前期ト本期トヲ比較シ其増減ヲ揭クヘシ  
 其男女區別ハ男女各別ニ増減ヲ記スヘシ  
 其男女總計ハ男女ノ合數ニ就テ増減ヲ記スヘシ例ヘハ男五人ヲ増シ女六人ヲ減スレハ減一人ト記スルノ類ナリ  
 一囚徒罪質ノ界内ニハ毎月盡日ノ現員中ニ就キ罪質ヲ差別シテ之ヲ揭クヘシ  
 一月報摘要ニハ其月中監獄ノ概要(監獄ニ關スル事變在監人ノ情狀變死ノ顛末傳染病ノ狀況(原因現況消滅)在監人ヲ他管ニ押發シタル其年月日及ヒ他管ヨリ受取タル其年月日等)ヲ蒐集シテ摘録スヘシ  
 一他管ニ押送スル未決已決ノ者未タ途中ニ在ルトキハ其人員ト其事由ヲ月報摘要ニ揭クヘシ

大(告第一號)

金祿公債證書三百圓丙ノ號八壹貳五番壹枚百圓丙と號五參九〇番壹枚五拾圓丙は號六參八七番壹枚拾圓丙の號貳九五三番壹枚石川縣士族松本近友  
 右ハ本年五月自家於テ紛失  
 三百圓丙ノ號貳參六貳番壹枚百圓丙の號參五〇番壹枚五拾圓丙の號五六九〇番壹枚貳拾五圓丙の號四貳七參番壹枚長崎縣士族荒木守衛  
 右記名ノ證書相續人庫太郎所有ノ處本年十月廿九日自家燒失ノ際紛失  
 五拾圓丙の號壹〇五〇番壹枚高知縣士族西川慎良  
 右ハ本年十月廿八日盜難  
 拾圓丙の號壹壹六四番壹枚拾圓丙の號參〇七〇番壹枚大阪府士族渥美廣通  
 右記名ノ證書相續人陽一郎所有ノ處本年九月廿九日途中於テ盜難  
 三百圓丙の號壹八五番壹枚貳拾五圓丙の號壹〇八八番壹枚拾圓丙の號壹九四〇番壹枚和歌山縣士族服部直一  
 右ハ石川縣下寄留先ニ於テ本年十一月十一日盜難  
 拾圓丙の號壹五〇番壹枚五〇四番貳枚靜岡縣士族丹羽重明  
 右ハ東京府下寄留岩手縣平民高橋茂左衛門ノ預ケ中茂左衛門失踪證書所在不明  
 五百圓丙の號四貳貳〇番壹枚靜岡縣士族金澤藤馬  
 右ハ本年十一月廿七日盜難  
 百圓丙の號貳五〇九番壹枚愛媛縣士族兒玉藤次郎  
 百圓丙の號參貳九八番壹枚同岩部熊三郎  
 右ハ島根縣士族岩田能哲宅ニテ盜難







本年十月當省乙第三拾七號達へ左ノ但書追加候條此旨相達候事

明治十四年十二月廿八日 大藏卿松方正義  
但租額ノ増減ハ明治十三年第貳拾五號布告第四條ノ通タルヘシ

陸(達)甲第三十一號

警視廳府縣(東京府ヲ除ク)  
京部府下山城國愛宕郡下京區川端町九十九番地  
村上キク方同居平民陸軍工兵少尉  
頼 宮 鐵 次 郎  
當十二月廿三年十一月

右ノ者本年九月以來病氣引籠中無届他出于今踪跡不分明ニ候條於各地方遂搜索捕縛ノ上ハ成規ノ通可取計此旨告示候事

明治十四年十二月二十二日

陸軍卿大山 巖

陸(達)甲第三十二號 (輪廓附)

別紙之通鎮臺へ相達候條爲心得此旨相達候事

明治十四年十二月二十八日

陸軍卿大山 巖

[別紙]

各 鎮 臺

常備軍服役滿期之者毎年四月二十日ヨリ五月一日迄ニ退營セシムヘキ例ニ有之候處來十五年常備滿期兵之儀ハ徵兵令第二條第一項ニ準據シ同年三月十五日ヨリ同二十日迄ノ間ニ歸郷セシメ同月二十一日ヨリ四月二十日迄ノ間ニ於テ現在豫備兵人員及ヒ歸休兵共三週日間召集復習施行可致尤現存豫備兵人員ヲ常備隊へ編入シ戰時人員ニ超過スルモノハ召集ニ不及候條十二年編入豫備兵中未番號ノ者ヲ差除キ尙超過スルルハ十三

年編入ノ豫備兵中未番號ノ者差除キ候條可取計此旨相達候事

但本文常備滿期歸郷ノ節ハ諸事豫備兵編入ノ者同様に扱置四月二十日ニ至リ豫備兵編入ノ手續ヲ爲スヘキ儀ト可心得事

明治十四年十二月廿八日

陸軍卿大山 巖

陸(達)甲第三十三號 (輪廓附)

明治十三年徵集常備各種兵中行狀方正ニシテ技藝ニ熟シ殊ニ勤務ニ勉勵セシ者ヲ撰ヒ徵兵令第二條第一項ニ據リ步兵ハ一中隊ニ四人騎砲工兵ハ一中隊ニ三人輜重兵ハ一小隊ニ一人ノ割ヲ以テ來十五年新兵入營以前歸休申付候條爲心得此旨相達候事

明治十四年十二月二十八日

陸軍卿大山 巖

陸(達)乙第六十九號

陸軍部内代理條例別冊之通相定候此旨相達候事

但七年五月第二十一號ヲ以テ相達置候代理條例ノ儀ハ廢棄ト可相心得事  
明治十四年十二月十七日 陸軍卿大山 巖

陸軍部内代理條例

第一條 陸軍各部ノ長官缺員不在若シハ疾病事故等ニテ本務ヲ缺キタル時其所属ノ事務ヲ次級ノ者代理履行スヘキ權限ヲ定ムル左ノ如シ  
第二條 長官缺員ノ時ハ副長若シハ次長次長數名アルハ其序次ノ上ナル者副長次長共ニナキハ次級ノ者以下倣之)長官ニ代リ所属中ノ事務ヲ成規ニ照シテ辨理スヘシ之ヲ某長「職名」代理ト稱シ事務ニ付テハ長官ノ權ヲ有ス  
第三條 長官他方ニ出張シ或ハ重病ニ罹リ又ハ他ノ事故ニテ事務ヲ執リ難キ時ハ副長



若クハ次長其事務ヲ代理スヘシ之ヲ某長何某代理ト稱シ尋常ノ事務ヲ執行ス

第四條 長一時ノ疾病或ハ事故アリテ出務セサル時ハ尋常ノ當務ハ副長若クハ次長之ヲ辨理シ其他ハ長官ノ所在ニ就テ指揮ヲ請フヘシ又文書ノ進呈及ヒ往復等ハ必ラス長官ノ署名ヲ以テ點檢調印ノ上施行スヘキモノトス但臨時急遽ノ事柄ニテ本文ノ順序ヲ經由シ難キ場合ニ於テハ副長若クハ次長代理シテ事務ヲ辨スルハ格別タルヘシ

第五條 長官ノ會議出頭ヲ要スル時次官出頭ノ命アルカ或ハ定例會議等ニ於テ長官差支アル時次官出頭スルハ即チ次官ノ職務中ニ在テ長官ノ任ヲ輔シル當務ナレハ長官代理ト稱スルノ限ニアラス副長或ハ次長ノ位置ヲ以テ之ニ服行シ其事由ヲ長官ニ申告スヘシ

第六條 鎮台司令官實地演習若クハ行軍演習等ニテ管下ノ諸兵ヲ引卒シ其管内ニ出張ノ節ハ別ニ代理ヲ置カス出張先ニ於テ事務ヲ取扱フヘシ

第七條 其管外ニアルカ或ハ管内ニテモ大演習舉行ノ節ハ別ニ代理ヲ置クヲ定例トス

第八條 鎮台司令官管下巡回等ニテ不在ノ節ハ參謀長代理スルノ第三條ノ例ニ準ズ

第九條 近衛都督不在若クハ疾病事故等ニテ事務ヲ執リ難キ時ハ參謀長其事務ヲ代理スヘシ

第十條 總務局長不在若クハ疾病事故等ニテ事務ヲ執リ難キ時ハ陸軍省條例第三條第四項揭示ノ通房長代理スヘシ

各兵科將校下士并同等官ニシテ豫備軍又ハ後備軍艦員ニ轉シ所管轉換ノ者ハ其都度舊所管ヨリ直ニ原籍地方所管鎮臺へ本人名簿交付可致此旨相達候事

〔達乙第七十號〕

明治十四年十二月十七日

陸軍卿大山 巖

〔達乙第七十三號〕

陸軍懲罰令別冊之通被相定候條此旨相達候事

但來明治十五年一月一日ヨリ施行可致儀ト可相心得事

明治十四年十二月二十八日

(別冊ハ別號ニ載ス)

陸軍卿大山 巖

〔第一號〕 (輪廓附)

治罪法第二百八十一條第一項ニ若シ辯護人ナクシテ辯論ヲ爲シタル時ハ刑ノ言渡ノ効ナカルヘシト有之候得共其裁判所所屬ノ代言人無之場所ニ於テハ當分ノ内辯護人ヲ用ヒザルモ其刑ノ言渡ハ無効ノ限リニ在ラス

右奉 勅旨布告候事

明治十五年一月九日

太政大臣三條實美  
司法卿 大木喬任

〔太政官〕 第壹號 十五年一月十日

官省院使廳府縣

明治九年(五月)第五十三號達官舎貸渡規則第二條中修繕費ノ爲メ其應ニ備置ク分ハ會計法第三十一條ニ拘ハラス從前ノ通可相心得此旨相達候事

但該金額ハ据置ノ例ニ倣ヒ官舎宿代金ノ目ヲ設ケ出納勘定帳中ニ編入候儀ト心得

(備考)十四年四月廿八日第三十三號御達(全報五十八號五十八集)參覽

〔太政官〕 第貳號 十五年一月十一日

府縣(沖繩縣ヲ除ク)

各府縣經費ノ内屬官俸給應費史誌編輯費招魂社費神社費ノ五項自今豫算帳大藏省へ不



及差出候條此旨相達候事

〔太政官〕 第三號

十五年一月十二日

官省院使廳府縣

權宮司

相當七等

月俸二十五圓

〔太政官〕 第四號

十五年一月十二日

官省院使廳府縣

明治十四年(四月)第三十四號達歲入科目ノ内左ノ通加除更正候條此旨相達候事  
地稅小科目市街地稅ノ次(鹽田稅)ノ一科目ヲ設ケ山林原野牧場稅ノ科目ヲ(山林原野牧場及ヒ雜種地稅)ト改ム  
郵便稅ノ小科目外國郵便遞送料ノ項ヲ刪除ス  
大科目賣藥稅ヲ(賣藥營業稅)ト改ム該小科目ノ二項ヲ刪除ス  
(備考)十四年四月廿八日第三百三十四號御達(全報五十八號六十六葉)參觀

〔第一號〕 (輪廓附)

民有開墾地調查順序左ノ通相定候條此旨相達候事

明治十五年一月十一日

大藏卿松方正義

民有開墾地調查順序

第一款 第一條 凡ソ民有ノ土地ヲ開墾スルニ際シ錄下年期ヲ願出ルキハ實際要スル費用ト成功ノ後該地ヨリ得ヘキ收利トヲ豫算シ其費用ヲ償却シ得ヘキ方法ニ至ルマテ詳細ニ取調願書ニ副ヘ差出サシムヘシ

第二條 前條ノ願書ヲ差出シタルキハ實地ニ就キ反別ノ廣狹ヲ概量シ其調書ノ當否ヲ審査スヘシ

第三條 調書ハ左ノ數項ニ據リ審査スヘシ  
第一項 人夫ハ事業ノ難易ヨリ其多寡如何  
第二項 雇錢ハ近傍普通ノ賃金ニ較ヘ其高低如何  
第三項 收利ハ近傍ノ熟地ニ比シ其多寡如何  
第四項 收量ニ換ヘタル金額ハ近傍市場ノ平均(既往二ケ年或ハ五ケ年間)相場ニ據リ其當否如何

第四條 前條ノ審査ニ於テ其調書適當ナリト視認ルキハ該費用ヲ償却シ得ルノ年數ヲ目的トシ錄下年期ヲ附與スルモノトス  
第二款 年期明

第五條 錄下年期明ニ至ラハ反別ヲ丈量シ相當ノ收穫地價トモ取調差出サシムヘシ  
第六條 前條ノ調書ヲ差出シタルキハ實地ニ就キ反別ヲ査定シ收穫地價ハ近傍類地ニ比準シ適當ニ調査スヘシ

第七條 期明ニ至リ該地ノ幾部分ヲ竣功セシキハ其部分ノミ第五六條ノ例ニヨツテ調査スヘシ其殘地又ハ全部未著手ト雖モ引續キ繼年期ヲ請求スルキハ第一款第一條ニ據リ更ニ詳細ノ調書ヲ添ヘ出願セシムヘシ  
第八條 第七條ノ繼年期ヲ請求スルハ第一款第二三條ニ據テ審査スヘシ

〔達乙第一號〕

觀兵式假規則左之通り改訂候條此旨相達候事

明治十五年一月四日

陸軍卿大山 嚴



觀兵式假規則

第一條 觀兵式ハ天長節陸軍始其他儀式ノ爲メ諸兵ヲ集合シ之ヲ施行スルモノトス

第二條 當日諸兵隊(教導團諸隊同シ)正裝定時限前各其定メラレタル場所ニ整列ス  
但陸軍始メニ限リ在京武官士官以上并ニ士官學校生徒憲兵隊軍用電信隊モ亦出場  
シ附圖ノ位置ニ列スル者トス

第三條 當日聖駕臨御アレハ指揮官ハ其臨御アラントスル稍前ニ於テ喇叭手ヲシテ氣  
ヲ附ケノ譜ヲ吹奏セシム此號音ニテ步兵ハ着劍肩銃(他ノ諸兵ハ之ニ準スルノ姿勢  
ヲ爲ス)シ而シテ臨御アレハ指揮官ハ該場ノ入口ニテ奉迎シ劍ヲ以テ敬禮シ樂隊樂  
ヲ奏シ喇叭「オーシャン」一回ヲ奏シ諸隊ハ捧銃(或ハ捧劍)ヲ爲シ將校ハ劍ヲ以テ敬  
禮シ軍旗亦禮式ヲ爲ス

第四條 指揮官ハ更ニ聖駕ヲ隊列ノ右翼ニ迎ヘ十步前ニテ劍ヲ以テ敬禮シ閱兵ノ誘導  
ヲ爲ス而シテ聖駕隊列ノ右翼ニ到レハ該隊直ニ捧銃ヲ爲シ喇叭「オーシャン」ヲ奏シ  
將校ハ之レト同時ニ敬禮シ軍旗亦禮式ヲ爲ス(此敬禮ハ該隊ノ閱兵終リ次隊ノ喇叭  
吹奏ヲ始ル迄爲シ居ル者トス)

第五條 各隊長ハ其隊ノ閱兵終レハ遂次ニ隊制ヲ變換シ分列ノ準備ヲ爲ス而シテ分列  
ノ令アレヤ先頭部隊ヨリ順次ニ行進ヲ始メ分列(着劍ノ禮)ヲ爲ス

第六條 指揮官ハ諸隊ヲ率テ行進シ聖駕前ニ到レハ之ニ對向シ縱隊ノ左側方二十步ノ  
地ニ占位シ劍ヲ以テ敬禮シ分列終ルマテ茲ニ停止ス

第七條 分列ヲ行フ間樂隊ハ指揮官ノ左方ニ位置シ奏樂ヲ爲ス此時喇叭ノ吹奏ヲ止ム  
若シ奏樂ヲ爲サハルキハ其隊禮式點ヲ通過シ終ル迄喇叭ヲ吹奏ス  
但樂隊ヲ附セサルキハ喇叭ハ樂隊ノ位置ニ在テ吹奏ス

第八條 各部隊聖駕ヨリ五十步ノ地ニ到レハ步兵ハ肩銃(駈歩ヲ以テスルキハ携銃シ  
(他ノ諸兵ハ之ニ準スルノ姿勢ヲ爲ス)將校ハ(聖駕前六步)劍ヲ以テ敬禮シ軍旗亦禮  
式ヲ爲ス

但軍旗敬禮ヲ行フ被敬禮者ニ對スルキハ概テ着劍肩銃ノ禮ヲ行フ者トス

第九條 分列終リ將ニ還幸アラントスルキ指揮官ハ諸隊ヲ左側面ニ爲シ聖駕ニ對シ  
前進セシメ適宜ノ地ニ於テ一齊ニ之ヲ止メ直ニ捧銃ヲ爲サシメ樂隊樂ヲ奏シ喇叭  
「オーシャン」三回ヲ奏セシメ將校ハ劍ヲ以テ敬禮シ軍旗モ亦禮式ヲ爲ス而シテ指揮  
官ハ直ニ該場入口ニ至リ奉送スルヲ奉迎ノ如シ

第十條 閱兵ハ爲メ各兵種ノ位置ハ近衛鎮台ノ同種兵ヲ合シ徒步兵ヲ右トシ乘馬兵  
ヲ左トシ其同兵種中近衛兵ヲ右トシ鎮台兵ヲ左トス即チ左ノ如シ 近衛步兵 鎮台  
步兵 近衛工兵 鎮台工兵 鎮台山砲兵 近衛野砲兵 鎮台野砲兵 輜重兵 近衛  
騎兵 鎮台騎兵

第十一條 閱兵式ノ爲メ其取ルヘキ隊制ハ步兵工兵ニ在テハ展開セル橫隊(第一圖)收縮  
大隊ノ橫隊(第二圖)二十四步ノ間隔ヲ有スル縱隊中隊ノ橫隊(第三圖)重積縱隊ノ橫  
隊(第四圖)中ノ一ヲ撰定スル者トス  
砲兵ニ在ッテハ戰隊(第五圖)半砲隊縱隊(第六圖)中隊縱隊(第七圖)ノ一ヲ撰定スル  
者トス

騎兵ニ在テハ大隊戰隊(第八圖)中隊全距離縱隊(第九圖)中隊半距離縱隊(第十圖)中  
隊閉合縱隊(第十一圖)半中隊縱隊(第十二圖)小隊縱隊(第十三圖)中ノ一ヲ撰定ス  
輜兵ニ在テハ重一列車陣(第十四圖)若クハ二列車陣(第十五圖)ヲ以テス

第十二條 閱兵式及ヒ分列式ニ出場スヘキ諸陣ノ所管長ハ參謀官傳令使ヲ率ヒ其部下



步兵隊ノ右方或ハ先頭ニ位置スヘシ

第十三條 分列式ノ爲メ各兵種ノ位次閱兵式ト異ナルナシ而シテ其取ヘキ隊制ハ步兵工兵ニ在テハ横隊ニ於ケル中隊ヲ以テスル全距離縱隊(第十六圖)聯隊縱隊(第十七圖)縱隊大隊(第十八圖)重砲縱隊(第十九圖)中ノ一ヲ撰定スヘシ

砲兵ニ在テハ半砲隊縱隊ヲ以テ(第二十圖)騎兵ニ在テハ其隊制閱兵式ニ異ルナシト雖モ唯諸官及ヒ喇叭手ハ行進ノ位次ニ在ルヘシ

輜重兵ニ在テハ通常二車縱隊(第廿一圖)ヲ以テス然レモ時宜ニ依リ半隊縱隊又ハ小隊縱隊ヲ以テスルコトアリ

第十四條 乘馬兵ハ時機妨ケナク之ヲ要スル所ハ速歩或ハ駈足ヲ以テ分列ズ而シテ諸兵種共ニ常歩ヲ以テ分列スル所ハ其兵種ト他兵種トノ距離ハ百米突ニシテ若シ乘馬兵速歩ヲ以テスル所ハ之レト徒歩兵ノ距離ヲ五百米突トシ駈足ヲ以テスルモノハ八百米突トスヘシ

第十五條 若シ武學生徒ヲシテ閱兵式及ヒ分列式ヲ施行セシムル所ハ近衛兵ノ右方或ハ先頭ニシテ士官生徒ヲ右或ハ先頭トシ下士生徒ヲ其左或ハ後尾トス

第十六條 鎮臺輕重兵若シ車輛ヲ携ヘス乘馬スル所ハ其位次鎮臺騎兵ノ左翼或ハ後尾トス而シテ其隊制ハ第十一條第三款ニ掲ケル騎兵ノ隊制ニ異ルコトナシ

第十七條 各鎮臺ノ諸兵ヲ一地ニ集合シ閱兵或ハ分列式ヲ爲ス所ハ其鎮臺ノ順次ニ從ヒ位次ヲ定ムヘシ

第十八條 觀兵式ヲ行フニ當リ此規則ニ依リ隊制及其他ノ撰定ハ其時々指揮官ノ任スル處トス

第十九條 諸兵ノ隊制ハ步兵ニ準スルヲ常トス佞令ハ步兵縱隊ナレハ騎兵ハ小隊縱隊又步兵收縮大隊ノ横隊ニ在テハ砲兵ハ中隊縱隊(砲隊縱隊)騎兵ハ中隊縱隊ヲ以テスル等ノ如シ其他ノ諸兵モ亦之ニ準ス

第二十條 分列式ノ隊制ハ概テ閱兵式ノ隊制ト同一ニシテ其隊制ヲ彼是變更セサルヲ常トス只時宜ニ依リ其距離ヲ伸縮スルノモ若シ閱兵ノ隊制排開横隊ニ在テハ分列ハ適宜ノ縱隊ニ變更スル者トス

第二十一條 總テ將官及隊長タル上長官ニ對シ分列式ヲ行フキモ概テ此規則ニ依リ施行スル者トス然レモ敬禮式ニ示ス處ノ條件ハ固ヨリ其定式ニ從フ者トス

第二十二條 天長節陸軍始ニハ鎮臺營所ニ於テモ觀兵式ヲ施行スル者トス

(圖式ハ略ス)

司 丁 第一號

大審院 裁判所

各廳供用書籍目錄調製之儀ニ付明治十一年丁第七號ヲ以テ相達候處右手續并離形別紙之通り更正候條此旨相達候事

但今般各廳構成ニ付テハ其廳所屬之典籍類客歲十二月迄ノ分悉皆取調該離形ニ照準來ル二月廿八日限り可差出候事

明治十五年一月七日

司法卿大木喬任

別紙

自明治何年何月 和書或ハ(漢書洋書)翻譯書目錄何裁判所  
至明治何年何月

書目



第一門 政事部又ハ法律、經濟、禮度、官職、統計、詔令（著述者又翻譯者名書名幾部内買上幾冊御渡幾冊以下準之）

第二門 地理部又ハ物理、化學、醫學、農學、商學、博物學、漁獵

第三門 工學部又ハ數學、天文

第四門 神典部

第五門 歴史部又ハ紀傳、編年、考證、家記、雜史、年表、叢書部

第六門 叢書部

第七門 教科部又ハ雜書佛書之部又ハ英書獨乙書蘭書（著述人名書名幾部買上或ハ御渡幾冊原語片假名文字ヲ以テ記スヘシ出版年月以下準之）

書目ヲ區別シテ和書之部漢書之部翻譯書之部洋書之部ト爲ス可シ

典籍中欠失アル者ハ（自第何卷至第何卷）或ハ（第何卷）欠ト書名ノ下ニ記スヘシ

翻譯書及編纂書ノ如キ逐次出版相成ル者ニシテ全部ヲ爲サ、ル者ハ（自第何卷至第何卷）自何年何月至何年何月 或ハ（何冊）（何號）幾冊ト詳細ニ記スヘシ

洋籍ニシテ號數アル者ハ書名ト部數ノ中間ニ（第何号）ト記スヘシ

調製ノ法ハ前（自一月至六月）後（自七月至十二月）兩季トナシ兩季中增加アル者ヲ調査シ七月一月ノ兩度ニ差出ス者トス

第二第三號

人民ヨリ官府ニ對スル詞訟ノ受否又ハ判決見込ニ付現今伺出ニ係ル件中客年第五十三號布告ニ依リ他ノ管轄裁判所ニ屬スヘキ分ハ當省ヨリ直チニ其管轄裁判所ニ移シ處分セシメ候條此旨相達候事

明治十五年一月十二日

控訴裁判所始審裁判所  
司法卿大木喬任

（備考）十四年十月六日太政官第五十三號御布告（全報第六十三號十五葉）參觀

（甲 第一號）

客年（十二月）甲第五十三號達（全報第六十五號第三十七葉ニ載ス）小形旅客船取締規則第四十一條中「法衙ニ付スル」ノ六字ヲ「海警罪ヲ以テ罰セラル、」ノ十一字ニ改ム此旨布達候事

明治十五年一月十二日

警視總監樺山資紀

第一號

（輪廓附）

工部省所轄陸中國釜石鑛山分局ニ於テ今般同所ヨリ大橋マテノ間鑛山用ニ供スル鐵道落成ニ付テハ工業用ノ餘暇一般人民便利ノ爲メ別紙心得書並賃金表ニ從ヒ乘車又ハ荷物運輸共之ヲ許ス

但開業日限ハ退テ工部卿ヨリ告示スヘシ

右布達候事

明治十五年一月十四日

太政大臣三條實美  
工部卿佐々木高行

釜石大橋間鐵道乘車心得書

第一條 鐵道ニテ旅行シ又ハ荷物ヲ運送スル者ハ定規ノ賃錢ヲ前拂可致事

第二條 運賃ハ停車場ヨリ停車場マテノ運賃ニシテ停車場外他ニ送ルハ別段ノ事

第三條 表記ニ部類外ノ荷物ハ類似ノ賃錢ヲ課スルカ又ハ臨時見計ヒ相當ノ賃錢ヲ拂

第四條 百斤ハ英百斤ニシテ賃錢ハ壹斤以上百斤ノ比例金高ハ厘位ニ止メ四捨五入法ヲ用フヘシ又壹俵ハ米四斗入ノ俵ニテ其通常外ノ者ハ相當ノ割増可相拂事







一諸達書及揭示諸費 一勸業費  
 一戸長以下給料及戸長職務取扱諸費  
 一地方稅取扱費(府縣廳ニ屬スル爲換方給料爲換手數料現金遞送等ノ費用)  
 一府縣廳舎建築修繕費 一府縣監獄費  
 一府縣監獄建築修繕費  
 以上費目互ニ流用スルコトヲ許サス  
 一豫備費(豫算外ニ生シタル事件ノ費途ニ充ツヘキモノ)  
 右ノ外特ニ費目ノ増加ヲ要スルトキハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務  
 大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受シヘシ  
 右奉 勅旨布告候事

明治十五年一月二十日

(備考)十三年四月八日第十六号御布告(全報四十五号四十二葉參觀)

太政大臣三條實美  
 内務卿 山田顯義  
 大藏卿 松方正義

第二條 (寺廟附)

明治十三年(四月)第十七號布告營業稅雜種稅規則中左ノ通改正明治十五年七月一日ニ  
 リ施行ス

第一條 營業稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ  
 商業 工業  
 但國稅アルモノハ課稅ノ限ニアラス

第二條 雜種稅ヲ課スヘキ種類左ノ如シ

料理屋待合茶屋遊船宿芝居茶屋飲食店ノ類  
 湯屋 理髮人  
 備人受宿 遊藝師匠遊藝稼人相撲俳優間藝妓ノ類  
 市場 演劇其他興行遊覽所  
 遊技場(玉突大弓揚弓射的吹矢ノ類) 人寄席  
 船(解漁船川船及五十石未満海船)車(馬車人力車荷積馬車荷積大七大八車荷積中  
 小車荷積牛車ノ類)  
 但國稅ノ額ヲ超過スヘカラス  
 水車 屠畜  
 漁業採藻ノ類  
 但漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ慣例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若シ其慣例ヲ改正シ又  
 ハ新稅ヲ賦課セントスルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏兩  
 卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受シヘシ

第三條 削除  
 第五條中(決議ヲ以テ)ノ下(稅額制限内ニ於テ)ノ八字ヲ削ル  
 第六條 削除  
 第七條 削除  
 第九條中(第二條)ノ下(第三條稅目)ノ五字ヲ改メ(課稅種類)ノ四字トス  
 右奉 勅旨布告候事

明治十五年一月二十日

太政大臣三條實美  
 内務卿 山田顯義



(備考) 十三年四月八日第三十九号御布告(全報四十五号四十四葉)參觀 大藏卿 松方正義

③(太政官) 正誤 十五年一月十四日

明治十四年(十二月)(本號十五葉ニ載ス)第八拾壹號布告中  
初項 (比照スルニハ左)ノ下(ノ例)ノ二字ヲ脱ス  
第一條 (比照)ノ下(スルニハ)ノ四字ハ衍

④(太政官) 正誤 十五年一月廿日

明治十四年(十二月)本號十九葉ニ載ス)第壹號布達西洋形船船長運轉手機關手試驗規  
程  
第一條中 (二日)ハ(三日)ノ誤  
第十六條中 (應答)ハ(應等)ノ誤

⑤(太政官) 正誤 十五年一月廿日

明治十四年(十二月)(本號七葉ニ載ス)第七拾五號布告西洋形船々長運轉手機關手免狀  
規則第九條第二項中  
五拾馬力以上二百馬力未滿)同ノ下 同(二等機關手)ノ六字ハ衍

⑥(乙)第二號

客年十二月第百拾壹號公達ヲ以テ警部補ヲ置カレ候ニ付テハ自今警察分署ハ警部補ヲ  
以テ其署長ニ充ツ可シ此旨相達事  
但巡查ヲシテ警部補ノ代理ヲ爲サシムルハ適宜タル可シ  
府縣 東京府ヲ除ク)

明治十五年一月十九日

內務卿山田顯義

⑦(丁)第二號

陸海軍治罪法御制定以前舊慣ニ據リ治罪手續執行ノ儀陸海軍兩省ヨリ太政官へ別紙ノ  
通相伺朱書ノ通御指令相成候條爲心得此旨相達候事  
大審院 裁判所

明治十五年一月十二日

(陸軍省別紙ハ本号雜報ノ部十七葉ニ載ス)  
司法卿大木喬任

海軍治罪法御制定マテ假手續ニ因リ取扱方ノ義ニ付伺

海軍治罪法御制定ノ義本月七日付往出第一五七二號ヲ以テ上請仕置候處右御審查御發  
令相成候ニハ暫ク日數ヲ要候趣ニ承及候就テハ新刑法ノ義ハ常律共ニ實施不相成ハ不  
都合有之候間右刑法實施ノ日迄治罪法御制定不相成キハ當分別紙遞項ノ手續ヲ以テ裁  
判事務取扱其他ハ都テ從來ノ慣例ニ依リ施行致候ハ、差支無之見込ニ候條御免許有之  
度此段伺出候也

明治十四年十二月七日

海軍卿川村純義

太政大臣三條實美殿

裁判事務取扱手續

海軍々人屬ノ海軍刑法及ヒ普通刑法ノ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ海軍法衙ニ於テ審判ス  
ヘシ

常人ノ海軍刑法ヲ犯シタル者前同斷

海軍々人屬普通刑法ノ違警罪ヲ犯シタル者重罪輕罪ト共ニ發シタル時前同斷

海軍々人屬ト常人共ニ普通刑法ヲ犯シ軍人屬正犯ニシテ常人徒犯ナル時モ前同斷



海軍々人属ト常人ト共ニ普通刑法ヲ犯シ俱ニ正犯ナル時海軍法衙ニ於テ最初其取調ニ着手シタル時ハ前同斷

海軍々人属在官在役中罪ヲ犯シ免官免役後發覺シタル時ハ前同斷  
流刑禁獄輕禁錮ノ刑ニ該ル者ハ海軍獄舎ニ錮シ從來ノ禁錮ノ如ク取扱ヒ徒刑懲役ニ該

ル者ハ從來ノ徒刑ノ如ク取扱ヒ重禁錮ニ該ル者ハ從來ノ戒役ノ如ク取扱フヘシ  
附加刑中禁治産監視ノ處分ハ地方警察官ニ托スヘシ

〔裁令〕 海軍治罪法施行ノ日マテ舊慣ニ依リ治罪手續ヲ執行候儀ハ伺之通

第一條 伺之通

第二條 常人ト雖モ海軍刑法ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ軍衙ニ於テ審判ス可シ

第三條 數罪俱發ノ例ニ從フヘシ

第四條 第五條 軍人軍属ト常人ト共ニ普通刑法ヲ犯シタル時軍人軍属ハ軍衙ニ於テ

處分シ常人ハ司法衙ニ付ス可シ

第六條 在官在役中罪ヲ犯シ免官免役後發覺シタル時海軍刑法ヲ犯シタル者ハ軍衙

ニ於テ處分シ普通刑法ヲ犯シタル者ハ司法衙ニ付スヘシ

第七條 伺之通

第八條 監視ノ執行ハ其地方警察署ニ付スヘシ

司〔丁第四號〕

大審院裁判所

各廳取扱ノ民事及勸解件數表本年一月ヨリ別紙雛形ニ準シ三月毎ニ調成シ翌月十五日限リ差出スヘシ此旨相達候事

但治安裁判所ノ分ハ所轄ノ始審裁判所ニ於テ取纏其裁判所民事事件數表ト共ニ差出スヘシ  
〔別紙雛形零ス〕

明治十五年一月十三日

司法卿大木喬任

司〔丁第五號〕

始審裁判所

今般刑法治罪法實施ニ就テハ今後刑事裁判統計表ノ材料ニ供候間別紙表式ニ準シ毎年一月一日ヨリ十二月三十一日マテノ豫審事件ヲ記載シ翌年二月マテニ取纏メ差出スヘシ此旨相達候事

但治罪法ニ拘ハラス從前ノ規則ニ從ヒ處分セシ者ハ件數及人員ノミナ別紙ニ記載シ可差出又公判ノ條件ハ追テ相達候マテハ從前ノ箇條ニ從テ取調世クヘキ事

明治十五年一月十六日

〔別紙表式略ス〕  
司法卿大木喬任

司〔丁第六號〕

大審院 各裁判所

今般陸軍海軍々人ハ勅諭被仰出候ニ付別紙ノ通り太政官ヨリ御達有之候條爲心得此旨相達候事

明治十五年一月十六日

司法卿大木喬任

司〔丁第七號〕

裁判所

從來裁判所ヨリ管内一般ノ人民ヘ達スヘキ事件ハ其旨ヲ地方官ニ移シ府知事縣令ノ名ヲ以テ布令スヘキ等ニ有之候處或ハ裁判所長ノ名ヲ以テ布令スヘキ案文ヲ附シ達方地



方官へ照會候向モ有之哉ニ相聞候右ハ都テ從前ノ手續ニ從フヘキ儀ト心得ルニ爲念此旨相達候事

明治十五年一月十六日

司法卿大木喬任

①(丁第八號)

大審院 裁判所

明治十四年丁第三十四號(本號四十葉ニ載ス)治罪法表式第四號輕罪既決未決事件表裏面治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キタルキハ云々トアルヲ左ノ如ク改正シ及ヒ左ノ表式ヲ增補候條此旨相達候事

明治十五年一月十七日

司法卿大木喬任

治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キタルキハ本表ニ準シ其裁判所々在ノ警部之ヲ調成シ管轄ノ輕罪裁判所檢事へ差出シ輕罪裁判所檢事ハ之ヲ取纏メ左ノ表式ニ準シテ更ニ調成シ管轄ノ控訴裁判所檢事長ニ差出ス可シ

(別紙表式略ス)

(畢)

明治六年 第一月

〔前〕  
司法省日誌

第十七號

①(司法省日誌明治六年第十七號)明治六年一月九日印幡裁判所伺

中講義長徳院原坦山官ニ告ス括板取計候ニ付文部省出版條例ニ照準シ其筋於テ處置可致旨教部省ヨリ印幡縣へ達相成同縣ヨリ別紙書類相廻當裁判所ニ於テ處斷有之度旨申來候然所右ハ教部省ノ規則ニ違犯スル者ニシテ之ヲ罰スルニ文部省ノ出版條例ニ照シテ斷スヘキヤ右書中ニ出版ノ條例ヲ犯者ハ所在ノ官廳ニ於テ糺判スト有之候得共右ニテハ教部省ノ指令ヲ受ケ裁決スル形ニ相當且其出サシムヘキ罰金ノ高モ識ル能ハス候並ニ相從テ諸省ノ規則ニ違犯スル者ハ夫々罰金ヲ出サシムルノ式モ有之右何モ政府ノ



許可スル所トハ雖モ執法ノ權ヲ維持スル當省ヲシテ豈他省擅ニ立ル所ノ式ニ法リ本律ヲ或如スルノ理アラン哉仍テ當裁判所ノ預ル所ニハ有之間敷可差戻トハ存候得共往々諸省於テ相立ル所ノ規律ヲ於本省ハ如何御定見有之義哉モ未相伺ス候ニ付旁以別紙書類相添此段相伺申候至急御指揮被下度候也〔別紙畧之〕

〔指令〕(一月二十日)

中講義長徳院原 垣山

權訓導嶋松軒相馬 宗禪

職制律 上司ニ申ス可クシテ申セサルヲ以テ論シ答二十賄罪ヲ聽シ仍ホ活版冊子ヲ没入ス

〔日誌第十七〕 壬申十一月廿九日

廣島縣士族藤田高之以下進退伺〔縣廳添書畧之〕

私儀廣島縣七等出仕在官中昨冬神機隊森岡久吉儀ヲ及殺害候同隊島末平助儀少屬北川猪太郎吟味仕候所當春同隊廢止之節隊中之者ハ一同ト平民相成候得共右平助儀ハ解隊後モ卒ニ有之處當人儀其段不申出元神機隊當時工ト申立ニ應シ猪太郎儀口書ニ認メ差出候處於私心付不申不行届ノ段奉恐入候依テ進退奉伺候也

廣島縣貫風士族

藤田 高之

私儀權典事在職中〔以下同文〕

同

寺尾 小八郎

元神機隊森岡久吉儀ヲ及殺害候島末平助儀吟味仕候處〔以下同文但シ於私心付不申ノ六字ナシ〕

同少屬

北川 猪太郎

〔擬律〕(一月二十日) 名例律公事失錯條 官吏公事ヲ失錯シ改正ス可キノ事ニシテ未ダ發露セサルノ時自ラ覺舉スル者ハ自首ト同ク其罪ヲ免ヌ云々文案ニ同署スル者一人自ラ覺舉スレハ餘入ハ皆罪ヲ免ヌトアルニ依リ各免罪

〔日誌第十七號〕 壬申十月晦日 正院廻リ司法少判事小畑美稻進退伺

茨城裁判所出張被仰付舊弘道館之内即今縣廳ト區別ヲ以テ裁判所ニ取設候得共白洲鞠間場モ無之然ニ己巳以來之滯獄百五拾件余有之從前之獄舎ハ遠隔之場所ニテ日々吟味筋ニ差支候ニ付不取敢演武場ニケ所ハ八拾余兩之入費ニテ白洲百五拾兩余ニ而假檻倉致營繕候處職務定制中一稜五十兩以上ノ營繕ハ庶務課ヨリ相伺許可ノ後施行可致ト有之候得共其砌庶務課體裁モ未相備有多件之斷獄聽訟受授之際加之放火之囚徒吟味旁繁劇紛擾之餘全ク章程熟讀不仕ヨリ畢竟專斷ニ立至疎漏之段恐縮仕候依之進退之儀奉伺



候也

〔擬律〕(一月二十日) 職制律 上司ニ申ス可クシテ申セサル者答三十贖罪金四兩二分

〔日誌第十七號〕 明治六年一月十八日 東京裁判所聽訟課伺、

呼出者着服ノ義聽訟規則課伺濟ノ内平民着服極困難者ニ至テハ羽織袴共所持無之實以  
差支候者ハ其段訴場へ爲中立問屆遣シ可然哉依テ別紙相添此段相伺申候

別紙  
平民 羽織袴着用又ハ兩襟ノ内一方ノミニテ不苦事  
但洋服相伺候ハ勝手ナルヘシ「トソビ」並兩具製ノ服ハ不相成事  
右之通可相心得事

〔指令〕(一月二十二日) 伺之通

〔日誌第十七號〕 警保寮廻リ遷卒兼速部高田營直當省鑑札遺失進退伺並擬律共略之

〔日誌第十七號〕 一月十三日 宮内省廻リ岸中錄進退伺

司法省廻達第四十二号昨冬十一月廿八日教部省ヨリ順達有之候處同日御用納且御神事  
中ニ付達ニ達落ニ相成既昨十一日外書類ノ内ヨリ見當不取敢外務省へ順達致候得共畢  
竟無念ノ至奉恐入候依テ進退奉伺候也

〔指令〕(一月二十二日) 名例律 官吏公事ヲ失錯シ改正ス可キノ事ニシテ未ダ發露  
セサルノ時自テ覺舉スル者ハ自首ト同ク其罪ヲ免ストアルニ依リ免罪

〔日誌第十七號〕 教部省廻リ元權大録山崎衛進退伺並擬律トモ略之

〔日誌第十七號〕 當省等外二等出仕折原長次郎御門鑑盜賊ニ因リ失亡ノ儀ニ付進退伺略之  
〔擬律〕(一月二十二日) 職制律 水火盜賊ニ因テ毀失スル者坐セヌ免罪

〔日誌第十七號〕 明治六年一月八日 名東縣伺

元徳島藩ニ於テ兵隊暴動一件ニ付罪人減等相伺候所流罪人ノ向舊里へ御引戻夫々御處  
分御指令相成候ニ付テハ左書兩條奉伺度至急御指圖被下度候也  
一 流罪人本縣へ御引渡可相成哉當出張所へ御引渡ニ可相成哉  
一 當出張所へ御引渡之節ハ臨時差置場無之ニ付寺院之内借請指置相應警固人付置候テ  
可然哉

〔指令〕(一月二十二日) 出島之流人著京次第於當地可引渡尤差向置場所及ヒ警固等  
之都合ハ従前之扱ヒ振リモ可有之ニ付足柄縣出張所へ承合宜適ニ可取計同縣官吏へ  
モ其段相達置候事



〔日誌第十七號〕

壬申十一月九日

入間裁判所伺

越中國内山村農長左衛門倅

内山 要 作

右之者備角次郎外一人ト申合百姓家八ヶ所へ抜刀或ハ棒等ヲ携押込聲立候ハ、可切殺旨申威シ剩へ家内ノ者ヲ縛置キ金錢衣類其外奪取候始末不届至極ニ付斬罪可申付哉口書寫相添此段相伺候也

但武州兒玉郡栗崎村倉本角次郎儀ハ吟味中病死生國不知字名〔ボツタ〕ト申者ハ當時行衛相知ノ不申候

〔指令〕(一月二十二日) 賊盜律 持兇器強盜得財者伺之通斬罪 贓金七十七兩余

(畢)

明治四年辛未七月之部

〔太政官〕

七月二日

去ル四月二十五日新瀉縣ニ於テ英人キソノ手統爲負逃去候賊徒搜索ノ儀ハ兼テ御達ノ次第モ有之候處今以捕獲ニ不至段畢竟御政令ノ御不行届ニ相當リ難相濟事ニ候條各地方官ニ於テ今一層嚴密搜索ヲ速ケ速ニ召捕候様盡力可致事

〔太政官〕

七月二日

東海道駿州富士川遠州天龍川渡船賃錢當分別紙ノ通被相定候條此旨可相心得事

別紙

富士天龍兩川渡船賃錢當分左ノ通相定候條定賃錢ノ外酒代等乞請候儀無之様諸事地方ニ於テ取締可致事

一船賃ノ儀ハ當七月十五日ヨリ賃錢表ノ通相定候事

一並々ノ出船ハ曉六ツ時ヨリ夕六ツ時迄ニ可限事

但急用ノ者ハ刻限不拘出船可致尤夕六ツ時ヨリ曉六ツ時迄ハ都テ定賃錢へ五割増ノ事

一増水ノ節止明ノ儀ハ従前ノ通り候事  
右之通相定候事

辛未六月

民 部 省

富士川船賃(以下略之)



〔太政官〕

七月三日

地方官地所管轄替相成候節管下ノ華士族卒等新地方官ノ可爲貫屬ハ勿論ノ儀ニ付戶籍法第四号戶籍書式中木屬ヲ以テ寄住ノ地ニ編籍スルノ例ハ御取消相成候條此旨更ニ相達候事

〔太政官〕

七月三日

上下一般書通便利ノ爲メ當三月中三府并東海道筋郵便方法御發行相成候處橫濱表ノ儀ハ内外國人幅輻ノ地ニテ各地信書往復切要ノ事ニ候然ル處是迄屆方兎角相後レ不都合不少哉ニ相聞候ニ付今般橫濱表へ郵便役所御取設東京橫濱ノ間並各地信書ノ往復更ニ便利ノ方法當七月十五日ヨリ御發行相成候條公私ノ別ナク時間賃錢表ノ通可相心得事  
表略ス

〔太政官〕

七月四日

府藩縣

今般御改正官幣國幣社已下神官家祿總テ元高ニ準シ祿制ノ通下賜地方官ヨリ粟米ヲ以テ相渡候事  
是迄ノ家祿高ヲ以テ都テ四ツ物成ノ高ニ直シ方今御定ノ通ニ歩五釐ノ制ヲ以テ自今現石ニテ被下候事  
元高五千石ハ 現米千二百五十石  
元高二千石ハ 同七百五十石  
元高千石ハ 同二百五十石

元高五百石ハ

元高百石ハ

元高五十石ハ

但現米十二石以下在來ノ通

一官幣國幣社神官官祿定則ノ儀ハ退テ可被 仰出事

一諸社御撫物被廢候事

一玉串及獻上物等御テ被廢候事

一諸國社寺領現在ノ境内ヲ除クノ外一般上知被 仰付候云々去庚午十二月御布告相成候處猶及今般僉議ノ筋有之境内地ト雖トモ總テ社納仕來候物成六ヶ年平均シテ祭典社用且社家人名家祿ノ仕譯等巨細取調管轄地方官へ可差出事  
右ノ通被 仰出候事

〔太政官〕

七月四日

今般神社祿制別紙ノ通被定候ニ付テハ境内地ヲ不論本社及建物等現今ノ地景ニヨリテ相除其他總テ上地可致尤社家居宅地ハ拜借ト爲相心得且祭典社用社家家祿ノ區別并林取調ノ分等相添別紙離形ニ倣ヒ往返ノ外日數三十日ヲ限可差出事  
但朱黒印除地等ニ無之寄附田地供米等ハ書出ニ不及事  
美濃帳袋綴表紙  
何國(何郡何郡)之内  
神社收納高仕譯帳離形

何國(何郡何郡)之内



何程  
此現米何程

黑印地  
朱印地  
除地

何國何郡何村  
何國何郡何村  
何國何郡何村

何藩府

雜稅銀何程

何社領

永何程

高何程

何國何郡何村

內高何程

何國何郡何村

元治元甲子ヨリ去々己巳迄

米何程

六ヶ年平均  
收納分

合銀何程

永何程

但口米永相除ク

此譯

永銀米何程

祭典料

但此外神供料等區別有之分ハ一々石高其譯且祭典料等ノ廉無之分ハ其譯記載ス

同何程

修復料

但人用ノ節迄年々積立等ノ仕法有之分ハ其譯且修復料等無之ハ其譯記載ス

同何程

社司  
家祿之分

但年々増減有之分ハ前書六ヶ年平均ヲ以テ記載ス

此譯

大宮司  
神主

金米何程

何之某

金米何程

何之某

但幾名有之共不洩様一名每家祿職号如本文記載ス

諸渡方米金有之候ハ、右ニ準シ委細仕譯記載ス

境內朱印地  
除外除地  
林反別何程  
但何々木立歟  
何

但社內現今地景之外



此木數何程 但九目通何尺何寸ヨリ  
何尺何寸マデ

此拂代金所相場凡何程

但林守給等渡方有之ハ高并出方共記載スヘシ

但何ヶ年前

何木數何程拂代金何程不殘社用ニ遣拂歟

又ハ何程 社用何々ニ遣拂之分

内

何程 社家自用之分

此内幾名歟分配アレハ一名毎職号配當高認出スヘシ

一 竹林モ右ニ准シ記載スヘシ

村持ニテ神職無之分ハ

一 當社村持ニテ神職無之尤モ境内物成無御座候事

但村持ト雖モ物成有之ハ前仕譯ノ所ヘ記載スヘシ

右ハ當府藩縣管轄社領現收納等仕譯書面之通御座候以上

年号干支月

何府藩縣印

〔太政官〕

七月四日

先般被 仰出候神社御改正郷社ノ儀ハ別紙定則ノ通取調可致事

定則

一 郷社ハ凡戸籍一區ニ一社ヲ定額トス假令ハ二十ヶ村ニテ千戸許アル一郷ニ社五ヶ所

アリ一所各ニヶ村五ヶ村ヲ氏子場トス此五社ノ中式内カ或ハ従前ノ社格アルカ又ハ  
自然信仰ノ歸スル所カ凡テ最首トナルハキ社ヲ以テ社郷ト定ムベシ餘ノ四社ハ郷社  
ノ附屬トシテ是ヲ村社トス其村社ノ氏子ハ従前ノ通り社職モ又従前ノ通りコテ是ヲ  
祠掌トス總テ郷社ニ付ス(郷社ニ付スト雖トモ村社ノ氏子ヲ郷社ノ氏子ニ改ムルコ  
ハアラス村社氏子元ノマ、ニテ郷社ニ付スルノミ)郷社ノ社職ハ祠官タリ村社ノ祠  
掌ヲ合セテ郷社ニ祠官祠掌アルヲ布告面ノ如シ(但祠掌ハ村社ノ數ニヨレバ幾人モ  
アルヘシ)

一 従前一社ニテ五ヶ村七ヶ村ノ氏子場其數千戸内外ニシテ粗戸籍一區ニ合スルモノハ  
乃チ自然ノ郷社タリ(祠官一人ナレバ更ニ祠掌ヲ加フモ許スベシ)

一 三府以下都會ノ地從來産土神(郷社)一社ニシテ氏子場數千戸ナルモノ戸籍ノ數區ニ  
亘ルト雖モ更ニ郷社ヲ立テ區別スルニ及ハス

一 官社又府藩縣社ニテ乃郷社ヲ兼ルモアリ假令ハ東京日吉神社(府社)京都八坂神社(官社)ノ如キ氏子場數万戸ニ亘ルトイヘ更ニ郷社ヲ建テス固ヨリ區別ニ及ハサル  
ヲ上件ノ如シ

〔太政官〕

七月四日

今般大小神社氏子取調ノ儀左ノ通被定候事

一 臣民一般出生ノ見アラハ其由ヲ戸長ニ届ケ必ス神社ニ參ラシメ其神ノ守札ヲ受ケ所  
持可致事

但社參ノ節ハ戸長ノ證書ヲ持參スヘシ其證書ニハ生兒ノ名出生ノ年月日父ノ名ヲ

記シ相違ナキ旨ヲ證シコシテ神官ニ示スベシ

一 即今守札ヲ所持セサル者老幼ヲ論セス生國及ヒ姓名住所出生ノ年月日ト父ノ名ヲ記



セシ名札ヲ以テ其戸長へ達シ戸長ヨリコレヲ其神社ニ達シ守札ヲ受ケテ渡スヘシ  
但現今修行又ハ奉公或ハ公私ノ事務アリテ他所ニ寄留シ本土神社ヨリ受ケ難キモ  
ノハ寄留地最寄ノ神社ヨリ本條ノ手續ヲ以テ受クベシ尤來申年正月晦日迄ヲ期ト  
ス

一他ノ管轄ニ移轉スル時ハ其管轄地神社ノ守札ヲ別ニ申受ケ併テ所持スヘシ  
一死亡ヒシモノハ戸長ニ届ケ其守札ヲ戸長ヨリ神官ニ戻スベシ

但神葬祭ヲ行フ時ハ其守札ノ裏ニ死亡ノ年月日ト其靈位トヲ記シ更ニ神官ヨリ是  
ヲ受ケテ神靈主トナスベシ尤別ニ神靈主ヲ作ルモ可爲勝手事

一守札燒失又ハ紛失セシモノアラハ其戸長ニ其實事ヲ糺シテ相違ナキヲ證シ改テ申受  
クベシ  
一自今六ヶ年目毎戸籍改メ節守札ヲ出シ戸長ノ檢査ヲ受クベシ

一守札ヲ受クルニヨリ其神社へ納ル初穂ハ其者ノ心ニ任セ多少ニ限ラザルヘシ  
右ノ通ニ候條取調相濟候へハ早々可届出尤不審ノ廉有之候へハ神祇官へ可承合候事

〔太政官〕

七月四日

今般大小神社氏子訓ノ儀被定候ニ付テハ各地方管内神社神官ノ輩守札差出方左ノ通相  
心得粗畧ノ儀無之様取扱可申事  
臣民共出生ノ兒其土地ノ神社へ參詣シ候ハ戸長ノ證書ヲ照シ其名前出生ノ年月日及ヒ  
父ノ名ヲ氏子帳ニ記シ左ノ離形ニ隨ヒ守札ヲ可相渡事

表		裏	
某所某神社氏子	生國何 父名男 何誰女	神官 氏名印	同 氏名印
年月日出生		年月日	氏名印

此寸法堅三寸横二寸ノ木札ヲ用ヒ中ニ其神社所用ノ印ヲ押スヘシ  
生兒社參ノ日限ハ従前ノ通相心得ヘシ尤病氣等ハ此限ニアラス  
即今守札所持セザルモノハ其戸長ヨリ生國及ヒ姓名住所出生ノ年月日父ノ名ヲ記シ名  
札差出ス時ハ守札ヲ渡シ氏子帳ニ其名前ヲ記シ置クヘシ  
但現今修行又ハ奉公或ハ公私ノ事務アリテ寄留スルモノモ本條同様相心得無差支相  
渡シ可申尤モ此日限ハ來ル申年正月晦日マテテ限トス  
他ノ管轄ニ移轉スルモノハ其移轉セシ土地神社ノ守札ヲ別ニ渡スヘシ  
死亡ノモノハ其守札ヲ戻スヘキニ付其由ヲ氏子帳ニ記スヘシ  
但神葬祭ヲ行フモノハ其守札ノ裏ニ死亡ノ年月日ト其靈位トヲ記シ更ニ相渡シ其  
時々死亡ノ由ヲ記録シ名前員數書トモ其管轄處へ差出候事當四月御布告ノ通心得ヘ  
キ事  
守札燒失又ハ紛失セシモノアリテ其實事ヲ證スル時ハ其由ヲ記シ別ニ渡シ氏子帳ニ其由  
ヲ記シ置ヘシ



守札ヲ受ルニヨリ其神社へ納ムル初穂ハ其モノ、心ニ任セ多少ニ限ラサルヘシ  
出生ノ兒及ヒ氏子人ノ數其名前ヲ錄シ毎年十一月中其管轄區へ差出シ十二月中太政官  
へ差出スヘシ  
右ノ通管内大小神社へ可相達事

(備考)明治六年五月廿九日第百八十號御布告ヲ以廢止(全報四十六號明六五月之部  
十四葉)參觀

〔太政官〕

七月四日

諸藩

大教御趣意ノ儀ハ兼テ被 仰出モ有之候處猶又今般別紙ノ通 御沙汰相成候條各地方  
官篤ク奉體シ罷勉從事可致事

別紙

但諸藩宣教掛ノ者一同歸藩被 仰付候猶向後出京期限等ハ追テ可被 仰出事

大教ノ旨要ハ神明ヲ敬シ人倫ヲ明ニシ億兆ヲシテ其心ヲ正クシ其職ヲ効シ以テ 朝廷  
ニ奉事セシムルニアリ教ノ以テ之ヲ導クヲナケレハ其心ヲ正シクスルヲ能ハス政ノ以  
テ之ヲ治ムルヲナケレハ其職ヲ効スヲ能ハス是教ト政ト相須テ行ハル、所以ナリ今ヤ  
更始ノ時ニ方リ 神武天皇鴻業ヲ創造シ玉ヒ 崇神天皇四方ヲ經營シ玉フ 御偉績ニ  
基カセラレ時ニ因リテ宜キヲ制シ大ニ變革更張被遊候處大教ノ未タ浹洽ナラサルヨリ  
民心一ツナラス其方向ニ惑フ是レ宣教ノ急務ナル所以ナリ夫人ハ萬物ノ靈神明最モ惠  
顧シ玉フ所ノ者ナリ 天孫皇太神ノ勅ヲ奉シ斯土ニ君臨シ之レヲ撫字シ玉ヒシヨリ  
列皇相承亦皆 太神ノ心ヲ以テ心ト爲シ玉ハサルハナシ然リ而シテ太政ノ變更ズル所  
アルモノハ世ニ古今ヨリ時ニ汚隆アルヲ以テノヲニテ元ヨリ斯民ヲシテ其心ヲ正シク

シ其職ヲ効シ以テ昏迷ヲ解キ終始仰テ依ル所ヲ知ラシメント期シ玉フハ 前聖、後聖  
其揆一ナリ故ニ大教ヲ宣布スル者誠ニ能ク斯旨ヲ體認シ人情ヲ省テ之ヲ調攝シ風俗ヲ  
察シテ之ヲ提撕シ之ヲシテ感發奮興シ神賦ノ知識ヲ開キ人倫ノ大道ヲ明ニシ神明ヲ敬  
シ其惠顧ノ洪恩ニ負カス 聖朝發撫ノ盛旨ヲ戴キ以テ維新ノ隆治ニ歸向セシムヘク候  
是政教一致ノ御趣意ニ候事

〔太政官〕

七月五日

先般御布告ニ相成候傳染疫ノ儀ニ付猶又大學東校ニ於テ別冊ノ通譯述候條頒布候事  
別冊(零之)

〔太政官〕

七月七日

先般社寺領上地課 仰出候ニ付テハ現収納取調ノ上御定ノ祿制ヲ以テ夫々處米御渡可  
相成處調方御都合ノ次第モ有之當未年ノ分ハ元社寺領収納物成凡五分通テ目的ニ致シ  
各地方官ヨリ相渡置退テ處米ノ割合被 仰出候節過不足精算可致事  
但府縣ノ分ハ大藏省へ申立ノ上渡方可取計事

〔太政官〕

七月十日

華族元服家督等并ニ僧侶官位住職等ノ節諸獻上物ノ儀自今一切被停止候事

〔太政官〕

七月十日

府縣

府縣諸拜借改正ニ付當六月中旬迄證文書改可申旨先般相達置候處今以差出不申不都合  
ノ事ニ候條有無共早々取調大藏省へ申立兼テ布告ノ通可取計事

〔太政官〕

七月十日

辨



官祿切手渡シ日割

十七日 神祇官 太政官 十九日 宮内省 民部省 集議院  
 廿二日 大藏省 司法省 廿四日 外務省 大學南校 工部省  
 廿七日 東京府 大學 同東校  
 當七八兩月分官祿渡ノ儀別紙日割ノ通於大藏省切手可相渡候間即日ヨリ翌朝迄ニ淺草御藏へ持參可有之尤十七十九兩日渡ノ分ハ盆前十二日迄其余渡日五日以前迄ニ仕出シ書差出無之向ハ手順モ有之候ニ付渡方跡廻シ取計候條遲延無之様可致候此段相達候也

〔太政官〕

七月十三日

此度新貨幣御發行相成候ニ付テハ各管内へ御趣意ノ趣篤ト貫徹致シ異說流言等ニ誤惑不致様無洩說論可致候依テ此程頒布相成候新貨幣條例猶又御渡相成候事但不足ノ分ハ書肆ヨリ買上ケ管内普ク配達可致候事

〔太政官〕 辨

七月十三日

今般彈正臺被廢候付テハ同臺ヨリ取調ニ相成居候諸事件一切司法省へ可伺出事

〔太政官〕

七月十四日

今般藩ヲ廢シ縣ヲ被置候ニ付テハ退テ 御沙汰候迄大參事以下是迄通事務取扱可致事

〔太政官〕

七月十四日

貨幣ハ天下一定ノ品ニ可有之處從來諸藩ニ於テ各種々ノ紙幣ヲ製シ其通用價位區々ニ

相成不都合ノ事ニ候今般廢藩ニ付テハ總テ今七月十四日ノ相場ヲ以テ追テ御引換相成候條此旨兼テ可相心得事

〔太政官〕

七月十四日

今般辨官被廢候ニ付テハ諸願伺届等總テ其關係ノ諸官省へ直ニ可差出事

〔太政官〕

七月十八日

新貨幣鑄造ニ付金銀銅ノ三品勝手賣買不相成旨去ル己巳十一月中相達置候處自然換用ノ便ヲ失ヒ竟ニ諸鑛山ノ生産品ヲ減少イタシ候趣ニ付向後御國內限リ勝手賣買差許候條其旨相心得有職業ノ者自由營業可爲致候且諸鑛年分堀出高等管轄地方官ニ於テ別紙表式ノ通取調翌年三月限リ大藏省へ可届出事

但金銀二品外國輸出ノ儀ハ御條約面ノ通相心得可申銅ノ儀ハ是迄ノ通五分ノ税金相納候上ハ輸出差許候事

例則

- 一 此表式ハ全ク概略ノ離形ニテ唯表出ノ體裁ヲ揭示スルノミナレハ各地方鑛産出ノ多寡ニ應シ其管轄廳ニテ年々適宜ノ表ヲ作り差出ス可シ
- 一 表中官鑛私鑛ノ區別ハ御手山ト商人ノ請負稼ノ山トヲ分ツグメナレハ其區分ヲ明カニシ混雜ナカラシムヘシ
- 一 消費ト記スハ人足賃錢其外堀出ニ付一切ノ諸費ヲ視シ出產高ト較計シテ其得失ヲ知ラシムル爲メナレハ各品堀出ノ費用ヲ分チ其每條下ニ記載スヘシ
- 一 收稅ト記スハ其山ニ就テ收稅スル運上冥加又ハ產出高ニ應シ課稅スルノ額毎年正月



ヨリ十二月迄一ケ年分ノ集額ヲ記載スヘシ  
 但米雜穀コトヲ収納スルアラハ時相場又ハ定相場ヲ以テ永コ直シテ記スヘシ  
 一産出諸礦員數ハ都テ貫目ヲ以テ記載スヘシ  
 一産出高表面ニ掲載スヘキ種類概略左ノコトシ  
 金(筋金山吹金砂等ヲ區別シテ表出スヘシ以下之ニ倣ヘ) 銀 銅(金含ノ有無) 鐵鉛(金含ノ有無) 錫 亞鉛 水銀 白目 水晶 燧石 硯 砥 石炭 硫黃 明礬 紺青綠青 辰砂 煉化石素土 陶器藥石類 丹礬 砒石 石膏 黃土 孔雀石  
 右ノ外遺漏アラハ之ヲ補錄スヘシ (鑛山年表ハ略ス)

〔太政官〕

七月十九日

縣 元 藩

今般廢藩被 仰出候ニ付テハ追テ縣治一定御規則可被 仰出候得共差向是迄取扱來リ  
 候庶務ハ大參事處決可致尤重大ノ事件ハ伺出可請朝裁事

〔太政官〕

七月廿二日

官 省

諸御門番兵右大臣ヲ始メ文官通行ノ節禮式ノ儀追テ御規則被相立候迄被止候事

〔太政官〕

七月廿二日

府 縣

寄留旅行ノ者ニ鑑札可相渡旨兼テ相達置候處不及其儀候條更ニ相達候事  
 但寄留并ニ出入届方寄留表取調等都テ規則ノ通可相心得事

〔太政官〕

七月廿二日

從前用來リ候藩印是迄押印致シ候書類其儘相用候様元藩々ニ相達候間爲心得此段申入

候也

〔太政官〕

七月廿四日

縣 元 藩

今般各藩被廢候ニ付テハ大藏省官員出張會計向夫々精密取調可相成候ニ共差向キ從來  
 ノ藩債ヲ始別紙雛形ノ條々迅速取調往復日數ノ外十五日ヲ限リ大藏省ニ可差出尤尋問  
 即答相成候者持參可致事

雛形 用紙美濃紙堅帳  
 表紙

士族卒祿高取調帳

元高何万石

此現米何万石

扶持方何人扶持

合改正高 現米何万石

扶持方何人扶持

片万三行ニ認ムヘシ

元高何千石

此現米何十何石

扶持方何人扶持

改正高 現米何十何石

扶持方何人扶持

士族卒

何ノ某



御一新後改正不致藩、改正高ト認ニ不及事

元高何百石

此現米何石

扶持方何人扶持

同現米何石

同扶持方何人扶持

元高何石

此現米何石

扶持方何人扶持

同現米何石

同扶持方何人扶持

右之通候也

干支

月

表紙

藩債取調帳 用紙前同斷

一藩債何十萬兩

內

何十萬兩

內

何萬兩

士族卒  
何ノ某

士族卒  
何ノ某

何縣

內國借入

內何程返辨濟

右何年何月何某方ニテ借入期限何年返濟目的何々約定書云々

何拾萬兩

內

何萬兩

內前同斷

右何年何月何國ヨリ借入外同斷

右ノ通候也

干支

月

表紙

米金取調帳 用紙前同斷

一高金何拾萬兩 但未七月十四日有高

從前仕拂之分者詳細ニ相認メ追テ可差出事

內

何拾萬兩

何萬兩

一米何拾萬石

從前之分前同斷

內

何拾萬石

當何年何々ニ可相用凡見込

何々

但未七月十四日有高

當何年士卒ニ可宛行凡見込

何縣



何拾万石 右同斷何々ニ可相用凡見込

外

貸付金何万兩

金何万兩

金何万兩

產物基立等

假渡金何万兩

金何万兩

金何万兩

但產物等ニ換候分其品有高別帳ニ取調可差出事

右之通候也

干支

月

何縣

〔太政官〕

七月廿四日

今般宮内文部兩省へ左ノ通被置候條爲心得相達候事

宮内省

侍從長

相當正四位

大監

相當從六位

少監

相當正八位

内匠司

調度司

文部省

大博士

相當從三位

中博士

相當正四位

少博士

相當從四位

大教授

相當正五位

中教授

相當從五位

大助教

相當從六位

權大助教

相當正七位

中助教

相當從七位

權中助教

相當正八位

少助教

相當從八位

權少助教

相當正九位

(備考)六年七月十七日御布告ヲ以廢止(全報四十四號明六七月之部四十葉)參觀

〔太政官〕

七月二十四日

縣元藩

今般藩ヲ廢シ縣ヲ被置候ニ付テハ租稅ノ儀一般ノ法則ニ可引直ノ處因襲ノ久キ一時ニ

引直候テハ却テ民情ニ悖リ候儀モ可有之ニ付當未年ハ悉皆舊貫ニ仍リ可申尤是迄取扱

來リ候方法并雜稅ノ名義區別等詳細取調來ル申年中迄ニ可伺出候事

〔太政官〕

七月二十五日

縣元藩

先般御布告相成候諸御門警戒兵規則第一則自今左ノ通被改候條更ニ相達候事

一火手坂下兩御門ハ御門鑑札所持無之者一切通行禁止ノ事

但勅任官以上ノ官員ハ此例ニ非ス尤不審体ノ者ハ必ス役名姓名等相糺シ可申候大

手坂下兩御門ノ儀ハ兩側ニ二人宛晝夜相立出入ノ者印鑑姓名等相改通行可爲致事

〔太政官〕

七月二十五日

縣元藩

今般藩ヲ廢シ縣ヲ被置候處昨午年租稅收納相濟候儀ニ付當未年九月迄ハ右收納ヲ以テ

諸費悉皆從前ノ通可取計事

〔太政官〕

七月

縣元藩

今般藩ヲ廢シ縣ヲ被置候處昨午年租稅收納相濟候儀ニ付當未年九月迄ハ右收納ヲ以テ



是迄諸官省委任ノ輩へ相渡置候御門鑑札ノ内第一番ノ分今度御引替ニ相成候間各其官省ニテ取集メ來廿八日第十字ヨリ二字迄ノ内持參可有之此段相達候事  
追テ夜中通行紙印鑑モ同様取集持參可有之事

七月廿七日

府 縣

〔太政官〕

從前高掛ヲ以テ納來候三役ノ内傳馬宿入用米ノ儀今般驛法改正ノ等ニ候間自今不及上納藏前入用追々金納ノ向モ有之ニ付以來高掛ヲ以テ取立候儀ハ廢止其年上納米高へ掛リ候費用至當ノ割合ヲ以テ納方可申達六尺給米儀ハ御詮議ノ筋有之更ニ被廢止候事

〔太政官〕

史傳

七月廿七日

自今委任官

宣下之節政府ヨリ  
宣旨下渡シ其官省卿輔ニテ可被相渡此段爲御心得申入候也  
追テ本人御請致シ候ハ、直ニ御届可有之候也

〔太政官〕

史傳

七月廿七日

大藏省中監督司用度司租稅司ヲ被廢更ニ左ノ通被置候事  
租稅寮 勸業司 統計司 紙幣司 戶籍司 驛遞司

〔太政官〕

史傳

七月廿七日

驛遞ノ儀諸道一般相對繼ノ仕法ヲ設ケ物價相當ノ賃錢ヲ定メ人馬遣自由ニ出來候様ノ方法相建候者行旅ノ便宜ヲ得ルノミナラズ驛々潤助ニモ可相成候間右ノ趣各管轄限リ

驛村々迄人馬請負入札等觸可申候尤モ賃錢建方等ノ儀其所物價相當ノ處ヲ以テ參酌シ入札可爲致尤請負人ノ儀ハ壹兩人ニテモ亦數人組合候共不苦候右ハ相對繼ノ事ニ付傳馬所ト不致混淆様相心得夫々及說論諸荷物取扱等篤ト勘辨致サセ請負人名前取調早々可伺出事  
但東海道驛々ノ儀ハ今般相對人馬繼立ノ仕法和立顯出候趣モ有之候間別段取調ニ不  
及候事  
辛未七月 民 部 省

別紙ノ通被 仰出候尤此迄民部省ヨリ相達候處同省被廢候ニ付當官ヨリ此旨相達候事  
〔太政官〕 史傳 七月廿八日

御布告是迄民部省ヨリ相達候處今般同省被廢候ニ付自今從當官相達候條可被得其意候也

〔太政官〕

七月廿八日

太政官中左ノ通被廢候事  
左右大臣 大納言 大史 權大史 少史 權少史 主記 官掌  
太政官職制左ノ通被定候事  
太政官 正院

太政大臣 正二位 從二位 納言 從二位 參議 正三位  
樞密大史 正四位 樞密權大史 從四位 樞密少史 正五位



樞密權少史 從五位 大史 從四位 權大史 正五位  
 少史 從五位 權少史 正六位  
 式部局 長 正四位 助 從四位  
 舍人局 長 從六位 助 正七位  
 雅樂局 長 從六位 助 正七位  
 左院 議長 正三位 一等議員 從三位 二等議員 正四位  
 二等議員 從四位  
 右院 諸省長官次官

太政官

七月

清濁酒醬油釀造株鑑札渡方并ニ稅則ノ儀是迄一定ノ成規無之間々無鑑札ニテ自釀爲致候向々モ有之哉ノ趣元來收稅ハ其事ヲ修治スルノ要費ニ供スルノ儀ニ候處右様稅則及取締方法紛雜致シ候テハ其弊害不少ニ付今般改テ國內齊一ノ規則別紙ノ通確定相成候條自今以後無鑑札ニテ釀造不相成イ勿論總テ成規ニ遵ヒ犯違無之様各管轄廳ニ於テ取締可致候事

別紙 今般清濁酒其外銘酒類并ニ醬油釀造御定稅則御改正被 仰出從前ノ株鑑札都テ廢止致

シ更ニ免許鑑札大藏省租稅司ヨリ引替可相渡間是迄渡シ置候鑑札ハ不殘府縣管轄廳ニ於テ取締當未年十月限リ同省へ可差出事  
 但鑑札壹枚毎ニ造人國郡村名前書小切ニ認メ且其管轄廳印ヲ押シ鑑札相添可差出事  
 一 是迄分ケ株ト唱ヘ一株ヲ二所或ハ三所ヘ分ケ候者有之趣右ハ自今禁止候事  
 一 右分ケ株ヲ以テ釀酒致シ居候モノ今般改テ相願候ハ、新規鑑札下ケ渡候間願人姓名再相添前同様可差出候事  
 一 向後新規稼致シ度望ノ者ハ其管轄廳へ願出次第姓名其外前同様取調可差出事  
 一 右免許鑑札所持ノ者以來石數ノ定限無之釀造ノ手續ハ其年造込凡積石數銘々ノ力ニ應シ造主ヨリ八月晦日限リ爲申立各管轄廳ニ於テ其年柄勘辨ノ上釀造石數差定造高免許鑑札相渡シ置總体取纏石數名前等直細認分ケ十月中大藏省租稅司へ可相屆事  
 但當未年ハ免許鑑札引換以前ノ儀ニ付從前ノ株鑑札ヲ以テ造込石數可爲申立事  
 一 造高免許ノ鑑札年々稼人へ下ケ渡方ハ各管轄廳ニ於テ造込石數聞届候節別紙雛形ノ通認メ相渡可申事  
 一 免許料造高免許稅其外都テ各管轄廳ニ於テ綿密ニ簿冊ニ記入シ稼人總一免許料何程造込石數何程造高稅何程ト各造人名面明細ニ認譯候調書右收稅金ニ相添年々十二月限リ府縣共直ニ大藏省へ相納可申事  
 一 管內若シ濃造ノ者有之候ハ、別紙規則ニ從ヒ科料可申付尤モ右手續ハ調書ヲ以テ其節可相屆事  
 右ノ趣管內無遺漏可相觸事

辛未七月 清濁酒醬油鑑札收與并ニ收稅方法規則

第一則

民 部 省  
 大 藏 省



一新規免許鑑札願受候モノハ爲免許料清酒ハ金拾兩濁酒ハ金五兩醬油ハ金壹兩一分宛可相納尤モ味淋白酒其外銘酒類ハ清酒ノ通タルヘキ事

但右鑑札引替ノ分ハ免許料ニ不及候事

一免許鑑札ハ來申年ヨリ毎年八月其管轄廳ニ於テ相改メ可申万一燒失流失或ハ盜難等ニテ失ヒ候者有之候節ハ事實取糺シ手續書ヲ以テ其段租稅司ヘ申立更ニ鑑札相下可申事

但燒失等ニテ更ニ鑑札相下ケ候ヘハ新規願受ケ候節ノ免許料ノ半高上納可致候事

一造高ノ多少ニ不拘清酒ハ稼入一個ニ付金五兩濁酒ハ金一兩二分醬油ハ金二分ツ、當未年ハ十月來申年ヨリ毎年八月鑑札改メ節免許稅トシテ可相納候事

但味淋白酒其外銘酒類ハ清酒ノ通タルヘキ事

一造方休業致シ候者モ當未年ハ十月來申年ヨリ毎年八月鑑札ノ改メヲ受可申其節御定則ノ免許稅可相納事

一休業致シ候者免許鑑札返納相願候ヘハ免許稅ニ不及候事

第二則

一免許鑑札賣買致シ度者ハ雙方村町役人トモ連印ヲ以テ其管轄廳ヘ願出不相當無之候ハ、其廳ニ於テ別紙雛形ノ通繼紙證文致シ免許可致事

但買請人國郡村名前書相添管轄廳ヨリ租稅司ヘ可相屆事

一右鑑札賣買ノ節證印稅トシテ賣代金百分ノ二(但拾兩ニ付永二百文)相納可申事

第三則

一每年八月免許鑑札改メ節其年ノ造高申立造高免許ノ鑑札可相願事

但當未年ハ免許鑑札引替以前ニ付從前ノ株鑑札ヲ以テ可申立來申年以來ハ今年渡置候造高免許鑑札ヘ其年ノ造高ヲ別紙雛形ノ通小切ニ認糊付致シ可差出事

附昨年ノ造高免許鑑札燒失等ノ節ハ別段書面ヲ以可願出事

一右ノ如ク當年造込願高認添候昨年ノ造高免許鑑札ハ八月限リ差出候ヘハ各管轄廳ニ於テ其年柄ヲ察シ國內ノ總造高ニ見比シ詮議ノ上相定メ九月限リ別紙雛形ノ通造高免許鑑札可相渡事

但本文鑑札ハ其管轄廳ニ於テ製造致シ候儀ト可心得候事

第四則

一清酒ハ造高改メシテ時宜見計管轄廳ヨリ巡見造高相改可申事

但醬油ノ儀ハ五拾石以上造ヨリハ出役ノ上可相改事

一濁酒ハ時々釀造可致ニ付支配役人ノ見分ニ不及尤造込ノ都度釀造人ノ村町役人トモニ於テ見分致シ綿密ニ相改造高免許鑑札ノ數ニ不過様可取締事

第五則

一清酒并ニ銘酒類味淋白酒等生酒代金ノ五分(但百兩ニ付五兩)其所前年ノ酒價平均ヲ以テ爲釀造稅每年八月造高免許鑑札相願候節金高爲書出十月中可相納事

一濁酒ハ右同斷ノ三分(但金百兩ニ付三兩)前同様ノ振合ヲ以テ可相納事

一醬油ハ前同斷ノ五厘(但金百兩ニ付二分)右同様ノ振合ヲ以テ可相納事

第六則

一免許鑑札無之自己ノ利益ヲ計リ商賣ノ爲メ密釀致シ候者於相顯ハ都テ其品取上ケ清酒銘酒ハ造高百石ニ付金七拾五兩(一石ニ付金三分)濁酒并ニ醬油ハ造高百石ニ付金二十五兩(一石ニ付金二分)ノ割ヲ以科料可申付事



一其年ノ造高免許鑑札不願請自儘ニ釀造致シ候モノ於相顯ハ其釀造品ハ勿論兼テ相渡  
 シ置候免許鑑札ヲモ取上ケ且爲科料清酒銘酒類ハ造高百石ニ付金二十五兩(一石ニ  
 付金一分)濁酒并ニ醬油ハ造高百石ニ付金拾兩(一石ニ付永百文)ノ割ヲ以テ取立可  
 申事  
 一過造致シ候者ハ其過造ノ分ヲ取上ケ清酒銘酒類ハ造高百石ニ付金五拾兩(一石ニ付  
 金二分)濁酒并ニ醬油ハ造高百石ニ付金二十五兩(一石ニ付金一分)ノ割ヲ以テ科料  
 可申付事  
 但取上候諸品并ニ釀造ノ分共入札拂可申付事

第七則

一右様取締相立候ニ付テハ向後規則ニ背キ候取計有之候者ハ都テ定則ノ科料金可申付  
 若シ又村町役人等ニテ釀造人ノ頼ニ寄リ不正筋取計候カ又ハ不正筋ト乍存見遣シ候  
 事共有之於相顯ハ相當ノ各可申付事  
 一稼人共不正筋有之候ヲ見付訴出候者ハ其品ニ從ヒ相當ノ賞譽可有之事  
 一科料金并ニ取上ケ品拂代總高百兩迄ハ五分通百壹兩以上ハ三分通(但百一兩ナレハ  
 百兩迄ノ五分ト一兩ノ三分トナ合セ五兩永三十文ノ割)取扱候者又ハ訴出候者ハ褒  
 美并ニ爲手當被下候ニ付管轄廳ニ於テ相當ニ配給可致候事  
 右ノ通規則相立候間各管轄廳ニ於テ成規ニ照準シ取締可致且收稅及ヒ科料金等ノ儀年  
 々精細ニ調譯簿冊ニ記載シ其年十二月中府縣共大藏省ニ可相納候事  
 但本文規則相立候ニ付テノ諸入費ハ府縣トモ一ケ年試ノ上可申立事  
 辛未七月

民部省  
大藏省

用紙程村六ツ切ノ事

表面

第何号

清酒造鑑札

何府 何縣 支配何國何郡何町 何 某

某

釀造免許鑑札賣買ノ節  
管轄廳證印ノ雛形

年号  
干支月

免許

大藏省  
租稅司 印

割印

繼目印

此釀造免許鑑札何國何郡何  
村誰御定ノ通手數ヲ以テ買  
受候條相違無之モノ也

年号  
干支月

何府 何縣 應 印

濁酒醬油其外田之ニ効フ

裏面

年号  
干支月

割印

免許

大藏省  
租稅司 印

造高免許鑑札雛形

表面

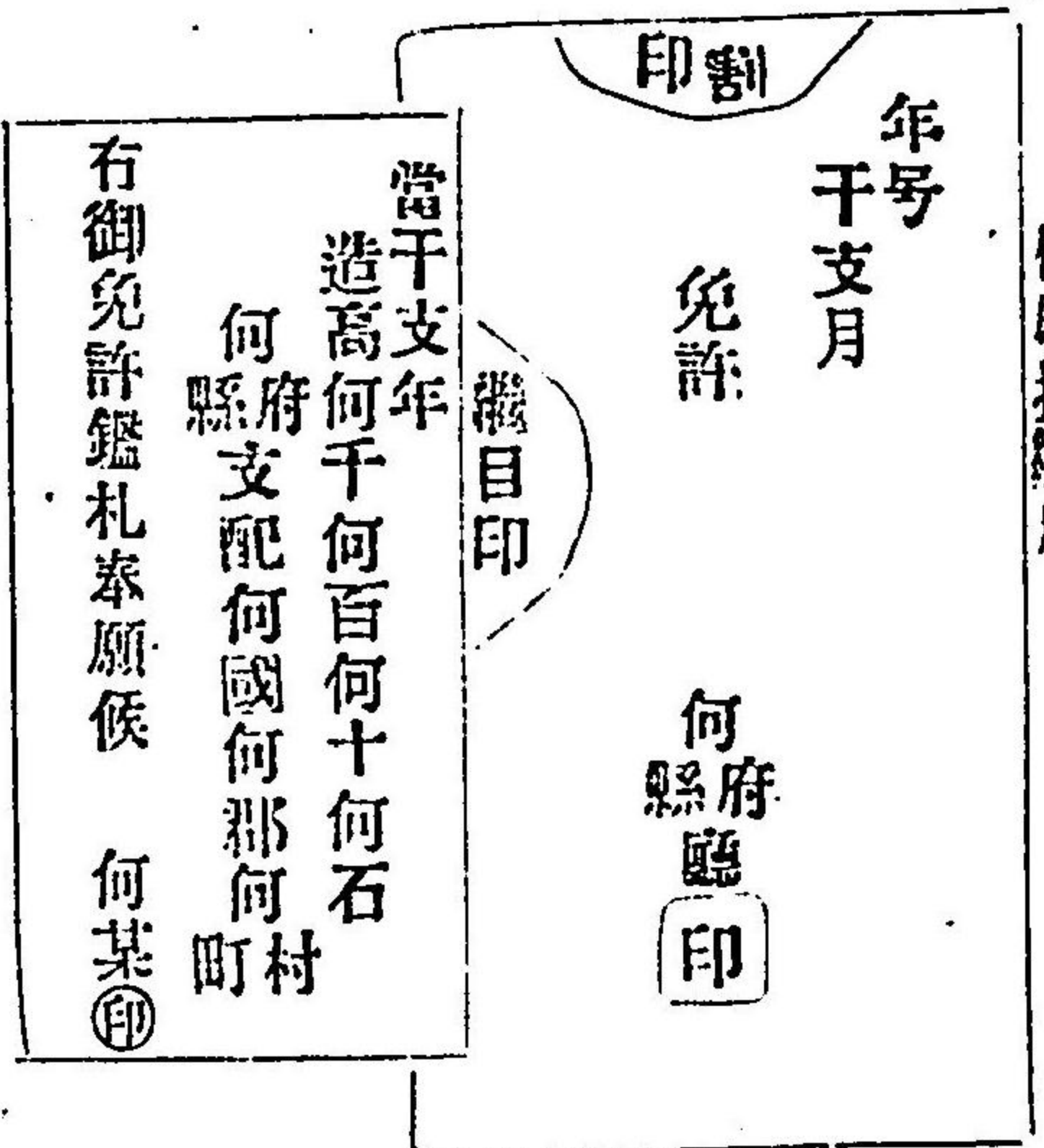
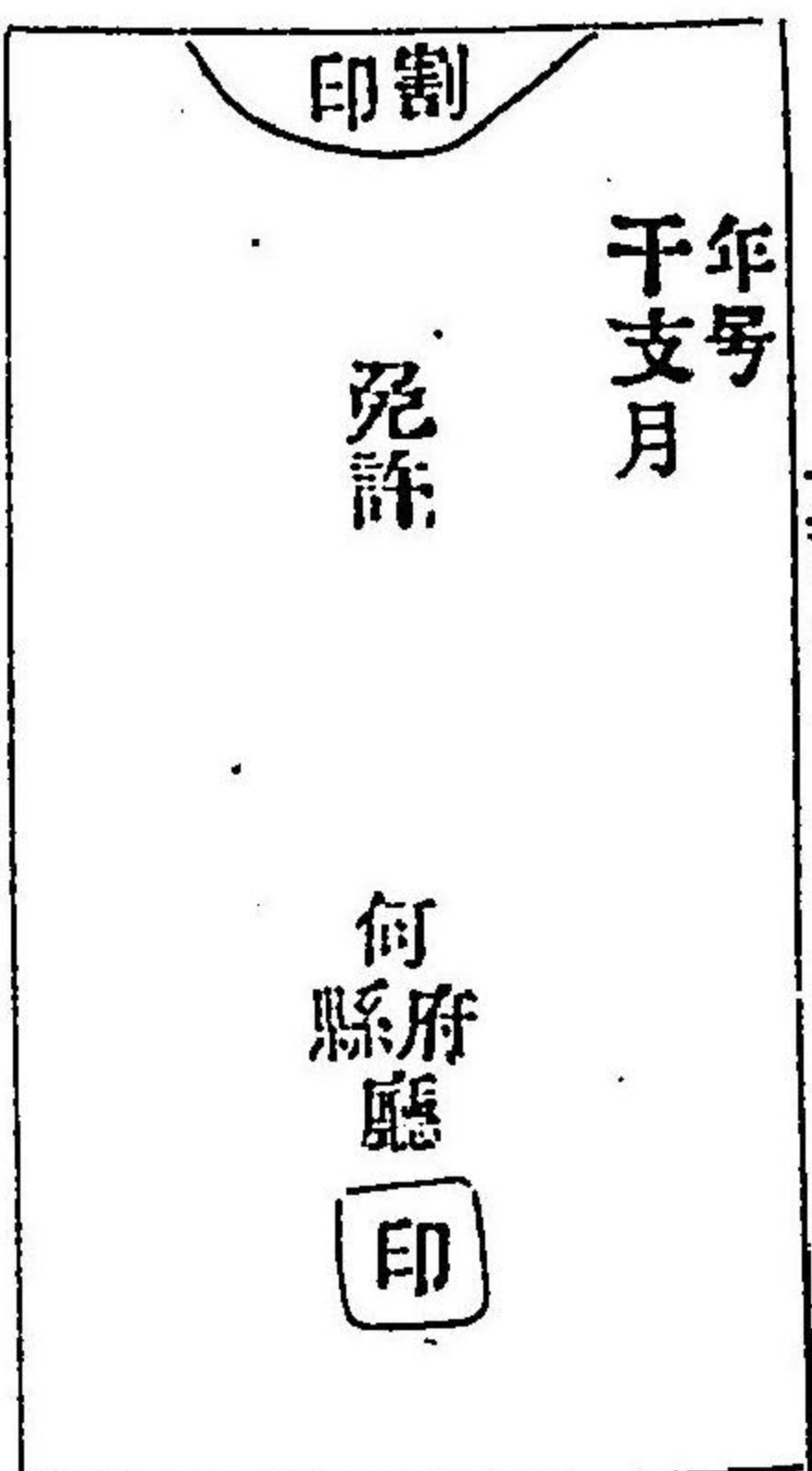
第何号

干支月  
清酒何千何百何十何石造

何府 何縣 支配何國何郡何町 何 某

某





(備考)四年十月十四日御布告ヲ以増補(全報六十四號明四九十月之部廿三葉)〇七年一月九日第二號御布告ヲ以追加(全報卅八號明七一月之部一葉)〇八年二月七日第廿六號御布告ヲ以更定(全報三十一號明八二月之部十七葉)參觀

大藏省

七月五日

別紙同濟ニ付及御廻達候也  
別紙

諸官員免職ノ者被下物ノ儀他官省ヨリ轉任ニ候トモ勤續ニ候ハ、前省ニテ拜命ノ月ヨリ算ヘ夫々御規則ノ通被下物相渡一旦免職月ヲ越ヘ更ニ拜命ノ分ハ更ニ拜命ノ月ヨリ算ヘ候積先達テ伺ヒ相濟候處月末免職翌月初旬拜命致候者ハ不公平相成候間以來一旦免職致シ三十日以内更ニ拜命ノ分ハ勤續ニ準シ三十日以外ハ更ニ拜命ノ月ヨリ算シ滿一ケ年二ケ年ノ區別ヲ以被下物相渡候積取極申度此段相伺候也  
伺之通

大藏省

七月晦日

官省院臺

非常ノ節禁出辨當ノ儀是迄元用度司ニ於テ取計來候所同司御廢止相成候上ハ當省ニ於テ不及關係候間此後非常ノ砌被下相成候分其御局ニ於テ時刻等御見計精々御不益不相立様御取賄有之其月ノ御入用ヘ御組込精算帳御差出可相成候此段兼テ及御掛合置候也

大藏省

七月晦日

官省院臺

今般用度司被廢候ニ付テハ是迄渡來候宿直並ニ下部賄筆墨紙等當分各官省ニテ御賄可有之尤追テ取調ノ上定額可相立候ヘ用差向凡積ヲ以當座入費金御渡可申候此段及御廻達候也

明治四年辛未七月之部 畢



官 令 全 報 第 六 十 六 號 雜 報

〔太政官〕 御 達 十四年十二月 海 軍 省

別紙陸軍省御憲兵隊將校以下警察上ニ係ル職務上犯罪處分儀朱書之通り及指令候條爲  
必得此旨相達候事  
別紙陸軍省伺

憲兵隊將校以下輕犯アリ其軍紀ニ關スル者ハ該條例第十九條ニ據リ陸軍懲罰令ヲ以テ  
處分可致ノ處警察ニ係ル職務上ノ過誤失錯ハ兼職ノ三省ニ於テ直ニ處分可相成哉又ハ  
自分ヲ管轄スル上ハ悉皆於常省懲治可致儀ニ有之候哉若シ然ル時ハ何レノ規則ニ據リ  
如何處分可致哉右ハ職務實施ノ期追々差追候間至急御指令有之度此段相伺候也  
〔裁令〕 伺之趣警察ノ職務ニシテ事ノ軍紀ニ關セサル過誤失錯ト雖モ當分ノ内其省陸  
軍懲罰令ニ照シ處分可致事

〔太政官〕 御 達 十四年十二月廿八日 開 拓 使

儀ニ其使ヲ置カレ北海道開拓ノ事務ヲ委任シ十ヶ年間別途ニ定額金ヲ支出シ來リ候處  
來ル十五年ニ至リ滿期候ニ付同年限リ廢使置縣ノ處分ニ可及候條別紙條項ニ隨ヒ關涉  
ノ各省ニ協議シ將來置縣ノ方法詳細取調上申可致此旨相達候事  
一 縣地ノ區域ヲ審シ縣廳ノ位置ヲ定ムル事  
一 縣廳ノ經費并官民費ノ區分ヲ定ムル事  
一 所屬諸鑛山及ヒ鐵道處分之事  
一 所屬諸牧場其他開墾地等處分之事



一所屬船舶處分之事  
一屯田兵處分之事

一所屬諸器械處分之事  
一學校處分之事

〔陸軍省〕 御 達 十四年十二月 東京憲兵本部  
其將校以下警察ニ係ル職務上ノ過誤失錯當分ノ内陸軍懲罰令ニ照シ處分可致此旨相達候事

〔陸軍省〕 御 達 十四年十二月 各工兵方面本署  
諸兵營ニ屬スル倉庫ニシテ窓鐵格子未取設無之箇所ハ其署定額營繕費ヲ以テ漸次取設方可取計此旨相達候事  
但薪炭庫雜物庫等ハ不及取設儀ト可相心得事

〔陸軍省〕 御 達 十四年 德島高知愛媛山口廣嶋島根鳥取ノ七縣  
今般第四軍管常備步兵二百二十三名ノ補欠ヲ要シ候處該軍管ノ儀ハ本年徵集人員不足致シ右補欠ニ充ツヘキ者無之候ニ付徵兵事務條例第百二條ニ據リ其軍管補充步兵ヨリ致補欠候條管内諸縣ヲ平均シ番号順ニ從ヒ更ニ大坂鎮台常備兵可申付此旨相達候事  
但明細名簿檢査名簿及鐵簿等直ニ大坂鎮台へ送附シ入營ノ儀ハ同臺へ打合ノ上不都合無之様取計ヘキ事

○〔農商務省〕 御内達 十四年十二月十七日 府 縣  
農産共進會褒賞金ノ義ハ昨明治十三年九月内務省舊勸農局長ヨリ及照會候次第モ有之候處右事務今般本省主管ニ屬シ候ニ付テハ特リ農産ニノ止ムヘキニ無之製品エモ又此會ナカルヘカラサル儀ニ付別紙ノ通褒賞金給與内規相定開會ハ一ヶ年六ヶ所ヲ目途

トシ農産又製作品共褒賞金給與可致候條其年其地方ノ都合ニヨリ農産ヨリ製造品ニ連續スルモノハ之レヲ一併ニシ又ハ農産ト製造品ト區別スルモ又農産各種ト製造品各種ト合併スルトモ其地方ニ重ナル物産コシテ最獎勵ヲ要スルモノニ付其緩急ヲ酌量シ該會ヲ開設スルモノトシ別紙内規ニ照準シ前年度十一月限リニ可申出尤右ハ來十五年度ヨリ施行可致儀ト可相心得此段及内達候也  
但十五年度分ニ限リ來十五年一月限可申出候事

府縣連合共進會褒賞金給與内規  
第一 二個以上六個ヨリ多カラサル府縣連合協議シテ物産共進會ヲ開キ其褒賞金ニ限リ給與ヲ請求スルキハ毎年六ヶ所ニ限リ左ノ割合ノ通り給與スヘシ  
但出品ノ多少品位ノ優劣ニ由テ各等ノ人員金額ヲ増減スルコアルヘシト雖モ豫定金額ヲ超過スルヲ許サス

府縣連合共進會褒賞金概表

一等賞	二等賞	三等賞	四等賞	當金員	府 縣 二個 合	全 三 個 連 合	全 四 個 連 合	全 五 個 連 合	全 六 個 連 合
金七十圓	金四十圓	金二十圓	金拾圓	一名	一名	一名	一名	一名	一名
二名	三名	四名	五名	二名	二名	二名	二名	二名	二名
三名	四名	五名	六名	三名	三名	三名	三名	三名	三名
四名	五名	六名	七名	四名	四名	四名	四名	四名	四名
五名	六名	七名	八名	五名	五名	五名	五名	五名	五名
六名	七名	八名	九名	六名	六名	六名	六名	六名	六名
七名	八名	九名	十名	七名	七名	七名	七名	七名	七名
八名	九名	十名	十一名	八名	八名	八名	八名	八名	八名
九名	十名	十一名	十二名	九名	九名	九名	九名	九名	九名
十名	十一名	十二名	十三名	十名	十名	十名	十名	十名	十名
十一名	十二名	十三名	十四名	十一名	十一名	十一名	十一名	十一名	十一名
十二名	十三名	十四名	十五名	十二名	十二名	十二名	十二名	十二名	十二名
十三名	十四名	十五名	十六名	十三名	十三名	十三名	十三名	十三名	十三名
十四名	十五名	十六名	十七名	十四名	十四名	十四名	十四名	十四名	十四名
十五名	十六名	十七名	十八名	十五名	十五名	十五名	十五名	十五名	十五名
十六名	十七名	十八名	十九名	十六名	十六名	十六名	十六名	十六名	十六名
十七名	十八名	十九名	二十名	十七名	十七名	十七名	十七名	十七名	十七名
十八名	十九名	二十名	廿一名	十八名	十八名	十八名	十八名	十八名	十八名
十九名	二十名	廿一名	廿二名	十九名	十九名	十九名	十九名	十九名	十九名
二十名	廿一名	廿二名	廿三名	二十名	二十名	二十名	二十名	二十名	二十名
廿一名	廿二名	廿三名	廿四名	廿一名	廿一名	廿一名	廿一名	廿一名	廿一名
廿二名	廿三名	廿四名	廿五名	廿二名	廿二名	廿二名	廿二名	廿二名	廿二名
廿三名	廿四名	廿五名	廿六名	廿三名	廿三名	廿三名	廿三名	廿三名	廿三名
廿四名	廿五名	廿六名	廿七名	廿四名	廿四名	廿四名	廿四名	廿四名	廿四名
廿五名	廿六名	廿七名	廿八名	廿五名	廿五名	廿五名	廿五名	廿五名	廿五名
廿六名	廿七名	廿八名	廿九名	廿六名	廿六名	廿六名	廿六名	廿六名	廿六名
廿七名	廿八名	廿九名	三十名	廿七名	廿七名	廿七名	廿七名	廿七名	廿七名
廿八名	廿九名	三十名	卅一名	廿八名	廿八名	廿八名	廿八名	廿八名	廿八名
廿九名	三十名	卅一名	卅二名	廿九名	廿九名	廿九名	廿九名	廿九名	廿九名
三十名	卅一名	卅二名	卅三名	三十名	三十名	三十名	三十名	三十名	三十名
卅一名	卅二名	卅三名	卅四名	卅一名	卅一名	卅一名	卅一名	卅一名	卅一名
卅二名	卅三名	卅四名	卅五名	卅二名	卅二名	卅二名	卅二名	卅二名	卅二名
卅三名	卅四名	卅五名	卅六名	卅三名	卅三名	卅三名	卅三名	卅三名	卅三名
卅四名	卅五名	卅六名	卅七名	卅四名	卅四名	卅四名	卅四名	卅四名	卅四名
卅五名	卅六名	卅七名	卅八名	卅五名	卅五名	卅五名	卅五名	卅五名	卅五名
卅六名	卅七名	卅八名	卅九名	卅六名	卅六名	卅六名	卅六名	卅六名	卅六名
卅七名	卅八名	卅九名	四十名	卅七名	卅七名	卅七名	卅七名	卅七名	卅七名
卅八名	卅九名	四十名	四十一名	卅八名	卅八名	卅八名	卅八名	卅八名	卅八名
卅九名	四十名	四十一名	四十二名	卅九名	卅九名	卅九名	卅九名	卅九名	卅九名
四十名	四十一名	四十二名	四十三名	四十名	四十名	四十名	四十名	四十名	四十名
四十一名	四十二名	四十三名	四十四名	四十一名	四十一名	四十一名	四十一名	四十一名	四十一名
四十二名	四十三名	四十四名	四十五名	四十二名	四十二名	四十二名	四十二名	四十二名	四十二名
四十三名	四十四名	四十五名	四十六名	四十三名	四十三名	四十三名	四十三名	四十三名	四十三名
四十四名	四十五名	四十六名	四十七名	四十四名	四十四名	四十四名	四十四名	四十四名	四十四名
四十五名	四十六名	四十七名	四十八名	四十五名	四十五名	四十五名	四十五名	四十五名	四十五名
四十六名	四十七名	四十八名	四十九名	四十六名	四十六名	四十六名	四十六名	四十六名	四十六名
四十七名	四十八名	四十九名	五十名	四十七名	四十七名	四十七名	四十七名	四十七名	四十七名
四十八名	四十九名	五十名	五十一名	四十八名	四十八名	四十八名	四十八名	四十八名	四十八名
四十九名	五十名	五十一名	五十二名	四十九名	四十九名	四十九名	四十九名	四十九名	四十九名
五十名	五十一名	五十二名	五十三名	五十名	五十名	五十名	五十名	五十名	五十名
五十一名	五十二名	五十三名	五十四名	五十一名	五十一名	五十一名	五十一名	五十一名	五十一名
五十二名	五十三名	五十四名	五十五名	五十二名	五十二名	五十二名	五十二名	五十二名	五十二名
五十三名	五十四名	五十五名	五十六名	五十三名	五十三名	五十三名	五十三名	五十三名	五十三名
五十四名	五十五名	五十六名	五十七名	五十四名	五十四名	五十四名	五十四名	五十四名	五十四名
五十五名	五十六名	五十七名	五十八名	五十五名	五十五名	五十五名	五十五名	五十五名	五十五名
五十六名	五十七名	五十八名	五十九名	五十六名	五十六名	五十六名	五十六名	五十六名	五十六名
五十七名	五十八名	五十九名	六十名	五十七名	五十七名	五十七名	五十七名	五十七名	五十七名
五十八名	五十九名	六十名	六十一名	五十八名	五十八名	五十八名	五十八名	五十八名	五十八名
五十九名	六十名	六十一名	六十二名	五十九名	五十九名	五十九名	五十九名	五十九名	五十九名
六十名	六十一名	六十二名	六十三名	六十名	六十名	六十名	六十名	六十名	六十名
六十一名	六十二名	六十三名	六十四名	六十一名	六十一名	六十一名	六十一名	六十一名	六十一名
六十二名	六十三名	六十四名	六十五名	六十二名	六十二名	六十二名	六十二名	六十二名	六十二名
六十三名	六十四名	六十五名	六十六名	六十三名	六十三名	六十三名	六十三名	六十三名	六十三名
六十四名	六十五名	六十六名	六十七名	六十四名	六十四名	六十四名	六十四名	六十四名	六十四名
六十五名	六十六名	六十七名	六十八名	六十五名	六十五名	六十五名	六十五名	六十五名	六十五名
六十六名	六十七名	六十八名	六十九名	六十六名	六十六名	六十六名	六十六名	六十六名	六十六名
六十七名	六十八名	六十九名	七十名	六十七名	六十七名	六十七名	六十七名	六十七名	六十七名
六十八名	六十九名	七十名	七十一名	六十八名	六十八名	六十八名	六十八名	六十八名	六十八名
六十九名	七十名	七十一名	七十二名	六十九名	六十九名	六十九名	六十九名	六十九名	六十九名
七十名	七十一名	七十二名	七十三名	七十名	七十名	七十名	七十名	七十名	七十名
七十一名	七十二名	七十三名	七十四名	七十一名	七十一名	七十一名	七十一名	七十一名	七十一名
七十二名	七十三名	七十四名	七十五名	七十二名	七十二名	七十二名	七十二名	七十二名	七十二名
七十三名	七十四名	七十五名	七十六名	七十三名	七十三名	七十三名	七十三名	七十三名	七十三名
七十四名	七十五名	七十六名	七十七名	七十四名	七十四名	七十四名	七十四名	七十四名	七十四名
七十五名	七十六名	七十七名	七十八名	七十五名	七十五名	七十五名	七十五名	七十五名	七十五名
七十六名	七十七名	七十八名	七十九名	七十六名	七十六名	七十六名	七十六名	七十六名	七十六名
七十七名	七十八名	七十九名	八十名	七十七名	七十七名	七十七名	七十七名	七十七名	七十七名
七十八名	七十九名	八十名	八十一名	七十八名	七十八名	七十八名	七十八名	七十八名	七十八名
七十九名	八十名	八十一名	八十二名	七十九名	七十九名	七十九名	七十九名	七十九名	七十九名
八十名	八十一名	八十二名	八十三名	八十名	八十名	八十名	八十名	八十名	八十名
八十一名	八十二名	八十三名	八十四名	八十一名	八十一名	八十一名	八十一名	八十一名	八十一名
八十二名	八十三名	八十四名	八十五名	八十二名	八十二名	八十二名	八十二名	八十二名	八十二名
八十三名	八十四名	八十五名	八十六名	八十三名	八十三名	八十三名	八十三名	八十三名	八十三名
八十四名	八十五名	八十六名	八十七名	八十四名	八十四名	八十四名	八十四名	八十四名	八十四名
八十五名	八十六名	八十七名	八十八名	八十五名	八十五名	八十五名	八十五名	八十五名	八十五名
八十六名	八十七名	八十八名	八十九名	八十六名	八十六名	八十六名	八十六名	八十六名	八十六名
八十七名	八十八名	八十九名	九十名	八十七名	八十七名	八十七名	八十七名	八十七名	八十七名
八十八名	八十九名	九十名	九十一名	八十八名	八十八名	八十八名	八十八名	八十八名	八十八名
八十九名	九十名	九十一名	九十二名	八十九名	八十九名	八十九名	八十九名	八十九名	八十九名
九十名	九十一名	九十二名	九十三名	九十名	九十名	九十名	九十名	九十名	九十名
九十一名	九十二名	九十三名	九十四名	九十一名	九十一名	九十一名	九十一名	九十一名	九十一名
九十二名	九十三名	九十四名	九十五名	九十二名	九十二名	九十二名	九十二名	九十二名	九十二名
九十三名	九十四名	九十五名	九十六名	九十三名	九十三名	九十三名	九十三名	九十三名	九十三名
九十四名	九十五名	九十六名	九十七名	九十四名	九十四名	九十四名	九十四名	九十四名	九十四名
九十五名	九十六名	九十七名	九十八名	九十五名	九十五名	九十五名	九十五名	九十五名	九十五名
九十六名	九十七名	九十八名	九十九名	九十六名	九十六名	九十六名	九十六名	九十六名	九十六名
九十七名	九十八名	九十九名	一百名	九十七名	九十七名	九十七名	九十七名	九十七名	九十七名



四

合計	人員	五等賞	金五圓	四十名	五十名	六十名	七十名	八十名
	金額	六等賞	金三圓	八十名	百名	百廿名	百四十名	百六十名
合計	人員	府	金九百九十圓	一百九十名	二百三十名	二百六十名	三百九十名	四百九十名
		縣	金九百九十圓	一百九十名	二百三十名	二百六十名	三百九十名	四百九十名
		全	金一千九百九十圓	三百九十名	四百九十名	五百二十名	七百九十名	八百九十名
		上	金九百九十圓	一百九十名	二百三十名	二百六十名	三百九十名	四百九十名
		中	金九百九十圓	一百九十名	二百三十名	二百六十名	三百九十名	四百九十名
		下	金九百九十圓	一百九十名	二百三十名	二百六十名	三百九十名	四百九十名

第二 一個所ニ於テ二種以上ノ產物ヲ以テ共進會ヲ開設スル時ハ左ノ割合ニ由テ給與スヘシ但品種ハ五種以內ヲ以テ定限トス

二種產物	三種產物	四種產物	五種產物	府		縣		全	
				連	合	連	合	連	合
金千四百九十圓	金千三百九十圓	金千五百九十圓	金千七百九十圓	金千四百九十圓	金千三百九十圓	金千五百九十圓	金千七百九十圓	金千四百九十圓	金千三百九十圓
金千六百九十圓	金千八百九十圓	金千八百九十圓	金二千二百九十圓	金千六百九十圓	金千八百九十圓	金千八百九十圓	金二千二百九十圓	金千六百九十圓	金千八百九十圓
金千九百九十圓	金二千二百九十圓	金二千三百九十圓	金二千七百九十圓	金千九百九十圓	金二千二百九十圓	金二千三百九十圓	金二千七百九十圓	金千九百九十圓	金二千二百九十圓
金二千二百九十圓	金二千三百九十圓	金二千五百九十圓	金二千七百九十圓	金二千二百九十圓	金二千三百九十圓	金二千五百九十圓	金二千七百九十圓	金二千二百九十圓	金二千三百九十圓
金二千四百九十圓	金二千五百九十圓	金二千七百九十圓	金三千二百九十圓	金二千四百九十圓	金二千五百九十圓	金二千七百九十圓	金三千二百九十圓	金二千四百九十圓	金二千五百九十圓
金二千六百九十圓	金二千七百九十圓	金三千九十圓	金三千四百九十圓	金二千六百九十圓	金二千七百九十圓	金三千九十圓	金三千四百九十圓	金二千六百九十圓	金二千七百九十圓
金二千八百九十圓	金三千九十圓	金三千四百九十圓	金三千八百九十圓	金二千八百九十圓	金三千九十圓	金三千四百九十圓	金三千八百九十圓	金二千八百九十圓	金三千九十圓
金三千九十圓	金三千四百九十圓	金三千八百九十圓	金四千三百九十圓	金三千九十圓	金三千四百九十圓	金三千八百九十圓	金四千三百九十圓	金三千九十圓	金三千四百九十圓

第三 府縣ヨリ褒賞金給與ヲ請求スルモノ像定ノ數ニ超過スルキハ其請求ノ前後ト其開設スヘキ物産ノ緩急ニ就テ之ヲ許否スヘシ

第四 給與スヘキ褒賞金ハ農商務卿授與スヘシ

但事故ニ依リ代理者ヲシテ授與セシムルヲアルヘシ

第五 六個以上聯合スルキハ右ノ表ニ準シ豫定ノ金員中ヨリ流用增加支出スヘシ其場合ニ於テ該年度中六會分ノ賞與金額ニ不足ヲ生スルキハ此年ニ限り六ヶ所ノ開會ヲ減少スルヲモアルヘシ

○(農商務省) 御達 十四年十二月廿日 各局 掛

本省直轄ノ博覽會及共進會ヲ開設スル場合ニ於テハ其主務局長之レカ幹事トナリ該局ニ於テ一切ノ事務ヲ管理シ博覽會掛之レヲ贊助候様可致此旨相達候事

○(農商務省) 御達 十四年十二月十九日 博覽會掛

其掛リ事務掌管ノ儀本年六月中相達置候處但書左ノ通追加候條此旨相達候事

(但書) 但博覽會共進會等別事務局ヲ設ケ若クハ主務局ニ於テ擔任スル者ハ此限ニ非ス

五 部 之 雜

○(宮内省) 御達 十四年十二月廿六日

來ル一月四日政始ニ付太政官へ 臨幸被爲在候條此旨相達候事

來ル十五年一月五日午前九時新年宴會被爲行候ニ付右同時二十分前勅任官面々參内可有之月宴會之節奏任官并准奏任御用掛宮中祇候當番之者へ酒饌ヲ下賜候條三十日迄ニ人名書付被差廻候此段相達候也

右貳件



〔警視廳〕 御 達

十四年十二月

巡查屯所職務并事務心得ノ中第三十條へ但書ヲ追加シ第三十一條ヲ左ノ如ク改正セラレタリ

第三十條 路上狂癡人アル時ハ穩カニ取扱ヒ屯所ニ引致シ親族ニ引渡スヘシ

但引取人無之者ハ明治十三年十二月第百廿五號達ノ通り取計ヘシ

第三十一條 第廿八條ニ記載シタル者他管下ニシテ旅費空乏郷里ニ遞送願出ル者ハ其警察署へ可引渡但府下在籍ニシテ引取人無之者ハ其區役所戸長役場へ引渡スヘシ

〔警視廳〕 御 達

十四年十二月廿三日 巡查本部警察署

今般甲第五十五號ヲ以テ馬車取締規則改正布達候ニ付テハ處分手續左之通可心得此旨相達候事

馬車取締規則處分手續

第一條 馬車取締規則ニ依リ鑑札ヲ下付シタル人名ハ其都度第一局ヨリ所轄警察署へ報告スヘキニ付(報告表ハ末ニ在リ)警察署ニ於テハ其報告表ヲ保存シ廢業ノ旨届出タルキハ該表中廢業科目へ記入シ置クヘシ

第二條 規則第一條及ヒ第八條ニヨリ鑑札并検査証(離形末ニ在リ)返納シタル者ハ一月分取續翌月三日迄ニ第一局へ送致スヘシ

第三條 規則第二十八條ニ依リ營業ヲ停止若クハ禁止スヘキモノト認ムルキハ其理由ヲ第一局へ報告スヘシ

但本廳ニ於テ停止若クハ禁止ヲ申渡シタルキハ直ニ第一局ヨリ各警察署へ通報スルモノトス警察署ニ於テハ別ニ簿冊ヲ製シ記載シ置キ參考ニ供スヘシ

第四條 馬匹ノ検査証ハ其馬ニ附著シ車體ノ検査証ハ馭者携帯シ得ル者ト心得ヘシ

第五條 規則第廿九條ニ依リ巡查ニ於テ一時使用ヲ停止シタルキハ前條検査証ヲ取揚警察署へ差出スヘシ警察署ハ速ニ第一局へ送致スヘシ

但本文ノ場合ニ於テ車體危險ト認ムルキハ該証ノニ取揚ルモノト心得ヘシ馬匹モ亦同シ

(表并離形畧ス)

〔警視廳〕 御 達

十四年十二月十八日 局 部 署

今般第百二十三號達ヲ以テ畧服制定候ニ付テハ從前制服之儀ハ來明治十五年一月一日以後ハ廢止ト可心得此旨相達候事

〔警視廳〕 御 達

十四年十二月廿日 巡查本部警察署

今般甲第五十六號ノ通り布達候ニ付テハ該取締規則中鑑札並ニ検査證ニ係ル條件ハ來ル明治十五年二月一日ヨリ處分候儀ト心得ヘシ此旨相達候事

〔警視廳〕 御 達

十四年十二月廿五日

人力車取締規則第三條ニ記載シタル車體番號札ノ義寸法ニ准シ蹴込板ニ漆等ヲ以テ表記候テモ不苦等ニ候此旨相達候事

〔警視廳〕 御 達

十四年十二月廿八日 各警察署

飲食ノ中毒及ヒ誤用等ニヨリ死ヲ致ス者有之節ハ其原因并病狀及ヒ住所姓名等詳細取調其都度第一局へ通報ス可シ此旨相達候事

〔警視廳〕 御 達

十四年十二月廿八日 局 部 署



違警罪處分手續別冊之通規定候條右ニ照準可取扱事

第一條 違警罪犯判事ノ職務ハ警察使之ヲ行ヒ檢察官ノ職務ハ警察副使之ヲ行ヒ書記ノ職務ハ書記之ヲ行フヘシ

但シ事故アル時ハ便宜一名ニテ執行スルモ妨ナシ

第二條 裁判管轄ハ其警察署ノ區畫ヲ以テ限リトスヘシ

第三條 違警罪ニ附帶ノ私訴ハ警察署ニ於テ裁判スヘカラス

第四條 違警罪ノ現行犯有ル場合ハ治罪法第百二條ニ依リ某氏名住所等申立ルモ確認シ難キ者ハ所管警察署ヘ引致スルヲ得

第五條 其軍人軍屬ニ在テハ直ニ本人ヲ憲兵屯所分屯所ヘ引渡シ其旨警察使ニ申告スヘシ

第六條 拘留ノ刑ニ處シタル者ハ其ノ警察署ノ留置場ニ於テ執行シ科料ハ即時納完セ

シム若シ即納スル能ハサル者ハ刑法第三十條ニ依ル可シト雖モ其限内納完スルノ目的ナキ者ハ刑法第二十七條ノ例ニ照シ直ニ拘留ニ換フヘシ

第七條 警察取締規則ニ違背シタル者ヲ處分シタル時營業禁止又ハ停止ノ意見アル者ハ其調書ノ騰本ニ意見ヲ附記シテ翌日中ニ主務ノ局ヘ送付シ其他ハ一週日毎ニ事件表ヲ以テ報告スヘシ

但通牒ノ順序等特ニ處分手續アル者ハ其ノ手續ニ從フヘシ

〔警視廳〕 御 達 十四年十二月

治罪法實施ニ付犯罪取扱方ヲ左ノ通り達セラレタリ

第一條 警察使現行犯罪ノ場合ニ於テハ治罪法第百五條ニ依リ犯所ニ臨檢シ豫審判

事ニ屬スル處分ニナシタル一切ノ書類ヲ檢証調書ト云ヒ被告人ノ供述ヲ訊問調書ト云ヒ証人ノ陳述ヲ証言調書ト稱スヘシ

第二條 檢証調書現場ニ於テ調整スル能ハサル場合ト雖モ被告人及ヒ証人ハ時間ヲ經過スルニ隨ヒ思慮作言ノ恐レアレハ假リニモ要點ヲ訊問シ其供述ヲ反異セサルヲ要ス

第三條 檢証調書ハ犯罪ノ事跡ヲ錄集シ後日公判上重要ノ證據トナルヘキニ付力メテ平易ノ語ヲ用ヒ文体ヲ飾ラズ現狀ヲ真寫スルヲ以テ主トスヘシ

第四條 訊問調書及ヒ証言調書ハ被告人ノ利害ニ關スル者ニ付力メテ字句ヲ正クシ譬

ヘハ本年本月本日ト記サス何年何月何日トシ該人同人ト記サス何某ト記スヘシ

第五條 訊問調書ニ問答式ヲ用フルハ認定公判ニ必要トスルニ基ク者ナリ故ニ被告人

輒ク其罪ニ服シ證據判然タル時ハ敢テ問答式ヲ用フルヲ要セス

第六條 証言調書ハ其陳述スル所ヲ錄取スルヲ以テ當然トスト雖モ便宜本人ノ手續書

ヲ以テ証言調書ニ代用スルモ妨ナシ

第七條 檢証調書ノ程式ヲ設クト雖モ此レ止ク一例ヲ示スニアルノニ故ニ他ハ其事情

ニ應ノ之ヲ載スヘシ

第八條 犯人ヲ探偵スルニ一週内發見スル緒ナキ時ハ一ト先ッ檢証調書ヲ終ヘ第二

局ヘ送ルヘシ但一週間ニ至リ既ニ緒ニ就キ繼續セントスルモ其理由ヲ單一ニ記シ

第二局ニ報スヘシ

第九條 檢証調書ヲ第二局ニ送附シタル後其犯人ヲ捕フル歟亦ハ其前後他ノ警察署ニ

於テ捕ヘタル時ハ檢証調書ヲ其警察署ニ受取ルヘシ但檢証調書ヲ第二局ニ送ラサル



内他ノ警察署ニ渡ス時ハ決定書ニ犯人ハ何レノ警察署ニテ捕ヘタルニ付本件ヲ送附  
スト認ムヘシ

第十條 他ノ警察署ニ在ル被告人ト雖モ犯罪ノ模様ニ依リ其犯罪地ノ警察署ニテ訊問  
スルヲ便利トスル時ハ之ヲ授受スルヲ得ヘシ

第十一條 臨檢スルモ其景狀知ルニ由ナキ犯罪ハ其告訴告發人ニ就キ精密ニ尋問シ其  
訴狀若クハ供述書ヲ以テ檢証調書ト看做スヘシ

第十二條 凡証據物件ハ公判上最モ緊要ノ者ニ付力メテ鄭重ニ取扱フヘシ但シ其物件  
ハ一個毎ニ對シテ番號ヲ付シ主任警察使之ヨリ檢印スル者トス尤モ其湮滅ノ虞アル者  
ハ特ニ密封シ又ハ適宜器物貯藏スルヲ要ス

第十三條 告訴告發犯罪事件ノ判然セサル分警ヘハ元吟味願ト稱シタル類ハ警察使ノ  
豫審スル者ニ非ス故ニ之ヲ受クルキハ治罪法第九十三條ニ依リ直ニ檢事ニ送附スヘ  
シ

第十四條 告訴告發ノ兩件刑事ニ關セスト確証スル者ハ説諭シ之ヲ却下シ又犯罪ノ摸  
樣ニ依リテ猶豫ナシ難キ事情アルキハ其被告人ヲ呼出シ若クハ拘引スルモ妨ナシ

第十五條 第十四條ノ場合ニ於テ拘引シタル被告人無罪ニ歸スルキハ告訴告發者ハ被  
告人ニ對シ責ヲ受クヘキ理由アルニ付該訴狀ハ如何ナル事情ナルモ却下スルヲ得ス

第十六條 第十四條ノ場合ヨリ被告人ヲ呼出シ或ハ拘引シ訊問上全ク服罪シタルキハ  
其告訴告發狀ヲ檢視調書ト看做スヘシ

第十七條 檢視着手中檢事又ハ豫審判事臨檢シタルキハ其處分ヲ讓ルヘシ  
但其任ヨリ繼續ヲ命スルキハ此限ニ非ス

第十八條 殺傷強盜放火其他重要ノ事件ハ速ニ第二局ニ電報スヘシト雖モ兇殺ニ關シ  
タル場合ニ限リ檢視ニ着手スルヤ直ニ報呈書ヲ檢事ニ報スル爲メ第二局ニ送ルヘシ

第十九條 凡解剖ヲ爲サレハ犯罪ノ原由ヲ知ル能ハサル者ト雖モ檢事狀ノ許可アル  
ニ非レハ之ヲ爲スヲ得ス

第二十條 明治十四年第四十六號ノ公布ニ基キ豫審判事ヨリ囑託セルニ就テハ同判事ト  
直ニ往復スヘシ

第二十一條 前條豫審判事ノ囑託ニ依テ爲ス豫審處分ト雖モ治罪法ノ程式ヲ踐ム者ニ非  
ス

命狀

第二十二條 警察使ハ治罪法第二百五條ノ場合ニ於テハ明治十四年第四十六號公布ニ依  
リ令狀ヲ發スルヲ得ヘシト雖モ拘引狀ノ二類ニ限ル者トス但拘引狀ハ其被告人ノ  
氏名分明シタル時ニ限リ故テハ治罪法第二百二十條ノ氏名分明ナラサル時ハ容貌體格  
等ヲ以テ發スル拘引狀ハ警察使ニ於テ發スルヲ得ス

第二十三條 令狀執行ハ其所屬巡查ヲ以テスルニ止ル故ニ治罪法第三百二十三條ノ効力ア  
ル者ニアラス

第二十四條 令狀ヲ以テ被告人ニ引渡シ及ヒ拘留狀ヲ發セシ時ハ其正本ヲ檢証調書ニ附  
スヘシ

第二十五條 警察使ノ令狀ハ急速ヲ要スル場合ニ限リ發付スヘキ者ニ付若シ其時被告人  
ノ踪跡ヲ得サレハ無効ニ屬ス故ニ治罪法第三十八條ノ程式ヲ踐ムヲ要セス

〔警視廳〕

御達

十四年十二月

警察使







リ禁錮ヲ中止シ又ハ之ヲ減輕スルコトヲ得其疾病アル時亦同シ

第十一條 停給ハ一日以上三十日以下ト爲ス停給ハ日給及ヒ加俸ヲ停止ス

第十二條 謹慎ハ一日以上十四日以下ト爲ス其日給加俸ハ減少停止セス之ヲ下士罰トナス謹慎ノ艦船營長若クハ屯集所ニ於テ之ヲ行ヒ外出ヲ許サズ艦船營内屯集所内ノ公務ハ仍ホ之ヲ爲サシム

第十三條 科役ハ一日以上十四日以下ト爲ス其日給ハ減少停止セス之ヲ卒及ヒ準卒ノ罰ト爲ス

科役ハ課外ニ若干時間ノ役ヲ加フ

第十四條 卒及ヒ準卒十六歳ノ者及新兵入籍シテ三日未滿ノ者所犯禁錮又ハ停給ノ罰ニ該ルト雖モ宥恕シテ科役ニ處ス

第十五條 此罰則ノ數個俱ニ發シタル時ハ一ノ重キ者ニ從テ處斷ス

若シ處犯一箇ニシテ違警罪ニ觸レ其處斷ヲ受ケタル時ハ此罰ヲ科スルコトヲ得ス

第二章 犯則ノ款目

第十六條 左ノ諸件ヲ犯シタル者禁錮ニ處ス

- 一 擅ニ艦船營本隊若クハ職役ヲ離レタル者
- 二 允許ヲ得テ他方ニ赴キ故ナク歸着ノ期限ニ後レタル者
- 三 歸省若クハ休暇中出陣ノ時ニ在テ徵召ノ命ヲ受ケ故ナク到着ノ期限ニ後レタル者
- 四 疾病事故ニ托シ勤務ヲ忌避スル者
- 五 海軍ノ規則命令ヲ誹謗シタル者
- 六 守兵故ナク其規則ニ違ヒタル者
- 七 人ヲ懲罰ニ陥ルメ申告ヲ爲シタル者

八 懲罰ニ該ルハキ者ヲ曲庇スル者

九 艦船營若クハ屯集所ニ於テ醜行ヲ爲シタル者

第十七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ停給ニ處ス

- 一 人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラサル者
- 二 公然人ヲ罵詈訾弄シタル者
- 三 令狀執行ノ命ヲ受ケ之ヲ怠リタル者
- 四 故ナク定數ノ被服ヲ所持セサル者
- 五 允許ヲ得スシテ官給其他渡付ノ物品ヲ他人ニ貸與シ又ハ他人ヨリ借用シタル者
- 六 擅ニ他人ノ寢床ニ寢臥シ若クハ濫リニ他人ノ物品ヲ使用シタル者
- 七 故ラニ糧食分配ノ不平均ヲ致シタル者
- 八 定時限ノ外又ハ禁制ノ場所ニ於テ燈火其他ノ火ヲ用ヒ若クハ吹煙シタル者
- 九 擅ニ艦船營内ノ外人ヲ宿泊セシメタル者
- 十 航海又ハ事業中ニ酩酊シタル者
- 十一 酩酊シテ外ヨリ歸リ事業常ノ如クナル能ハサル者
- 十二 允許ヲ得スシテ艦船營内ニ酒類ヲ携ヘ歸リ又ハ賣買シタル者
- 十三 故ナク事業ニ就カス又ハ怠リタル者
- 十四 歸省若クハ休暇中平時ニ在テ徵召ノ命ヲ受ケ故ナク到着ノ期限ニ後レタル者
- 十五 疎虞懈怠ニ因テ官物若クハ官ノ文書ヲ遺失毀損シタル者
- 十六 允許ヲ得航行シ故ナク其地ニ到ラサル者

第十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ七日以下ノ停給ニ處ス但下士ハ謹慎シ卒及ヒ準卒ハ科役ニ處スコトヲ得



- 一 禮式ヲ失シタル者
- 二 濫リニ砲門ヨリ出入シタル者
- 三 艦船營内若クハ屯集所内ニ於テ定所ノ外ニ尿管シタル者
- 四 守所又ハ整列中ニ在テ喧嘩若クハ雜話シタル者
- 五 允許ヲ得テ上陸又ハ外出ノ後歸期ヲ怠リ三日ヲ過キサル者
- 六 檣樓端船其他ノ場所ニ於テ濫リニ睡眠シタル者
- 七 濫リニ士官已上ノ室ニ入り若クハ甲板上ノ定處外ニ運動シタル者
- 八 定處外ヨリ物品ヲ投棄シタル者
- 九 砲具其他凭ルヘカヲサル場所ニ凭リ休憩シタル者
- 十 整列若クハ當直交代ノ時遲參シタル者
- 十一 事業中剪髮剃鬚スル者
- 十二 夜中巡檢後故ナク寢所ヲ離レタル者
- 十三 艦船營内若クハ屯集所内ニ於テ擅ニ鳥獸類ヲ畜フ者
- 十四 濫リニ庖厨ニ入りタル者
- 十五 故ナク制服ヲ着セサル者
- 十六 官物ヲ浪費シタル者
- 十七 手牒ヲ棄毀若クハ遺失セタル者
- 第十九條 前數條ニ記載シタル外艦船營内若クハ屯集所ノ規則ニ背キタル者ハ七日以下ノ停給ニ處ス但下士ハ謹慎ニ卒及準卒ハ科役ニ處スルヲ得

○〔農商務省〕御達

十四年十二月二十七日

各局

當省各局專務規程中左ノ通改正追加候條此旨相達候事

- 第十四條 驛遞局分課中 調査課(地ノ)二字及ヒ(郵便計數月表ヲ查定シ)十字刪除  
 計算課(會計課)ト改メ(及)字ヲ刪除シ(物品)下ニ(ノ)字ヲ加ヘ(等ノ事)以下ヲ  
 交付及日々現在ノ金額物品等ノ點檢ヲ掌理ス)ニ改ム(査計課)全項刪除  
 庶務課(ノ)受付)三字ヲ刪除シ(物品ノ)交付)ヲ等ニ改ム
- 第十六條 會計局分課中 檢査課(文案ヲ起艸シ)ヲ(局務ニ關スル諸)ニ(豫算)以下ヲ  
 (本省會計事務ノ統一ヲ主持スル事ヲ掌理ス)ニ改ム  
 會計課(收入支出ニ係ル)全項ヲ出納主計課ヲ正算シ豫算決算及ヒ記簿ノ事務ヲ掌理  
 スニ改ム(收支課)收入支書傳票及ヒ精算ノ事務ヲ掌理ス  
 調度課(官舎ノ)ヲ用度ニ改ム  
 財産課(財産管理物品受授ノ事務ヲ掌理ス  
 庶務課(局中ヲ)規則ノ起艸ニ改ム

○〔海軍省〕太政官へ上請

當校所轄艦船乗組下士以下免役等ノ節滿年賜金及ヒ歸國旅費ハ是迄當校ニ於テ支給致  
 來候處來十五年度ヨリハ鎮守府同様免役辭令書ハ其艦船ニ相達シ其艦船ニ於テ本人ニ  
 相達隨テ滿年賜金及ヒ歸國旅費ハ其艦船ニ於テ支給候様仕度尤モ病死ノ者滿年賜金モ  
 同様相成度就テハ十五年度當校經費豫算調ニハ右ニ當ル滿年賜金及ヒ旅費ハ相除キ可  
 申候會計局協議濟ノ上此段至急上申仕候也

〔裁令〕 上申ノ通

○〔陸軍省〕太政官へ伺

明治十四年十二月十日



陸軍治罪法御頒布相成迄軍人軍屬犯罪ニ係ル治罪ハ舊慣ニ依リ可然哉之伺  
陸軍新刑法ノ儀バ不日御頒布普通法律ト共ニ來十五年一月一日ヨリ實施之御沙汰可相  
成就テハ治罪法ノ儀モ草案取調過日上申ニ及候處右ハ現今御詮議中ニテ年内餘日モ無  
之或ハ刑法ト共ニ實施之運ニ相成間布載ト竊ニ恐察仕候果ノ然ル時ハ軍人軍屬ノ犯罪  
ニ係ル總テ治罪ノ手續ハ追テ治罪法御頒布相成迄一切舊慣ニ依リ處分致シ可然哉尤モ  
別紙記載之箇條ハ慣例ニモ據リ難ク候間至急御詮議之上何分之御指揮有之度此段相伺  
候也

〔裁令〕陸軍治罪法施行日マテ舊慣ニ依リ治罪手續ヲ執行候儀ハ伺之通

第一條 伺之通 但書數罪俱發ノ例ニ從フヘシ

第二條 軍人軍屬ハ軍衛ニ於テ處分シ常人ハ司法々衙ニ附スヘシ

第三條 軍人軍屬任官若クハ就役ノ前罪ヲ犯シ在官現役中發覺スル者ハ軍衛ニ於テ  
處分シ其在官現役中罪ヲ犯シ免官若シクハ免役ノ後發覺スル時陸軍刑法ヲ犯シタ  
ル者ハ軍衛ニ於テ處分シ普通刑法ヲ犯シタル者ハ司法々衙ニ付スヘシ

第四條 伺之通

第五條 歸休兵及豫備後備兵召集ノ期ニ後ル、者ハ軍衛ニ於テ處分スヘシ

第六條第七條第八條伺之通

〔別紙〕軍人軍屬ノ重罪輕罪ハ總テ軍衛ニ於テ處分致シ可然哉

但重罪輕罪ト俱ニ發スル違註罪ハ如何可相心得ヤ

軍民共犯ニ係ル時ハ軍人軍屬ハ軍衛ニ於テ處分致シ常人ハ司法々衙ニ付シ可然ヤ將又  
軍民ノ正從犯ニ係リ軍人正犯ナルハ軍衛ニ於テ從犯ヲ併セ之ヲ審判致シ軍民共ニ正

犯ナル時ハ先キ告知告發ヲ受タル法衙ニ於テ審判致シ可然ヤ

軍人軍屬任官若クハ就役ノ前罪ヲ犯シ在官現役中發覺スル者ハ軍衛ニ於テ審判致シ其  
在官現役中罪ヲ犯シ免官若クハ免役ノ後發覺スル者ハ司法々衙ニ付シ可然ヤ

歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者召集中罪ヲ犯シ若クハ舊罪發覺スル者ハ軍衛ニ於  
テ審判致シ犯罪解散ノ後發覺スル時ハ司法々衙ニ付シ可然ヤ

歸休兵及ヒ豫備後備召集ノ期ニ後ル、者ハ司法々衙ニ審判ニ付シ可然ヤ

新陸軍刑法第二十七條ニ揭グル所ノ理事ハ評事若シクハ主理ヲ以テ之ニ充テ裁判長ハ  
右鎮台營所ニ於テハ軍法會議ノ議長ヲ以テ之ニ充テ可然ヤ

新陸軍刑法ニ揭グル所ノ流刑及ヒ禁獄輕禁錮拘留ニ處スル者ハ總テ現今禁錮ノ取扱ニ  
徒刑懲役ニ處スル者ハ現今徒刑ノ取扱ニ重禁錮ニ處スル者ハ現今戒役ノ取扱ニ致シ可  
然也

軍人軍屬ヲ監視ニ付シタル時其執行處分ノ儀ハ其地方警察署ニ付シ可然也

〔大坂府ヨリ陸軍省ヘ伺〕徵兵免否取調ノ件

第一條 徵兵事務條例第五百十七條乃至第五百十九條後段ニ當ル者其戸主退隱戸主ト  
ナルモ免役ニ屬セザル儀ト相心得可然哉

第二條 同條例第三十八條ニヨリハ狂病白痴癡癲等ハ癡疾ヲ以テ論シカダキモノト相  
見候得共右ハ本人ニ係ルモノニシテ徵兵令第二十八條第五項第三十條第五項并ニ條

例第五百五十一條第五百五十二條第五百五十五條第五百五十七條乃至第五百五十九條第六十  
三條第六十四條中揭示ノ戸主或ハ嗣子ノ癡疾ニハ含有スルモノト相心得可然哉

前條相同候條此段御指揮相成度候也

〔指令〕第一條 伺之通 第二條 狂病ヲ除ノ外伺之通



陸 埼玉縣ヨリ陸軍省へ伺 徵兵免否取調ノ件

第一條 戶主死亡男子ナシ長女ニ相續明治十二年十月以前右長女ニ入聲（徵兵適齡前  
後ニ拘ハラサル者）戸主ニ相立同十三年該戸主離婚生家ニ復籍ス然ルニ子女無之ニ  
付前書長女ニ其後他ヨリ再入聲戸主ニ相立右戸主徵兵年齡相當スルキハ徵集ニ應ジ  
シムヘキ哉

第二條 爰ニ戸主アリ徵兵志願己ニ入營致シ妹ニ家督相續致サセ右妹ニ入聲戸主ニ相  
立該戸主徵兵年齡相當スルキハ徵集ニ應ジシムヘキ哉  
右兩條相伺候條御指揮被下度候也

〔指令〕 第一條 伺之通 但前戸主五十歳以上ナルキハ此限ニ非ス  
第二條 伺之通

陸 茨城縣ヨリ陸軍省へ伺 徵兵適齡者ノ父兄ノ往復旅費ヲ給スル該項ノ事

徵兵適齡者父或ハ兄（當時戸主）癩疾又ハ不具等ニシテ産業ヲ營ムコト能ハズ徵兵令第  
廿八條第五項及ヒ第三十條第五項ニ當ル者徵兵検査場ニ呼出シ検査ノ上該項ニ相當ス  
ル該患者往復旅費ハ明治十二年大藏省乙第四十八号達徵兵入費定則第二第三條ニ照準  
支給ノ儀本年六月埼玉縣伺之通當縣ニ於テモ支給可致哉此段相伺候也  
但本文患者検査ノ上各項ニ相當セザル者ト雖モ支給致シ不苦哉  
〔指令〕 伺之通 但書ノ内兵役ヲ規避スル者ニハ不給儀ト可相心得事

陸 長野縣ヨリ陸軍省へ伺 徵兵免否ノ件

徵兵令改正以前既ニ長男ヲ（年齢不問）他家ノ養子トナシ（癩疾不具等ニ無之）其節其次  
男ヲ以テ嗣子ト定ム該嗣子トナル者ハ明治十二年御省達甲第廿二号御達（別紙第一項  
中）明治十二年十月廿七日ヲ以テ區分シ免役ニ屬ス候儀ト相心得候處御省日誌本年第

十七号千葉縣伺第二項徵兵令發行以前己ニ年齢二十歳ヲ超過シ即チ徵兵適齡セサル者  
癩疾不具等ニ無之實際止ムテ得サル事故ニテ癩癩シ更ニ定メタル嗣子等云云ハ御指令  
ニ據レハ右改正以前ト雖モ免役ニ屬セサル趣ニ有之候得共右等ノ如キハ前顯十二年十  
月廿七日ヲ以テ區分シ免役ニ屬スヘキ儀ト相心得可然哉此旨相伺候也  
〔指令〕 伺之通

但千葉縣伺第二項指令ハ十二年十月廿七日後癩癩シ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫及  
相續人ノ扱ト心得ヘシ

陸 東京鎮臺ヨリ陸軍省へ伺 衛戍兵交代延期ノ件

東京衛戍服務ノ爲メ臺下佐倉高崎兩營所ヨリ歩兵一大隊宛六ヶ月交代ノ法ヲ以テ交互  
出京ノ儀去ル明治十二年二月中伺出御許可相成爾來今日マテ實施致來候然ル處右交代  
ノ儀六ヶ月毎ニ致候テハ（現今ノ順序ニテハ）歩兵第二聯隊ハ毎年春季豫備軍召集ノ節  
其第三聯隊ハ毎年秋季同ノ節一大隊ハ出京中ニ有之終始兩聯隊如此相成候テハ如何  
ニモ偏頗ノ譯ニ有之就テハ自今交代ヲ十二月ニ改メ毎年五月ヲ以テ彼此更換候儀致  
度左スレハ前條春秋二季ノ件ニ際シ隔年ニ各營所共ニ二大隊屯在ノ便ヲ得候間御詮議相  
成度此段相伺候也

透テ本文御許可相成候上ハ當時出京中ノ歩兵第二聯隊第一大隊本文之通り引直シ即  
チ來明治十五年五月ニ至リ交代候儀致度將又本文十二月交代ト相成候上ハ是迄毎  
年二回交代モ一回ト相成リ自然行軍費用相減候上ハ無論ノ儀ニ付爲念此段申添候也  
〔指令〕 伺之通 御沙汰候事

陸 岡山縣ヨリ陸軍省へ伺 無籍者三十二歳以上徵兵免否ノ件

無籍ニシテ徵集ニ漏タルモノノ年齢三十一歳ヲ超過セシ者ハ事務條例第七十七條ニ



據リ具申可致ノ處前顯無籍者ノ中幼稚ニシテ父母ニ隨ヒ漂泊シ或ハ父母漂泊中出生ニ係リ年齡三十二歳以上四十歳未滿ノ者入籍許可候キハ固ヨリ徵集規避ニ關セサルモノニ限リ當縣限リ免役取計候テ可然哉何分ノ御指揮相成度此段相伺候也

〔指令〕 伺ノ趣徵兵事務條例第七十七條ニ據リ詳細具狀スベキ儀ト可相心得候事

〔陸〕〔京都府ヨリ陸軍省ヘ伺〕 徵兵免否ノ件

戸主死亡シ生前ノ養嗣子(徵兵年齡以前ノ者)戸主トナリシニ該養子者ノ實家戸主(獨身)タルモノ死亡シ他ヨリ相續スヘキ者ヲ請求スル場合ニ至ラサル事情有之ヲ以テ不得止實家ヘ復籍ノ際養家相續ノ爲メ他家ノ男子ヲ以テ戸主トス此戸主タルヤ徵兵滿齡ニ至ルモ徵兵令第二十八條一項ニ因リ免役ニ可屬哉此段相伺候也

〔指令〕 伺之趣免役ニ屬セサル儀ト可相心得事

〔陸〕〔東京憲兵本部ヨリ陸軍省ヘ伺〕

下兵以下并一般ノ死傷患者等救護醫官看當憲兵隊下士卒疾病ニ罹リ候節ハ總テ軍醫ノ診斷爲相受候様致度且其他一般死傷者ノ檢視并ニ途上急發ノ患者等ハ一時救護セシメサル可カラサル儀ニ有之旁以テ須要ニ付毎分隊ヘ醫官一名及看護卒各一名宛附屬相成度此段相伺候也

〔指令〕 伺之通

〔陸〕〔東京憲兵本部ヨリ陸軍省ヘ伺〕 看病人看病卒ヲ附屬ノ事

當憲兵隊醫官トシテ軍醫一名附屬相成居候處看病人卒無之ニ依リ治療ハ勿論其他醫務上ニ付實際差支候間更ニ看病人看病卒各一名宛附屬相成候様致度此段相伺候也

〔指令〕 伺之通

〔陸〕〔東京憲兵本部ヨリ陸軍省ヘ伺〕

下級ノ職代理ノ者ハ増俸ノ事當隊創設ノ際人員寡少ニ付一時曹長ヲ以テ本部書記ノ代理ヲ爲致候者有之有ハ下級ノ職ヲ代理爲致候儀ニ付其本務即チ軍曹相當ノ職務増俸ヲ支給致シ可然儀ト存候得共類例モ無之儀ニ付此段相伺候也

〔指令〕 伺之通

〔陸〕〔長野縣ヨリ陸軍省ヘ伺〕

徵兵免否調方ノ事

一子孫ヲ有スル二三男又ハ兄弟伯叔甥等分家又ハ絶家ヲ再興シ其嗣子或ハ承祖ノ孫ハ免役ニ屬シ候儀ニ有之候處右ハ檢査時限(九月十五日ヨリ四月十日マテ)内ニアルモ其嗣子ハ免役ニ屬シ候儀ト相心得可然哉

一東京大學豫備門生徒ニシテ修業一ケ年以上ノ課程ヲ卒ルト雖モ徵兵令第二十九條第七項及第三十條第六項ニ比準可致者ニ無之儀ト相心得可然哉

右兩條相伺候條何分ノ御指揮有之度候也

〔指令〕

- 第一項 伺之通
- 第二項 修業一ケ年ノ課程ヲ卒リタル以上ノ生徒ハ徵兵令第三十條第六項ニ據リ徵集ヲ猶豫スヘシ

〔陸〕〔東京砲兵工廠ヨリ陸軍省ヘ伺〕

村田銃用彈丸製造方ノ件

村田銃用彈丸ノ儀ハ鉛ニ外一割ノ錫ヲ加ヘ鑄造致シ而シテ凹線數個ヲ附シ候様式ニ有之候處銃包製造所ニ設置相成候製彈器械ハ始メ鉛ヲ鎔解シ之ヲ圓線トナシ後壓搾器ヲ以テ彈形トナスノ裝置ニ有之候然ルニ外一割ノ錫ヲ混和候キハ此器械難用空敷長物ニ



屬シ加之費用幾分歟高價ニ相當リ申中日又優劣ノ儀ニ至テハ經驗上ニ於テ大ナル差異ハ無之由惟睛中ニ少シシ鉛ノ附着スル憂有之候得共是ハ格別ノ障礙ニ不相成哉依テ單鉛彈ニテ凹線ヲ附サ、ル式ニ御改正相成度既ニ該空管并彈丸共製作ノ儀御達相成候間可相成ハ至急御指令被下度此段相伺候也  
[指令] 伺之通  
退テ彈丸ノ形狀ニ依リ多少空管形狀モ差異相生シ候間此段申添候也

陸軍省ヨリ陸軍省ヘ伺 徵兵免否ノ件

徵兵事務條例第六十條分家又ハ絶家ヲ再興シタルモノ、養嗣子又ハ相續人ハ免役限外ニ候處分家又ハ絶家再興ノ後該戶主癡疾不具ニ罹リ產業營ム不能ニ於テハ其養嗣子相續人ハ令第廿八條第五項ニ依リ免役ニ屬スヘキ哉  
分家又ハ絶家再興ノ戶主又ハ養嗣子相續人等免否明治十二年十月廿六日ヲ以テ區分スヘキ旨同年甲第廿二號御達有之同日以後分家又ハ絶家再興シタルモノハ無論徵集スヘキ儀ニ候得共十數年以前已ニ分家又ハ絶家再興シタル者(五十歳以上)ト雖也同日以後ニ係ル養嗣子相續人ハ免役限外ナル哉  
事務條例第五十七條乃至第五十九條ノ趣有之候處十二年十月廿六日以前嗣子又ハ承祖孫又ハ養嗣子相續人ヲ廢シ(癡疾不具ニアラス)其他ノ子孫又ハ他家ノ子弟ヲ以テ同日以後ニ至リ更ニ定メタル嗣子承祖孫養嗣子相續人ハ免役限外ナル哉  
徵兵各自届出期限ニ於テ令第三十條第六項又ハ第七項ニ當ル者ニシテ九月十六日後四月十日以前全科卒業シテ令第廿九條第五項乃至第七項ニ當ルモ猶豫ノ名稱ハ消滅シ令第卅三條中揭示項目中ノ名稱ヲ得タルモノニ役限外ナル哉事務條例第百十八條ノ趣モ

有之抽籤前免役名稱(本令第三十三條ヲ除ク)ヲ得タル付免者ハ同第百七十九條ニ依リ出願スヘキノ處檢査合格ノ者ニシテ抽籤前免役名稱ヲ得タルヲ以テ願書ヲ差出シタルモ徵兵署ヘ遠隔ノ地ニシテ已ニ抽籤後ニ到達シ同署ニ於テ受理無之キハ所管領臺ヘ回送候得ハ免役證讀可相成哉  
事務條例第一書式地方醫師診斷書ニ病院長與書ノ儀ハ人民ヨリ乞フヘキモノニ非スシテ官ヨリ調査與書ヲ命スル儀ト存候處病院遠隔ノ地ニアツテ差支不得止内務省免許醫ナシテ調査與書セシムルキ其手數料ハ徵兵入費ノ内ヨリ支給可然哉  
右條々御指令有之度此段相伺候也

- [指令] 第一項 戶主ノ年齢ニ從ヒ徵兵令第二十八條第四項又ハ第五項ニ據リ免役ニ屬ス
- 第二項 第三項 免役ニ屬ス 但五十歳未滿ノ者ノ養子ハ此限ニアラス
- 第四項 伺之通 第五項 徵兵事務條例第百十六條但書相當ノ者ニ非サレハ免役ノ證讀ニ及ハス 第六項 伺之通

陸軍省ヨリ陸軍省ヘ伺 徵兵檢査呼出ノ節發病者醫員診斷書ノ件

徵兵事務條例中地方醫師診斷書ニ病院長又ハ衛生掛ノ與書ハ病院又ハ衛生掛ノ在ル地ニ於テハ實際不相檢査呼出ノ場合等ニ於テハ別ノ難相調ヲ以テ地方徵兵醫員ノ調査ノミニテ可然哉ノ段去ル十三年八月相伺候之通御指令相成居候處同年十月布第三號ヲ以テ右診斷書式御改正相成候得共前條檢査呼出等ノ節俄然發病ノ者等僻村ニ在テハ到底難相調譯ニ付右ハ矢張以前御指令之通相心得可然哉此段相伺候也  
[指令] 伺之趣病院ニ遠隔シ實際病院長ノ調査ヲ要シ難キ地ニ在テハ内務省醫術開業免狀所持ノ者ニ調査可爲致事  
但地方徵兵醫員ノ與書ヲナス場合ニ在テハ病院長ノ調査ヲ要セサル儀ト可相心得



事

〔埼玉縣ヨリ陸軍省へ伺〕 徵兵免否ノ事

女戸主アリ年齡五十歳以上ニシテ男子ヲ有ス(亡父ノ遺子ナリ)長男ハ(嘉永三年七月十一日生)放蕩懶惰ニシテ其親族ヲ保養セズ次男ハ(安政四年二月十六日生)テ十年徵兵滿齡登時檢査ヲ受ケ不合格ノモノナリ)病身ニシテ産業ヲ營ムコト能ハス因テ長次男情願ニ依リ廢嫡ノ儀管廳ノ許可ヲ得テ後該戸主隱居シ三男へ家督ヲ讓リ戸主トナセシモノト雖モ條例追加第百五十七條末項ニ依リ免役ニ屬セサル儀ト相心得可然哉此段相伺候也

〔指令〕 伺之通

〔東京鎮臺ヨリ陸軍省へ伺〕 常備補充兵ノ件

本年常備補充兵ノ儀、各師管共充實可致見込ノ慮憲兵へ編入ヲ始メ事故未入營及逃亡ノ者虛位等ノ爲メ第三師管剩餘步兵ヲ四十八名不足ヲ生セリ就テ、第一師管剩餘步兵ヲ以テ補充可致儀ニ候得共後來取扱上甚不便宜ノ慮不掛候間萬不得止ニ非ハレハ可成其管徵兵區内ヨリ補充致度候間事務條例第百條但書ニ依リ第三師管補充四種兵七十七名ノ者悉皆步兵ニ繰替所要ノ人員入營セシメ該師管ヨリ四種兵補充ノ儀ハ第一師管補充四種兵ヲ以テ補充致度此段相伺候也

〔指令〕 伺之趣軍管徵兵區内補充步兵ヲ平均シ常籤番號ノ順序ニ從ヒ補充可致事

〔東京鎮臺ヨリ陸軍省へ伺〕 豫備軍艦員外國へ旅行或ハ滞在ノ事

豫備軍艦員外國へ旅行或ハ年限ナ期シ滞在ノ儀出願候者ハ後備軍艦員條例第二十一條ニ據リ取扱可然哉目下別紙出願ノ者モ有之候間早々御指揮相成度此段相伺候也

追テ本文伺之通御許可相成候節ハ以來右類例ノ者ハ臺限リ許可取計可然哉此段伺添候也

(別紙略ス)

〔指令〕 書面外國旅行或ハ滞在ノ儀伺之通且步兵軍曹菅田勇太郎願意聞届不苦候事但追書其時々可伺出儀ト心得ヘシ

〔陸軍工兵第二方面本署ヨリ陸軍省へ伺〕 埋葬地番人設置并地所撰定ノ事

仙台青森函館埋葬地番人未タ差置無之候處往々取締向不都合ニ付近傍人民適選シ日給金拾二錢五厘最上限トナシ番人一名宛差置取締向ハ勿論該地内草取下水等勞掃除爲致候様致度

軍人軍属軍律ニ係ル刑死人及徒以上ニ處スヘキ獄死人埋葬地ノ御成規無之右ハ常人ト同一ニ埋葬不致區別相立候方可然思考致候ニ付將來引受人無之刑死人及徒以上ニ處ス可キ獄死人ヲ仙台小田原埋葬地ノ内圖面黃色ノ地所ハ一段低地ニ有之ニ付右埋葬地ニ充用致度然ルルハ昨年十二月七日御許可相成候該周圍柵取設方目今工業中ニ付綠線地ノ柵ヲ飛朱線之通變設致シ常人埋葬地ト區別相立候様致度但青森ノ分遣テ取調可伺出候右相伺候也

(圖面略ス)

〔指令〕 第一條 伺之通 第二條 伺之趣ハ是迄實施ノ通會計部囚獄課ニ於テ寺院へ送埋セシムヘキ儀ト可相心得事

〔軍馬局ヨリ陸軍省へ伺〕 競馬場ヨリ寄附金請求ノ事

過般參第二一五八號ヲ以テ伺濟去ル十一月横濱競馬場へ當局馬匹出場爲致候就テハ若干ノ寄附金該社ヨリ請求有之右ハ外省其他出場ノ向ハ多少ノ出金致候由當局ニ於テ其儘黙止モ難相成依テ今般洋銀百弗寄附相成候様致度尤モ右命員ハ過般伺濟ニ相成候競馬費用ノ中へ被相加候様仕度此段相伺候也



〔指令〕 伺之趣通貨ヲ以テ金百五十圓寄附可致候事

〔鹿兒島縣ヨリ陸軍省へ伺〕 徴兵醫員及筆生身分取扱ノ件

地方徴兵醫員及筆生身分ハ准官吏雇ノ間何レヲ以テ取扱可然哉職務上ノ過失處分方ニ付差支候條御指示相成度此段相伺候也

〔指令〕 伺之趣雇ヲ以テ取扱候儀ト可相心得事

〔千葉縣ヨリ陸軍省へ伺〕 徴兵免否ノ件

徴兵事務條例第百五十七條及第百五十八條ニ掲ル徴兵年齢以後ノ嗣子等ハ徴兵各自届ヲ出サス後ノ者ヲ廢シタル儀ト相心得假令ハ明年徴兵相當コテ本年二十歳ノモノヲ相廢シ離縁又ハ他ノ養子トスルモ各自届出期限以前ノ異動ニハ相關セス同日前更ニ定メタル嗣子等明年徴兵相當スルモ該戸主五十歳以上ナレハ徴兵令第廿八條第三項第四項ニ依リ免役ニ屬シ可然哉

但各自届出ナシタル上相廢シ離縁又ハ他ノ養子トスル本人ハ徴集ニ應セシメ該家ニテ更ニ定メタル嗣子又ハ養嗣子モ年齢相當ノ節戸主ノ年齢ニ拘ハラス尙徴集ス可キ儀ト相心得可然哉 右相伺候也

〔指令〕 伺之趣各自届出期限前後ニ拘ハラス免役ニ屬セサル儀ト可相心得事

但書他ノ五十歳以上ノ者ノ養嗣子トナル者ヲ除ク外各自届出期限前後ニ拘ハラス徴集ニ應セシムヘシ

〔滋賀縣ヨリ陸軍省へ伺〕 徴兵取調方ノ事

第一條 徴兵事務條例第百五十五條ノ旨趣ハ前戸主則チ養父等其籍内ニアルモノ、儀ニシテ若シ前戸主(隠居)當時ノ戸主ヲ離別シ實家ニ復籍スル等ノ如キハ養父子ノ名

義ハ既ニ斷滅シ該家ニ關係ハ一切無之モノニ付先戸主實家ニ復籍ノ後假令不具廢疾或ハ死亡又ハ年齢五十歳以上トナルモ無論同條ニ比準難相成義ニシテ令第二十八條第一項但書末段五十歳未滿ノモノ隠居シ其跡ヲ繼キタル戸主ト同視シ免役不相成義ト相心得可然哉

第二條 安政五年二月誕生ノモノハ十一年徴兵適齡ニシテ舊徴兵令ニ因レハ十四年四月ニテ常備ノ年期ハ已ニ終リタルナレハ徴兵令改正ニ付テハ來十五年徴兵検査時限

マテニ免役相當ノ名稱ヲ罷ムルモノハ令第三十二條ニ據リ徴集スヘキ儀ト相心得可然哉

右兩條相伺候也

〔指令〕 第一條 伺之通 第二條 常備年期ハ適齡ノ年ヨリ起算スヘキ義ニ付十四年四月十一日後ニ係ル者ハ徴集ニ及ハス

〔陸軍士官學校ヨリ陸軍省へ伺〕 士官生徒修學中下士ノ職務ヲ帶フ者手當

當校條例第十四條ニ士官生徒修學中(中略)其學術優等ニシテ且品行方正ナル者ヲ撰拔シ生徒大隊附下士ノ職務ヲ命スルコトアリ然レハ下士ノ袖章ヲ附着セシメ且若干ノ手當金ヲ給スト有之候處ホク金額御定無之追テ實際施行ノ節差支可申ニ付右生徒ヲシテ軍曹或ハ伍長ノ職務ヲ命スルハ各本官二等給三分ノ二ヲ手當トシテ下賜候様致度此段相伺候也

〔指令〕 伺之趣各本官二等給十分ノ一ヲ支給可致事 但費用ノ儀ハ其校經費ノ内ヲ以テ支給可致事

○〔島根縣ヨリ農商務省へ伺〕 博覽會賞牌及褒狀寫製造品へ附著ノ件



本年第二内國勸業博覽會ニ於テ受領セシ賞牌(追テ御下付ノ上)及ヒ褒狀ノ寫ヲ製造物品又ハ其外包ミ等ニ相付ケ度旨即今伺出候者有之候處右ハ第一回ノ節ニ準シ賞牌褒狀共其寫ヲ製造物品ニ付著致シ不苦哉而シテ受領者死亡或ハ代替等ニテ跡相續人ニ於テ父ノ受領セシ賞牌褒狀ヲ讓受候儀不相成ハ勿論假令父ト同様ノ物品ヲ製作スト雖モ自ラ手ヲ下シタルモノハ作者ノ異ナルヲ以テ受領セシ賞牌褒狀ノ寫ヲ其製造ノ物品ニ付著候儀モ不成筋ニ相考候然ルニ數多ノ職人ヲ使役シ一ノ製作所(銅山鉄山陶器ノ類)ノ如キハ其質タル舊ノ如ク其製品タル悉皆職人ノ手ニ成ルモノニシテ是等ノ類父ノ營業ヲ襲續シ同様ノ物品ヲ致製作候モノハ物品又ハ外包ミニ付著候儀ハ不苦哉難決此段相伺候條何分ノ御指揮有之度候也

〔指令〕 書面第二回勸業博覽會ニ於テ受領シタル賞牌及ヒ褒狀ノ寫等製造品或ハ其外包等ニ付スルハ不苦候事  
但受領者死亡等ノ後其子孫ニ於テ付スル儀ニ付テハ一般ノ規則可相設等ニ付目今難及沙汰候事

〔二廻町區ヨリ東京府へ伺〕 皇城接近ノ場所ニ商業開店ノ件

皇城接近ノ場所ニ於テ商店ヲ開キ候者ハ不取締ニ付開店商業不相成旨明治九年一月中府達相成居候處本區祝田町二番地之義ハ多ク細民住居罷在往還表通ニテハ開店不致候得共本地内徑路ニテ開店商業致度旨申出右者細民生計上不得止場合ニ候間地内ニ於テ開店之儀ハ開屆置可然哉此段相伺候差掛候義ニ付至急何分ノ御指令有之度候也

〔深川區ヨリ東京府へ伺〕 建物讓渡公証ノ件

第三項 家督相續(生存者ノ家督ヲ繼承スルヲ謂フ)ニ依リ建物ヲ授受スルハ八年第百四十八號公布建物讓渡規則ニ準據シ無代價讓渡公証手續ヲ經サレハ所有ノ權移轉セシモノト認定スル能ハサルカ將テ前段ノ手續キテ尽カハルモ授受者連署届出サセタルノミニテ可然哉

第二項 死亡失踪者或ハ離縁戸主ノ家督相續ニ由リ建物ヲ讓受ケル者ハ親族ナキ者ハ隣佑ノ戸主連印ノ届書ヲ以テ所有者ノ確定スル者ト心得可然哉

第三項 遺命ニ因リ死者所有建物數個ノ中幾分ヲ他人ニ讓與スル等ハ其家督相續人死者ニ代リ讓渡手續キテ爲サシメ公証ヲ付與スル儀ト相心得可然哉

第四項 家族ニシテ建物ヲ所有スル者死亡シ該家ノ戸主ニシテ所有スルキハ第二項ノ手續キテ以テ届出サセ可然哉若シ遺命ニ因リ他人ニシテ讓ルキハ其戸主ニシテ第三項ノ手續ヲ履行セシメ公証ヲ與ヘ可然哉

右ハ疑義ニ涉リ決兼候間至急何分ノ御指揮有之度候也

〔指令〕 書面ノ趣ハ左ノ通り可心得事

第一項 第二項 戸主轉換ノ際一家ノ財産(地券証公証ノ如キ記名物ハ除ク)ニ於テ別ニ届出ナキ者ハ慣例ニ依リ總テ現戸主ノ所有ニ歸シタル者ト認メ差支無之候事

第三項 第四項 伺ノ通

〔二廻町區ヨリ東京府へ伺〕

明治十四年十二月 納稅切符記人方ノ件  
本年十月乙第百拾號ヲ以テ區郡地方稅徵収順序御達相成候處地稅ノ錢ハ國稅ト雖地租



割稅同時ニ徵收候者ニ付第一號離形領收切符ヲ兼タル各地主ニ達書ニ金何圓地稅金何圓地價割稅ノ記載一紙ヲ以相達候方納付人ハ勿論郡役所手數不相掛便方ト存候間右様取計度且又自用人力車營業馬車荷車稅并船稅共前同様一紙ニ相達候テ可然哉此段併テ相伺候至急何分ノ御指令有之度候也

〔指令〕 伺ノ趣便宜ノ爲メ記入候義ハ不苦候事  
但伺書中地價割稅ト記入有之右ハ地稅割稅ト記入致スヘキ事

〔東京鎮臺ヨリ陸軍省ヘ伺〕 隊附下士ニ年功加俸支給方ノ件

去ル十二年達乙第五號ヲ以テ隊附下士ニ年功加俸支給方ノ義御達相成候處勤續年月計算上不判然ノ廉有之同年三月相乙第八十三號ヲ以テ右計算方伺書中第四項伍長ヨリ上等卒ニ降等中ノ年月ヲ相除キ日數ヲ通算致シ可然哉旨伺出候處伺ノ通ト御指令有之然ルニ改正給與概則第四表備考ニ據ルホハ再役ヲ命シタル日ヨリ給スト有之就テハ下士服役中降等又ハ黜等ノ年月ヲモ算入可致義ニ候哉此段更ニ相伺候也  
退テ本文降等黜等中ノ年月ヲモ算入可致義ニ候ハ、給與概則改正御達ノ日ヨリ支給候儀ト相心得可然哉此段伺添候也

〔指令〕 伺之趣降等黜等中ノ年月ニ不關再役ヲ命シタル日ヨリ加俸支給可致事  
但退書伺之通

〔廣島縣ヨリ陸軍省ヘ伺〕 單身附籍者徵集地ノ事

附屬ノ儀ハ全戶單身ヲ不問一般轉任同様送籍候儀ニ付兵役上ニ於テモ同一ノ儀ト相心得居候處單身附籍者ノ儀ニ付別紙寫ノ通御省指令ノ旨廣島鎮臺ヨリ通知有之管下ニ布

達ノ都合有之候ニ付左ノ條項相伺候也

一家分離各所ニ附籍スルホハ戶主タル者ハ附籍地ニ於テ徵集ニ應スヘキ哉

徵兵令第六十壹條各自届出ノ際已ニ單身附籍タル者ハ依然該地ニ於テ徵集ニ應スヘキ哉

〔指令〕 伺之趣兩項共單身寄留ノ者ニ準シ可取扱事

〔福井縣ヨリ陸軍省ヘ伺〕 福井縣々立病院生徒平時免役并徵集猶豫ノ事

當縣縣立病院附屬醫學教場ノ儀ハ國語ヲ以テ醫學ヲ教授シ義ニ福井醫學所ト稱シ單立專門醫學所ニ有之候處同所ハ現ニ福井病院ノ建家ヲ區劃シ醫學所ノ所轄トシ授業ヲ爲ス儀ニ有之且ハ高等生徒ニ患者ノ診察ヲ傍觀セシメ又ハ臨床講義ヲ聽カシム等學科上必用ノ件ニ至テハ單立醫學所ノ難スル所ニ付先般縣會ニ諮リ醫學所費ヲ病院費中へ入組ノ儀議決仍テ右醫學所ノ稱呼ヲ廢スニ至テハ前後同様ノ儀ニ付卒業ノ者及修業ニケ年ノ課程ヲ卒リタル以上ノ者ハ徵兵令第四章第二十六條第六項及第卅條第七項ノ旨ニ準據シ平時免役又ハ徵集猶豫可相成ハ勿論ノ儀ト相心得候得共爲念此段一應相伺候也  
〔指令〕 伺之趣徵兵令第二十九條第六項及第三十條第七項ニ準シ免役又ハ徵集猶豫ニ屬シ候儀ト可相心得事  
但學期三ヶ年未滿ナルホハ此限ニ非ス

〔埼玉縣ヨリ陸軍省ヘ伺〕 徵兵免否ノ件

徵兵年齡以前ノ戶主(長男)病氣其他不得止事故ヲ以テ退隱其父再相續ス然ルニ右長男病氣平癒又ハ事故相解ルニ付更ニ之ヲ嗣子トスル者ハ尋常嗣子ニ準シ可然哉  
常備年期内ニ係ル戶主隱居後更ニ定メタル相續人ニシテ其跡ヲ繼キタル戶主ノ適齡ヲ



ル時ハ免役ニ屬スヘキヤ  
〔指令〕 第一項 伺之通

右相伺候條何分之御指令相伺候也  
第二項 免役ニ屬セス

〔陸〕 埼玉縣ヨリ 陸軍省へ伺

軍人軍屬處刑濟歸隊ノ者若途中ニ於テ病氣其他ノ事故ニ依リ無據滯留シ旅費不足ニ及ヒ操替ノ儀宿驛戸長役場へ申出事實不得止場合ニ出ルキハ明治四年第百六十五號公布行旅病人取扱規則ニ準シ取計追テ本人歸隊ノ上ハ所管ノ鎮臺又ハ本分營所ニ於テ其身元ヨリ徵收シ償却ノ儀ト相心得可然哉何分ノ御指令相仰候也  
〔指令〕 伺之越其所管鎮臺へ申出候ハ、本人資力限取立返戻可致事

〔陸〕 大坂鎮臺ヨリ 陸軍省へ伺

隊馬疾病ノ節飼料ヲ大豆其他ノ品ニ換用ノ件  
當臺砲工輜重兵隊馬疾病ノ節馬醫官診斷ノ上飼料ヲ減シ或ハ全ク之ヲ止メ大豆其他ニ換用シ滋養ヲ要シ候物品ハ各隊ノ適宜ニ爲取扱度有件ニ付曾テ廣島鎮臺ヨリ伺出候處御許可ニ付當臺ニ在テモ同様取扱飼料ノ内ヲ以テ實費支拂致度此段相伺候也  
〔指令〕 伺之通

〔陸〕 熊本鎮臺ヨリ 陸軍省へ伺

沖繩長崎分遣隊歸營後休暇ノ件  
當臺沖繩分遣步兵隊ノ義ハ波濤遠隔ノ地ニ派立シ風土モ相異リ殊ニ夏季ハ暑氣酷烈ノ地ニシテ上下共本隊ニ比スレハ其勞逸判然致居候義ニ有之又長崎分遣砲兵隊ノ儀モ何時禮砲施行モ難計ニ付休暇日ト雖モ備少人員ノ義ハ外出モ難差許服務爲致候義ニ有之且兩分遣隊共途中行動ノ勞モ有之旁以テ去ル十三年送第七三九〇号各種兵野營行軍歸營後休暇休業ノ義豫メ御許可ノ例モ有之候間將來沖繩分遣隊ハ歸營後三日間長崎分遣隊ハ歸營後二日間將校ハ休暇下士卒ハ休業ノ儀豫メ御許可相成候様致度此段相伺候也

〔指令〕 伺之通  
〔高〕 知縣ヨリ 文部省へ伺 學務委員隣村兼務ノ事  
學務委員ハ小學校ヲ設置スル獨立或ハ聯合町村ノ區域ニ本籍居住ノ者ヲ撰舉可致ハ勿論ノ儀ニ候處管内幡多郡和田村外七ヶ村ハ孰レモ小部落ニテ該委員適任ノ者無之學務幹理上差支候都合ニ付他村人ヲ撰舉致度旨現今伺出候右ハ實際不得止情實ニ付許可致シ不苦儀ニ候哉右裁可ヲ經候上ハ他ノ山間僻處ノ土地ニテ事實不得止ニ出ル者ハ便宜隣村學務委員ヨリ兼務候儀モ自今當應限屆候様致度此段相伺候也  
〔指令〕 伺之趣聞屆候事

〔文〕 長崎縣ヨリ 文部省へ伺

學校教員ノ卒業證書沒收并返附ノ件  
今般御達相成候學校教員品行檢定規則第二條但書ニ本文ノ場合ニ於テハ本人有スル所ノ師範學校卒業證書教員免許狀ヲ沒收スヘシト有之候處右ハ官立及他府縣立師範學校等ニ於テ授與シタル分、雖モ直ニ沒收スルコトヲ得ルノ御旨意ニ候哉果シテ然ラハ右沒收證書等ハ之ヲ授與シタル當該學校へ直ニ返戻可致候哉爲念此段相伺候也  
〔指令〕 書而伺之通リ但卒業證書返附ノ際併テ其理由ヲ通知スヘシ尤既ニ廢止ニ係ル官立師範學校ノ卒業證書ハ當省へ可相伺且教員免許狀ハ其府縣限リ其効ヲ有スモノト可相心得事

〔陸〕 東京憲兵本部ヨリ 陸軍省へ伺

各屯所へ馬匹備付ノ件 十四年十二月二十八日  
常隊勤務既ニ實施致シ候ニ就テハ至急ノ命令傳達或ハ事件報告等徒歩ニテハ實際差支候間下士卒公務ノ爲メ臨時乗用トシテ各屯所へ乘馬二頭ツ、及馬具同數現品ヲ以テ御備付相成度右御許可相成候ハ、一屯所馬丁一名ヲ使用、馬匹飼料、始メ馬丁給與向等一



切之費用ハ隊中定額金ヲ以テ支弁可致候間至急何分ノ御指揮相成度此段相伺候也  
〔指令〕 伺ノ趣當分馬匹各分屯所へ一頭馬具一脊ツ、備付候事  
但馬丁及飼料ノ儀ハ伺之通

〔太政官〕 御 達 十五年一月十一日 官省院使廳府縣

依願免兼參議開拓長官

陸軍中將兼參議開拓長官 黑田清隆

內閣顧問被 仰付候事  
但年俸四千圓下賜候事

陸軍中將 黑田清隆

兼任開拓長官兼  
參議農商務卿議定官如故

陸軍中將兼參議農商務卿議定官  
正四位勳一等 西鄉從道

右之通本日宣下并御沙汰相成候條此旨相達候事

〔警視廳〕 御 達 十五年一月九日 巡查本部警察署

人力車取締規則第三條第四條ニ據リ車體ノ蹴込ニ付スヘキ番號札等手今附著セサルモ  
ノ有之不都合ニ付認次第處分ノ手續ヲナスヘシ此旨相達候事

〔警視廳〕 御 達 十五年一月十日 巡查本部警察署

路上撒水ノ儀ニ付テハ明治十二年一月甲第四號布達市街掃除規則第七條但書ニ明文有  
之候處近來等閑ニ流レ候向モ有之不都合候條巡行巡查并ニ特務警員ニ於テ注意致スヘ  
シ此旨相達候事

(畢)

明治史料

〔六日〕 京都府博覽會紀念碑成碑  
文ニ曰ク

一場内陳列ノ字内  
之奇品ヲ蒐輯古今  
珍異ヲ以開人智而  
興物産進工藝而  
恢弘貿易資益之  
道者唯博覽會ヲ爲  
然會之爲用其不

官令全報 都 部 日 乘 紀元 二千五百四十一年  
附 錄 都 部 日 乘 光緒七年 西洋 一千八百八十二年

自明治十四年十一月廿四日至同十五年一月 日

廿四日 木曜日 晴 舊十月三日 正午寒暖計五十度

石腦油坑 新潟縣中頸城郡三ツ俣ノ石油坑ハ天保年中ニ同  
所ノ松永源石工門ナル者油坑ヲ開キシガ實益少ナク其子源  
一郎其志ヲ繼キ追々盛大ニ至リ明治六年頃ニ及ンテ大ニ有  
志ト協力シタルモ不意ノ過チ多ク坑中ニ死スルモノ數十人  
アリシガ去ル十三日ニ松永氏ガコノ追吊會ヲ營ミタリ尙資  
金一万五千圓ヲ募リシニ應スルモノ多ク己ニ三万圓モ出來  
タレハ精良ナル器械ヲ以テ盛大ニ汲取ラント尽力中ナル  
由

縣令上京 諸縣令ガ府縣會規則修正備荒儲蓄ノ儀ニ付實際  
御諮問アルニヨリ此程上京スル由

廿五日 金曜日 晴 舊四日 正午寒暖計五十度

轉免風說 明十五年ヨリハ政府ニ於テ一層ノ節減ヲ行ハレ  
諸官吏ノ轉免モ多分ニアル由  
競漕共遊 府下ニ競漕共遊會ト云フヲ設ケテ松田道之君之  
ガ社長トナリ三條公恭君副社長トナリ貴顯ノ方々多ク加入

日 乘

第六十六号



亦大平明治四年  
本府糾合府下有  
志者、擬設此會於  
本願寺、實爲本邦  
博覽會、嚆矢其明  
年又開場於知恩  
建仁本願之三刹  
五月天皇幸焉親  
賜御覽、自是每歲  
開設或於皇宮內  
或於仙洞舊院內  
其十日四月皇太  
后宮與皇后同臨

セラレ來春隅田川ニテ大漕會ヲ施行セラル、由是レハ海軍  
ヲ隆盛ナラシムル一端ナル可シト  
議員集會 關西府縣會議員ノ懇談會ハ去ル十五日ヨリ十七  
日マテニ兎角取纏リ兼タル景况ナリシガ中ニハ往々之ヲ嘆  
息シテ歸縣セラレタル議員モアリテ集會シタル中五拾名ニ  
過キサル程ニ減セシカト福岡熊本鹿兒島和歌山滋賀三重等  
ノ議員ノ熱心ニ因リテ遂ニ來年十一月十五日ヲ期シ神戸ニ  
再會ヲナシ憲法草案ヲ討論シ并ニ府縣會規則ハ改正ヲ建議  
スルトノ由

廿六日 土曜日 晴 舊五日 正午寒暖計五十二度  
聯合開會 來十五年ノ九月ハ埼玉縣ニテ東京神奈川靜岡千  
葉栃木茨城群馬ノ府縣ト聯合シテ米麥ノ共進會ヲ開キ同年  
十一月ハ群馬縣ニテ埼玉栃木神奈川福岡長野山梨ノ六縣ト  
聯合シテ生糸繭織物ノ共進會ヲ開クト云フ  
大臣守衛 大臣方邸宅ノ守衛ハ改メテ大臣ニハ巡查部長一  
名巡查廿一名參議ニハ巡查部長一名巡查十四名ト定メ  
ラル  
舉動偵察 近來各地方ニ於テ自由黨懇親黨杯ト云フ政黨中  
ニ稍激烈ナルモノアル由ニテ其筋ヨリ專ラ其等ノ舉動ヲ偵

焉六月天皇又幸  
焉此會之榮爲極  
大也今茲十三年  
卜地於御苑內新  
築屋宇修庭園以  
爲永久不易之場  
矣蓋京都爲地也  
千有餘年之帝都  
而百工萬商紛然  
雜居加以山水境  
勝四方之士來遊  
者亦多然風聲東  
遷後一朝呈衰色

察セシメラル、由  
選被選權 府縣會規則ノ改正ヲ聞クニ臨時會ニテ建議相成  
ラサルヲナシ得ベキニ改マリ又選被選權ノ區域モ廣マリテ  
選舉ハ土地ヲ有スルモノ被選ハ地租五圓以上ヲ納ムルモノ  
トセラル、由ニ聞ク

廿七日 日曜日 晴 舊六日 正午寒暖計五十一度  
貢稅調查 參事院內務部ニテハ舊幕時代各藩ノ貢稅法ヲ調  
査セラル  
長野政黨 全縣下ニハ今マテ政黨杯ナカリシガ近日二三ノ  
有志ガ盡力ニテ已ニ八九十名モ同盟アリテ開進社ト名ク  
鐵道規則 鐵道局ニテハ去ル二十五日ヨリ京濱間ノ鐵道規  
則ヲ左ノ如ク改メタリ大一匹ニ付賃錢二十五錢川崎ヲ越ヘ  
カレハ其半賃錢ヲ拂フ可シ併シ旅客車ニ載スルヲ許サズ當  
局ハ都合ニ依リ犬箱或ハ車長ノ車ニテ運送ス可シ尤首輪首  
網口網ヲ具ヘテ置ク可シ但シ犬ヲ旅客列車ニテ運送スルハ  
唯旅客便利ノタメニ執行スル者ニテ別ニ其備ヲナスニ非サ  
レハ運送ヲナストナサ、ルハ車中場所ノ有無ニ依ル可シ又  
一人若クハ數人ニテ數頭ノ犬ヲ運送セントスルモハ二時間  
前ニ申出レハ金二圓五十錢ヲ以テ送馬車一輛ヲ貸切リ其望



將有<sub>レ</sub>古<sub>レ</sub>都<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>歎<sub>レ</sub>是<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>府<sub>レ</sub>官<sub>レ</sub>百<sub>レ</sub>方<sub>レ</sub>救<sub>レ</sub>護<sub>レ</sub>幸<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>致<sub>レ</sub>今<sub>レ</sub>日<sub>レ</sub>繁<sub>レ</sub>盛<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>失<sub>レ</sub>帝<sub>レ</sub>都<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>舊<sub>レ</sub>相<sub>レ</sub>者<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>會<sub>レ</sub>亦<sub>レ</sub>爲<sub>レ</sub>與<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>功<sub>レ</sub>焉<sub>レ</sub>乃<sub>レ</sub>今<sub>レ</sub>築<sub>レ</sub>其<sub>レ</sub>場<sub>レ</sub>於<sub>レ</sub>御<sub>レ</sub>苑<sub>レ</sub>內<sub>レ</sub>良<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>頃<sub>レ</sub>工<sub>レ</sub>事<sub>レ</sub>告<sub>レ</sub>竣<sub>レ</sub>因<sub>レ</sub>記<sub>レ</sub>其<sub>レ</sub>由<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>告<sub>レ</sub>後<sub>レ</sub>人<sub>レ</sub>云<sub>レ</sub>

明治十三年歲在<sub>レ</sub>庚辰冬十月<sub>レ</sub>京都府知事從五

ニ應<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>シ<sub>レ</sub>○發<sub>レ</sub>車<sub>レ</sub>時<sub>レ</sub>限<sub>レ</sub>ヲ<sub>レ</sub>怠<sub>レ</sub>ラ<sub>レ</sub>サル<sub>レ</sub>爲<sub>レ</sub>メ<sub>レ</sub>時<sub>レ</sub>間<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>三<sub>レ</sub>分<sub>レ</sub>前<sub>レ</sub>ニ<sub>レ</sub>ス<sub>レ</sub>テ<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>シ<sub>レ</sub>ヨ<sub>レ</sub>ン<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>戶<sub>レ</sub>ヲ<sub>レ</sub>扉<sub>レ</sub>ス<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>シ<sub>レ</sub>○吸<sub>レ</sub>烟<sub>レ</sub>草<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>外<sub>レ</sub>ハ<sub>レ</sub>烟<sub>レ</sub>草<sub>レ</sub>ヲ<sub>レ</sub>許<sub>レ</sub>サ<sub>レ</sub>ス<sub>レ</sub>○午<sub>レ</sub>後<sub>レ</sub>十<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>時<sub>レ</sub>後<sub>レ</sub>別<sub>レ</sub>仕<sub>レ</sub>立<sub>レ</sub>列<sub>レ</sub>車<sub>レ</sub>出<sub>レ</sub>發<sub>レ</sub>ヲ<sub>レ</sub>要<sub>レ</sub>ス<sub>レ</sub>ル<sub>レ</sub>モ<sub>レ</sub>ノ<sub>レ</sub>ハ<sub>レ</sub>當<sub>レ</sub>日<sub>レ</sub>十<sub>レ</sub>二<sub>レ</sub>時<sub>レ</sub>限<sub>レ</sub>リ<sub>レ</sub>新<sub>レ</sub>橋<sub>レ</sub>鐵<sub>レ</sub>道<sub>レ</sub>局<sub>レ</sub>へ<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>出<sub>レ</sub>ッ<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>シ

廿八日 月曜日 晴 舊七日 正午寒暖計五十三度  
區親睦會 芝區親睦會チ一昨日紅葉館ニテ催セシガ之ハ區内ノ盛衰ニ關スル件ニテ區會ニ附セラレヌ所ノモノヲ協議討論セシナリト

烟草課稅 烟草稅ハ來年一月ヨリ改正セラレ烟草畑ヘモ何程カ課稅サル、事ニナルトノ

廿九日 火曜日 晴 舊八日 正午寒暖計六十二度  
民事上告 大審院民事上告ハソノ上告セシ當日一通リノ書類ヲ差出シ上告人ノ都合ニテ追々差出シ來リシ處此程ヨリ上告ノ當日書類悉皆差出サレハ總テ採用セサルコト定リシ由

鐵道會社 鐵道會社ノ允許セラレテヨリ追々着手スルニ付東北ノ諸縣廳ニテハ鐵道事務掛ノ一課ヲ置キンノ事ヲ管理スル由

商個親睦 一昨日兩國中村樓ニ於テノ商業大親睦會ハ會ス

位 植村正直撰  
內務卿正四位勳  
二等松方正義纂  
額○諮問會開設  
(七日) 司法卿班  
示使丁規則○天  
皇御日比谷操練  
場觀近衛諸隊檢  
閱式○特旨從四  
位德川昭武進叙  
從三位○司法省  
置海上裁判取調  
掛

ル者二百余名ニテ席上ノ演說等盛ニシテ自カラ他ノ會ト異ナリ中ニハ半髪ノ人モアリテ頗ル盛會ナリシ以後ハ每年春秋二度ツ、開ツト云フ

農商務省 農務局ヨリ各府縣へ照會ニテ桑茶烟草畑ノ反別並ニ産額等ヲ取調ヘラル、由

卅日 水曜日 曇 舊九日 正午寒暖計五十度  
內務會議 前內務卿ノ時ニ取調ヘラレタル地方稅規則備荒貯蓄法府縣會規則等ノ改正案成タルヲ以テ來月一日二日ノ中ニ地方長次官ノ參集ス可キコト付內務省ニテハ昨日會議ヲ開カレタリ而シテ爾來ハ地方官會議ヲ止メテ唯事アル時ニノミソノ長次官ヲ招集シ內務卿ヨリ諮問セラル、ノミコナル由

太政官費 先頃內閣ノ組織ヲ更改セラレシコト付太政官ノ經費ハ豫算ヨリ増加シテ一ケ年金五方圓餘ナリトソ

妙哉流行 京都府下小川通今出川下ル東今町ナル岩倉具視公ノ別邸ト東京府下神田區今川小路櫻井能監氏ノ邸トナ東西ノ本局トシ大坂及諸縣下ニ支局ヲ設ケ保勝會ト云フヲ創設セラル、由是レハ三條岩倉ノ二公ヲ始メ貴顯ノ方々ニテ博ク有志ノ協賛ヲ得テ著名ノ祠宇殿閣名勝舊址及ヒ有名ノ古物等ヲ永遠ニ保存スル目的ナル由



〔八日〕布告、褒章條例司法卿出示、府縣所屬代官人規則、○華族部長局頒布、後見人條例并後見人監察者條例

〔九日〕陸軍省改正、陸軍教導團定員表、○天皇行幸、新宿植物苑、觀鳥

〔十日〕警視廳東

十二月一日 水曜日 晴 舊十日 正午寒暖計五十三度  
官民訴訟 群馬縣高崎ノ人民カ縣廳位置ノコト付縣令ヲ相  
手取り東京上等裁判所ニ告訴セシコトハ已ニ人ノ知ル處ナル  
ガ昨日始メテ對審ヲ開カレ縣令代土屋重雄人民惣代伊賀我  
何トモ各書面ヲ出シ來ル六日ニハ又々對審ヲ開カルトノ  
牛馬會社 千葉縣安房國匝差郡平塚村ノ山井與三左工門外  
七名ガ發起ニテ資本一萬圓ヲ募リ牛馬會社ヲ設立セント己  
ニ九千五百圓ヲ得シカバ其筋ヨリ洋種ノ牛馬ヲ拜借致度旨  
ヲ出願セシト

東洋魯連 日本政府脫管届ヲ差出シタル茨城縣茨城郡水戸  
ニ寄留スル高知縣平民宮地茂平ハ違制ノ重ニ問ヒ懲役百日  
申付ケテラレタリ

二日 金曜日 晴 舊十一日 正午寒暖計六十度  
官位剝奪 兼テ賄賂ノコトヨリ拘置セラレタル判事井上徳太  
郎氏ハ一昨三十日口供摺印濟ニテ官位剝奪ノ儀ヲ上申ナリ  
シト云フ

海上保險 屢朝船龍王丸ガ南部尻矢崎ニテ暗礁ニ乗上ケ終  
ニ沈没セシガ該船ニカ東京海上保險會社ノ保險付キノ荷物  
多ケレバ全會社ハ直ニ函館代理店ニテ受合ヒシ荷物ノ金高  
ヲ照査シ速ニ辨償スル由斯クテコソ商人モ貴重ノ資本ヲ安

京府出示、小形旅客瀛船取締規則

〔十一日〕天皇行幸、三田育種場、觀競馬

〔十二日〕光格天皇祭典、皇族大臣參議參朝、此日停刑事、宣告

〔十三日〕內務省賜、淺草觀音堂修繕費百圓

〔十四日〕定各裁

全ニ使用スルコトヲ得ベシ  
縣會紛議 兵庫縣下板路ニ置縣シテ分離セントノ理由ハ地  
理人情ノ同一ナラサルヨリ論紛百出シ本年ノ如キハ縣會ノ  
閉チサルモノ已ニ半年ノ長キコト及ヒシハ是レ議員ノ罪コト  
ニアラズ或ハ組織其宜ヲ失ヒタルノ致ス所ナルベシトテ分  
離論ハ益洩騰シ右ノ建議ヲ奉呈スル爲メ委員ガ不日ニ出京  
スルト云フ

三日 土曜日 淡曇 舊十二日 正午寒暖計四十九度  
黨派被罰 自由黨幹事林包明大石正己內藤魯一外二名ガ去  
ル二十日東京上等裁判所ニ於テ自由黨盟約第二章ニ掲載ス  
ル所ノ主義ニ於テハ到底政事ニ關スル事項ヲ相論議スルモ  
ノナレハ如此黨派ヲ結フハ其筋ニ届ケ出テベキモノナル  
ニ届ケ出サルノ罪ニテ罰金二圓申付ラル然ルコト一昨日全裁  
判所檢事ヨリ其裁判ヲ不當ト認メ上告ナリタリ

瓦中之玉 華族從五位芝亭實忠君ハ淺草北三筋町ノ産漆會  
社長ニテ民權主張ノ一慷慨家ナルガ此程西園寺公望君ガ議  
官補ニ拜命セラレタルニ付西園寺ガ民權主義ノ人傑且名望  
家ナルニ委任ノ官ニ甘シ貴重ナル主義ヲ拋棄スルトハ一向  
分ラヌトテ過激ナル書ヲ同君ニ贈ラレタリ

勸農義社 大日本勸農義社ハ去月マテニ社員ノ總數一萬六



千二百〇一人ナリト

判所印章方尺〇  
 農商務權大書記  
 官奈瓦原繁福島  
 縣下猪苗代湖疏  
 水事業有功賜錦  
 一卷  
 (十五日) 農商務  
 省頒布上等會議  
 議案取調例規

四日 日曜日 曇 舊十三日 正午寒暖計四十八度  
 朝鮮演武 朝鮮コテハ軍制ヲ改革シ我陸軍ノ式ヲ採リテ研  
 究スルコト決シ我國ヨリ其教師ヲ備ヒ入レント目今照會中  
 ナリ  
 水産諮問 去月廿八日ヨリ三日ノ間千葉縣ノ議事場ニ於テ  
 水産物ノ諮問會ヲ開カレ會頭ハ農商課長ニテ管内ノ漁業者  
 及ヒ篤志ノ士若干名東京ヨリハ農商務省ノ關澤明盛君等來  
 場アリテ頗ル盛會ナリシト  
 戶籍改正 來十五年一月ヨリ其筋ニ於テ細密ニ現在籍ヲ取  
 調ヘラル、趣ニテ此程内務省中ニ統記掛ト云フヲ設ケラレ  
 先ツ東京府下ヲ始メトセラル、由追テ戶籍改正法ノ會議ヲ  
 開カ、ル、ト云フ

(十六日) 布告商  
 船内犯罪取扱規  
 則  
 (十七日) 警視廳

五日 月曜日 晴 舊十四日 正午寒暖計五十八度  
 諮問會開 地方官諮問會ハ明六日ヨリ開會セラレ  
 黨派分離 紫漢會ヨリ分離シタル諸氏ガ更ニ自由主義ノ政  
 黨ヲ團結セントテ去ル廿三日ヨリ三日間相議シ立憲自由黨  
 ト云ヘル一黨ヲ結合シタル由其綱領ハ第一皇室ヲ奉戴シ立  
 憲ノ政体ヲ贊立ス第二吾人ノ自由ヲ伸暢シ以テ國權ヲ擴張

東京府廳出シ示人  
 力車組合規則〇  
 定皇居正門開扉  
 〇青山御所申樂  
 天皇并皇后臨御  
 皇族大臣參議及ヒ  
 滯京地方長官陪  
 焉  
 (十九日) 布告刑  
 法附則  
 (廿日) 官國幣社  
 設置神道小教院  
 改稱大教支院〇

ス第三社會ヲ改良シ各自ノ幸福ヲ増進ス  
 基督教會 現今我國ノ基督教會ハ九十一信徒四千余人日本  
 教師三十余人ナリト  
 山梨縣會 全會ノ一時休會ナリシハ土木費八万圓ヨリ起リ  
 シ者コテ殊ニ本年ハ四十八号ノ布告ト物價騰貴トノ爲メニ  
 昨年度ニ比スレハ殆ト一倍ニモナリ戶數割ノ如キ一戸一圓  
 位ニ當レハ民力ニ支ヘ難シ去リテ土木費ノ如キハ一日モ  
 怠ル議ニモナラズ依テ議事ヲ中止シ中央政府ヘ哀願セント  
 ノ論盛ナリシカバ藤村君モ自カラ番外ノ席ニ就キ縣廳ニ於  
 テハ元ヨリ苦慮スル所ナレハ是々ノ補助ヲ乞フトノ哀願ニ  
 非サレハ其法ヲ得サルナル可シト説明アリタルハ議會モ其  
 理ニ服シ哀願スルコト決シ八万余圓中十分ノ三チ人民ニテ  
 負擔スルコト決シ遂ニ一時休會ニナリタリト  
 勸農議會 兵庫縣ニテハ本月中旬ヨリ管下ノ農事通信委員  
 ナ各郡ヨリ三八ツ、集メ勸農會ヲ開カル、由  
 六日 火曜日 晴 舊十五日 正午寒暖計五十九度  
 海外伸商 倫敦商法會議所ノ會頭タルベイン氏ハ東洋ノ商  
 況視察ノ爲メ去月廿七日ニ上海ヨリ神戸へ着シ夫ヨリ大坂  
 へ赴キ全府下ノ豪商廿余名ヲ招キテ響應セラレタリ之ヨリ  
 陸路東京へ來ル由



遠江國濱名橋落  
成

〔廿一日〕警視廳

東京府廳出示馬

車取締規則○陸

軍卿班示陸軍武

官休暇規則

〔廿二日〕去十三

日西京東福寺炎

上什器光典司畫

追警釋迦像爲鳥

有○宮內省班示

明治十五年新年

七日 水曜日 晴 舊十六日 正午寒暖計五十三度

海上裁判 司法省中ニ海上裁判取調所ヲ設ケラル

鳥取有志 此頃鳥取ノ有志者ガ大懇親ヲ開キシハ實ニ盛ナ

リシカ又有志者ノ企テ縣令少書記官ヲ招キ全地ノ共立學

舎ニ於テ官民親睦會ヲ開キ總員凡ソ百五六十名ノ來會ナリ

シト

例ノ小西 例ノ小西其之介氏ハ全志ト申合セ國會開設ノ歲

期短縮ノ請願ヲ爲サントテ去月廿七日付ニテ郡長兵長ヘ届

出タルソノ書ハ私儀今般同志申合國會御開設ノ歲期短縮之

儀ニ付請願仕度有ハ固ヨリ忠情ノ止ム可カラサルニ出テ候

儀ニテ決シテ躁急ヲ争ヒ事變ヲ煽動スルガ如キ類ニハ毛頭

無之候得共御勅諭ノ趣モ有之ニ付爲念一應御届申置候間若

シ不相成儀ニモ有之候ハ、ソノ理由至急御示達被下度候此

段御届仕候也

八日 木曜日 晴 舊十七日 正午寒暖計五十五度

置監査掛 去ル五日大藏省中へ大日本鐵道會社監査掛ヲ設

置セラル平山大藏少書記官カ右掛長ナリト云フ

議事始開 地方官諮問會ハ昨日ヨリ議事ヲ開カレ府知事縣

令及ヒ代理ノ書記官等前九時着席山田内務卿土方内務大輔

ハ正副議長ノ席ニ着カレ白根近藤ノ書記官ハ説明委員トナ

リ

第一号府縣會規則ノ改正案ヨリ議事ニ取掛ラレタリ右傍

聽トシテ安場渡邊山尾ノ參事院議官西村内務權大書記官等

ノ臨席アリタリ當會議ハ秘密ナルヲ以テ縣令書記官ノ外ハ

掛リ吏員トモ安リニ入場スルヲ禁セラレタル由

板垣退介 或ル能辯ノ聞アル某カ板垣退助君ヲ訪ヒ自由黨

總理ノ任ニ在テハ定メテ心配モ多カラシ故此任ハ速カニ解

カル、ガ上分別ナラント例ノ能辯ニテ喋々シタルニ同君ハ

余ハ政治上ノ事ニ付盡力スルハ毫モ辭セサル所况ンヤ心配

杯ノヲニ於テチヤト言ハレタルニ流石ノ能辯家モスゴク返

リタル由

九日 金曜日 曇 舊十八日 正午寒暖計五十度

仙洞御所 皇居モ彌御造營ナルニ付西京住居ノ皇族方モ退

々東上セラル、ヲ以テ西京御所ハ總テ仙洞御所ト御改稱ナ

リテ御保存相成ル趣

殿山砲台 品川御殿山へ設ケラル、砲臺ハ築造費ノ豫算金

二十二万圓ニテ据付ケラル、砲門ハ大坂ノ砲兵工廠ニテ鑄

造セシメラル、由

十日 土曜日 晴 舊十九日 正午寒暖計四十八度

參内賜拜 地方官諮問會ハ昨日午前十一時散會ニテ山田内務

卿

式

〔廿三日〕太政官

廣ニ大小舍人ヲ大舍

人任ニ九等屬ニ命シ官

中取締ヲ小舍人ヲ改

稱給仕

〔廿四日〕天皇行

幸陸軍士官學校

觀卒業生徒證書

授與式賜勅語式

畢還幸

〔廿五日〕特旨黃

葉宗第二世木庵

日 乘



證<sub>ニ</sub>慧明國師<sub>ト</sub>事在<sub>リ</sub>  
 廿三日<sub>ニ</sub>  
 〔廿六日〕天皇行幸內藤新宿植物苑<sub>ニ</sub>觀<sub>ニ</sub>鳥獵<sub>ヲ</sub>午後五時還幸  
 〔廿八日〕皇族大臣參議參朝奏<sub>ニ</sub>歲暮<sub>ヲ</sub>啓<sub>ヲ</sub>賜<sub>ニ</sub>酒餼<sub>ヲ</sub>  
 〔二月四日〕政始天皇參拜賢所<sub>ニ</sub>式畢臨<sub>ニ</sub>幸太政官<sub>ニ</sub>太政大臣三條實美

卿士方內務大輔及ヒ各府知事縣令<sub>ト</sub>モ宮內省へ參內ナリタ  
 紙幣燒却 一昨日印刷局<sub>ニ</sub>テ燒却<sub>ノ</sub>紙幣ハ八十三万二千二百五十六枚此金六十九万五千八百五十三圓ナリト  
 物産改良 京都西陣ノ織物ハ全所名産中ノ第一ナルガ退々疎惡<sub>ニ</sub>流<sub>レ</sub>却<sub>テ</sub>他物<sub>ニ</sub>一步<sub>ヲ</sub>讓<sub>ル</sub>程ナリトテ今度掛冠<sub>シ</sub>テ歸郷<sub>セ</sub>ラレタル河瀬秀治君ガ府知事ト謀<sub>リ</sub>十五年<sub>ニ</sub>西陣織共進會<sub>ヲ</sub>創立<sub>シ</sub>退々改良<sub>スル</sub>目的ナル由  
 鐵道會社 全會社ノ定款モ己<sub>ニ</sub>議決<sub>シ</sub>タルヲ以<sub>テ</sub>去<sub>ル</sub>六日午後二時頃ヨリ役員ノ撰舉會<sub>ヲ</sub>開キ將<sub>ニ</sub>開票<sub>セント</sub>スル<sub>ニ</sub>際<sub>シ</sub>テ此日ノ假議長林友幸氏ハ衆員<sub>ニ</sub>告<sub>ケ</sub>テ曰<sub>ク</sub>此度我大政府ハ東京橫濱間ノ鐵道<sub>ヲ</sub>拂下<sub>ケ</sub>其價金<sub>ヲ</sub>以<sub>テ</sub>東北鐵道ノ第一區即チ東京高崎間ノ鐵道<sub>ヲ</sub>建築<sub>シ</sub>落成<sub>ノ</sub>上<sub>ニ</sub>テ人民<sub>ニ</sub>拂下<sub>ケ</sub>而<sub>シ</sub>テ第二區ヨリ第五區<sub>ニ</sub>至<sub>ル</sub>ノ鐵道<sub>ヲ</sub>順次<sub>ニ</sub>築造<sub>シ</sub>テハ拂下<sub>ケ</sub>終<sub>ニ</sub>悉<sub>ク</sub>皆人民<sub>ノ</sub>有<sub>ニ</sub>歸<sub>セ</sub>シム<sub>ルト</sub>ノ評議一決<sub>シ</sub>タル趣<sub>ヲ</sub>只今議官中村弘毅君ヨリ告<sub>ケ</sub>ラレタリ然<sub>ラ</sub>ハ是<sub>マ</sub>テ議決<sub>セ</sub>シ<sub>テ</sub>モ役員ノ撰舉<sub>モ</sub>無効無益<sub>ニ</sub>屬<sub>シ</sub>タリト陳<sub>ヘ</sub>ラレ<sub>レ</sub>レバ衆員ハ餘<sub>リ</sub>ノ意外<sub>ニ</sub>異議<sub>モ</sub>出<sub>デ</sub>ズ併<sub>シ</sub>一旦役員<sub>ヲ</sub>投票<sub>シ</sub>タルモノナレド兎<sub>モ</sub>角<sub>モ</sub>開票<sub>ハ</sub>シタル由ナルガ株主<sub>ノ</sub>中<sub>ニ</sub>ハ始<sub>メ</sub>ノ大旨<sub>ニ</sub>反<sub>ス</sub>ル<sub>ヲ</sub>論<sub>ジ</sub>翌七日<sub>ニ</sub>埼玉縣<sub>ノ</sub>

奏<sub>上</sub>本年神宮月次條<sub>ノ</sub>事<sub>ニ</sub>神道事務總裁有栖川職仁親王陪<sub>之</sub>之<sub>ニ</sub>〇攝州有馬郡三田町柳生政光祖父五右衛門本年百四十七歲猶<sub>ニ</sub>嬰<sub>ニ</sub>鑠<sub>ト</sub>云  
 〔五日〕元始祭執  
 行  
 〔六日〕制定治安裁判所及<sub>ヒ</sub>始審裁判所權限<sub>ヲ</sub>〇昨新

栗原田町峯岸ノ三氏ハ退社狀<sub>ヲ</sub>差出<sub>シ</sub>タリ  
 十一日 日曜日 晴 舊二十日 正午寒暖計四十九度  
 政事納宴 來廿八日ハ政事納<sub>ニ</sub>付本年執政ノ慰勞<sub>ト</sub>シテ大臣參議方へ宮中<sub>ニ</sub>テ酒饗<sub>ヲ</sub>賜<sub>ル</sub>ト云フ  
 酒屋<sub>ノ</sub>議 東京南鍛冶町<sub>ニ</sub>止宿<sub>スル</sub>高知縣人小嶋稔<sub>ハ</sub>彼<sub>ノ</sub>全<sub>國</sub>酒屋會議<sub>ノ</sub>趣意書<sub>ヲ</sub>印刷<sub>ニ</sub>付<sub>シ</sub>二三ノ知友<sub>ニ</sub>頒<sub>タ</sub>レ<sub>シ</sub>テ極事<sub>ヨリ</sub>告<sub>發</sub>ニナ<sub>リ</sub>去<sub>ル</sub>八日刑事課<sub>ニ</sub>テ取調<sub>ノ</sub>上<sub>己</sub>ニ口供<sub>ヲ</sub>供<sub>ス</sub>ニナ<sub>リ</sub>シト  
 士官學校 陸軍士官學校ノ士官生徒ハ改正條例<sub>ニ</sub>依<sub>テ</sub>學術<sub>ニ</sub>等品行方正<sub>ニ</sub>シ<sub>テ</sub>才幹<sub>アル</sub>者<sub>ヲ</sub>選拔<sub>シ</sub>去<sub>ル</sub>九月<sub>ニ</sub>伍長勤務<sub>ヲ</sub>命<sub>ゼ</sub>ラ<sub>レ</sub>シ者<sub>十</sub>余名<sub>アリ</sub>シガ去<sub>ル</sub>九月<sub>ニ</sub>更<sub>ニ</sub>軍曹勤務<sub>ニ</sub>進<sub>メ</sub>ラ<sub>レ</sub>タ<sub>リ</sub>此下士ノ職<sub>ニ</sub>就<sub>ク</sub>ハ今年<sub>ヨリ</sub>始<sub>マリ</sub>シ者<sub>コ</sub>シ<sub>テ</sub>佛國士官學校<sub>ニ</sub>テモ下士ノ職<sub>ヲ</sub>奉<sub>ゼ</sub>シ生徒ハ終身<sub>ノ</sub>名譽<sub>ト</sub>ナ<sub>リ</sub>ト云<sub>ヘ</sub>リ  
 十二日 月曜日 晴 舊一日 正午寒暖計四十七度  
 鴨狩御遊 去<sub>ル</sub>九日內藤新宿植物御苑<sub>ニ</sub>テ御遊獵<sub>ノ</sub>御摸樣ハ聖上ハ御軍服<sub>ニ</sub>テ奉<sub>ニ</sub>有<sub>栖</sub>川東<sub>見</sub>北<sub>白</sub>川<sub>ノ</sub>三親王及ヒ岩倉<sub>ハ</sub>大臣米川侍從等<sub>ニ</sub>テ御獵場外<sub>ニ</sub>設<sub>ケ</sub>タル便殿<sub>ニ</sub>於<sub>テ</sub>御休憩<sub>ノ</sub>後鷹<sub>近</sub>足袋<sub>ヲ</sub>召<sub>サ</sub>レ<sub>シ</sub>御獵場<sub>ニ</sub>二十二万坪<sub>ノ</sub>圓形<sub>コ</sub>テ中央<sub>ニ</sub>三千坪<sub>ノ</sub>圓池<sub>ヲ</sub>鑿<sub>キ</sub>池<sub>中</sub>ニ鳥<sub>ヲ</sub>殘<sub>シ</sub>テ水<sub>鳥</sub>ノ遊戯<sub>所</sub>トシ圓池<sub>ヨリ</sub>四方<sub>ハ</sub>數十條<sub>ノ</sub>支流<sub>ヲ</sub>堀<sub>リ</sub>番号<sub>ヲ</sub>

日 乘



年宴會天皇并皇  
后臨御小御所皇  
族大臣參議及夫  
人參朝拜賀賜酒  
餼

〔七日〕 聞置神祇  
省○陸軍始○陸  
軍步兵伍長小原  
彌惣八有罪處禁  
獄一年先是彌惣  
八憂國事上書割  
腹不死爲陸軍裁  
判所所審糾至是

付シ左右ニ人ヲ隱ス可キ土手ヲ築キソノ極ル所ニ丘ヲ築キ  
樹木ヲ植エ鳥見所トナス外園ニハ合園ノ電信ヲ架ス池中ニ  
雁鴨ノ群ルヲ見テ餌ヲアセル爲メ支流ニ入ルノ多少ヲ謀リ  
電信ニテ便殿ニ通スルヤ否 聖上ニモ挾手綱ヲ執リ玉ヒテ  
土手ノ下ニ埋伏シ驚キ翔ケル雁鴨ヲ之ニテスレヒ捕ルヲナ  
リシガ此日ハ二百五六十羽モ獲サセテ午後六時頃還幸遊  
ハサレシト

醫員會同 一昨十日ノ夜向柳原ノ柳北學校ニテ弘醫會ノ講  
談アリ東京大學醫學部ノ諸先生并生徒府下各區々醫開業醫  
等凡ソ百六ヒ合ハトリシト

十三日 火曜日 細雨 舊廿二日 正午寒暖計五十一度  
挽夫規則 今度人力車夫ノ規則ヲ改正セラレシニ付新規鑑  
札ハ本廳ニ於テ製セラレ各警察署ヘ配布サレ其ヨリ本人ヘ  
渡サル、由ナルガ目下府下ノ車數ハ三万餘輛ニシテ鑑札ノ  
代價ハ金五百圓程ニ及ブト云フ

月照法師 幕府ノ末路ニ方リ慷慨悲憤遂ニ逮捕ノ爲メニ身  
ヲ措ク所ナク故西郷隆盛ニ從ヒ西海ノ濠屑トナラレシ月照  
法師ノ舊庵址ヲ新築シソノ上ヘ勅額ヲ願ハントテ昨今西京  
ノ有志者ガ奔走スル由之レハ貴顯ヨリモ遅々寄付金モアル  
ト云フ

十四日 水曜日 曇 舊廿三日 正午寒暖計五十度

有ニ此刑

〔八日〕 山形縣下  
羽前國最上郡南  
山村信太歌之介  
建議北京建設

〔九日〕 元老院開  
院式天皇親臨宮  
內卿德大寺實則  
以下陪之皇族大  
臣參議各省長次  
官奉迎天皇御玉  
坐有勅語曰朕茲  
親臨行開院之典

自由新聞 關西自由黨ノ新聞ハ日本立憲政黨新聞ト題シ板  
垣退助君ガ社長中島信行君ガ幹事ニタイヨ々々來年一月四  
日ヨリ發兌サル、由ニテ諸府縣ニ分社並ニ通信者ヲ置キ又  
大坂日報ハ持主カ替リ是マテ同社ニ從事セシ諸員ハ殘ラヌ  
政黨新聞ニ入社スルト云フ

燕趙之士 自由黨ノ一入ナル北海道室蘭ノ本多新氏ハ此程  
歸路ノ折柄函館ニテ山本忠禮氏ニ會シ開拓使官有物處分ニ  
付其時ノ景況ヲ尋テタルニ同氏ハ慨然トシテ當時ノ事ヲ談  
シ且本多氏ヨリ自由黨組織ノ大意ヲ陳述セシニ山本氏モ全  
志ト共ニ盟約書ヲ本部ニ送リタリ

十五日 木曜日 晴 舊廿四日 正午寒暖 四十八度  
細張檢査 二三日前工部大少輔其他皇居造營掛ノ方々ガ皇  
居建築繪圖ヲ以テ實地ニ引合セ繩張リノ檢査アリタリ  
詮議次第 來十五年一月ニ廢セラレ同キ開拓使ハ又々御詮  
議ノ次第アリテ尙三ヶ年間延期セラル、杯ノ風説アリ  
山林治水 茨城縣ハ本年ノ縣會ニ於テ山林治水ノ事ヨリ南  
北ノ二黨ニ分カレ何事ニ係ハラズ議事自カラ騒ガシカリシ  
カ南部黨〔新治外十郡〕ハ去ル十一月ニ新治郡土浦町ノ日新  
樓ニ集會シ衆議ノ上南北地勢民情ノ殊異ナルヲ以テ分縣セ  
ラレ度ヲ請願セシト云フニ一決シテ委員ヲモ撰舉シタリ

日 乘



望下汝衆議官等能  
 休<sub>ラ</sub>朕ノ意<sub>ヲ</sub>尙益<sub>ス</sub>勉<sub>ム</sub>勵<sub>ス</sub>上  
 式畢<sub>テ</sub>還幸  
 「十日」陸軍中將  
 兼參議開拓長官  
 黑田清隆罷<sub>シ</sub>陸軍  
 中將兼參議農商  
 務卿議定官西鄉  
 從道代<sub>レ</sub>之兼官如  
 故○正四位黑田  
 清隆拜<sub>シ</sub>內閣顧問  
 「十一日」內務省  
 賜<sub>シ</sub>山城國宇治平

ト云フ  
 十六日 金曜日 曇 舊廿五日 正午寒暖計四十二度  
 暫不保證 巷説百出何レヲ信ト認定シ難シト雖也暫ラク開  
 シ所ヲ記ス曰ク地方官ノ諮問會了リ一昨日相談會ヲ開カレ  
 タル趣キナルガ此會ハ頗ブル秘密ニシテ洩漏ヲ得ザレハ或  
 ハ官權黨團結ノ事ト地方ノ自由黨ニ對スル策略等ノ事ヲ密  
 議サレシ也ト  
 歸國旅費 海軍省ニ於テハ自今外國人雇入ノ時ハ歸國旅費  
 ナ百弗ヨリ百五十弗ノ間ヲ給スベキ様制限ヲ立ラレタリト  
 云フ  
 十七日 土曜日 雪 舊廿六日 正午寒暖計三十二度  
 國旗廢止 警視廳并ニ各警察署ハ從來ノ祝日ト一月ニ用ユ  
 ル國旗ト松飾ヲ廢セラレタリ蓋シ節儉御主意ニ據ラレシナ  
 ラン  
 皇居正門 同正門ハ日々開扉サレシガ自今大祭日及ヒ公卿  
 參内ノ時限ヲ除<sub>ク</sub>外ハ閉扉ヲラレ、事ニ定ラレタリ  
 十八日 日曜日 晴 舊廿七日 正午寒暖計四十一度  
 皇城出火 昨午後五時四十分ニ皇城內禁埒ナル田舎御茶屋  
 ヨリ出火シテ傍ヲノ物置トモ祝融氏ノ暴虐ニ罹リタリ

等院 鳳凰堂保存  
 費金千圓  
 「十二日」自福島  
 縣下白河驛至同  
 縣下若松電信架  
 設成  
 「自十三日至十五  
 日」無<sub>レ</sub>記事

十九日 月曜日 晴 舊廿八日 正午寒暖計四十一度  
 鐵道會社 同社ハ遂ニ京濱間ノ鐵道ヲ買入ル、ニ針路ヲ向  
 ケクレバ株主中ニ於テ喜悅スル者モ有ルヨシナルガ總体ニ  
 於テハ苦情ヲ鳴<sub>ク</sub>者多シト云フ  
 新聞改革 蕪洋才義ヲ以テ世ニ目視セラレタル東京日々新  
 聞ハ今回愈ヨ腰ガ抜ケ某村ヲ世ノ所謂紳士豪商ニ賣リ渡シ  
 長州新聞ト化ケ來リ曙新聞ハつゞれカ、ラントシグハガ之  
 レモ十州ノ姑息黨ノ買フ所ト爲リマツケ々蘇生シタリ  
 廿日 火曜日 晴 舊廿九日 正午寒暖計三十九度  
 地方分權 中央集權ノ制ヲ漸次ニ改メラル、トハ夙ニ聞處  
 ナルガ今著説ニ據ルニ明年ヲ以テ地方分權ノ制ヲ立ラレベ  
 ク解テ地方官ニモ多少ノ黜陟アルベシト云フ  
 各有資格 三重縣會議員川尻政次氏ハ嫌疑ニ依リテ當時安  
 濃津支廳ヘ拘引入檻、處保釋トナリシガ此頃臨時縣會、開カル、達シニ付政次氏ヨリ  
 保釋中ナレモ現ニ議員ノ職ニアルハ其資格ヲ以テ議場ヘ出頭スルモ差支ヘナキヲ伺ヒ  
 シニ縣廳ニ於テ「得而伺、趣キ當廳ニ於テ指令ノ限リニ無<sub>レ</sub>之候事」ト指令アリケレバ更  
 ニ同氏ノ親族兩名ヨリ裁判所ヘ左ノ伺書ヲ呈シタリト  
 保釋人臨時縣會ヘ出頭ノ義ニ付伺 一志郡川口村 川尻 政次  
 右ノ者犯罪有之趣ニテ入檻相成居候處私共親戚ノ義ニ付保釋御届御願申上候處本年九  
 月三日御届ニ於テ保釋御届極ク破成下候同人儀ハ縣會議員ノ職ヲ負ヒタルニ付地方官

日 乘



ヨリ明十四日廳下へ參着候様別紙寫ノ通り召集狀到着仕候同人儀地方長官ノ命令ニ應  
テ縣會議場へ出席仕候テモ不苦儀ニ候哉尤御祈御用之節ハ私ニ召連出頭可仕候此段奉  
伺候以上

指令 伺之趣差調無之候條當地ニ仮住所ヲ定メ可届出候事

廿一日 水曜日 晴 舊十一月一日 正午寒暖計四十四度

不知原因 横濱ノ流説ニ曰ク支那北京ニテ故琉球人ノ同地ニ滞在スル者切迫ナル建言  
シ一人ハ割腹シ一人ハ絶食シテ死セリ右ハ日支ノ交際ニ關スル事件ナラン總理衙門ハ  
厚ク其人ヲ哀憐シ朝臣ノ禮ヲ以テ之ヲ葬ムレリ又日本駐劄ノ支那公使ハ十一月三日ヲ  
以テ發程スベキ處俄カニ之ヲ止メラレシ由然ラバ面倒ナル事件ノ生ヒンモ知ル可ラズ  
云々ト

米納稅論 此程參事院ニ於テ米納稅論ノ議ガ起リシヤニ聞シガ如何決スルヤ余輩ハ他  
マデ之ヲ賛成セント欲ス

廿二日 木曜日 曇 舊二日 正午寒暖計三十五度

人權有別 獨乙人某ハ英人某ヲ代言トシ大藏省ヲ被告トシ上等裁判所へ出訴ニ及ヒシ  
ガ其代言人ハ馬車ニテ立關マテ駈込ニハ門衛ナドハ甚タ迷惑ナルト云フ夫レ英人モ  
人ナリ吾モ人ナリ若シ余輩ガ英人ノ所爲ヲ學バ、門衛ノ余輩ニ遇スルニ迷惑ノ文字ヲ  
以テスルカ嗚呼共ニ横目ノ民ニシテ其權ノ差アル此ノ如シ燕趙悲歌ノ徒ノ輩出シ〇〇ニ  
向テ嗷々スル豈ニ之ヲ過激ト爲サンヤ

廿三日 金曜日 雪 舊三日 正午寒暖計三十六度

常置人員 參事院并ニ同院六部へ書記生ヲ置レタルガ其人員ハ參事院ニ十名内務部ニ

十一名法制部ニ十四名財政部ニ十一名司法部ニ十三名軍事部ニ十名外務部ハ軍務部書  
記生之ヲ兼ルト

離縁公許 夫婦ノ中ニテ其家貧シ或ハ他ニ事故アリテ夫タル者無情ニモ妻ヲ捨テ逃  
亡シ其後更ラニ音信ナキヨリ其妻ハ目前ノ生活ニ困シ他ニ再縁ヲ求メントスル時ハ  
如何取計可申哉ト大坂南區役所ヨリ同府廳へ伺出シニ書面ノ趣々無情ニシテ家出スル  
者ニ限リ十ヶ月ヲ經テ開届ケ可申ト指令アリシト云フ

廿四日 土曜日 晴 舊四日 正午寒暖計三十四度

枉法判事 賄賂ヲ貪ホリ良民ヲ枉法ノ下ニ困シメントシタル判事井上徳太郎ハ遂ニ情  
法ヲ酌量シ本罪ニ二等ヲ減シ禁獄七年ニ處セラレタリ

廿五日 日曜日 晴 舊五日 正午寒暖計三十九度

古風保存 近來各神社ニテ往々洋風ニ摸シベんニ塗等ノ殿閣ヲ造營スル向モアリ右社  
殿ノ如キハ古風ヲ存シ置クベキ事ニ付自後ベんニ塗等ニ致サハル様京阪ノ神社神官ニ  
達セラレタリト

廿六日 月曜日 雨 舊六日 正午寒暖計三十六度

無記事 月曜日 雨 舊六日 正午寒暖計三十六度



廿七日 火曜日 晴 舊七日 正午寒暖計五十一度  
古老中將 海軍ノ將官ハ追々増員ニ以テ中將ノ内古老ノ方ニテ卿或ハ大輔其次ハ東  
海鎮守府司令長官又ハ造船所長ヲ兼務ナルノ事ニ内決シト云フ

廿八日 水曜日 曇 舊八日 正午寒暖計三十八度  
記者被罰 開拓使ヨリ該一條ニ關シタル論說ヲ揭ケシ新聞社ノ編輯長ノ被罰トシテ訴  
訟ニ及ビシ件ハ此程落着ニ及ビタリ乃チ報知新聞ガ金五十五圓ノ處ニ罪俱發ニテ無罪  
朝野新聞ガ五十圓毎日新聞ガ同日々新聞ガ三十圓ノ處ニ罪俱發ニテ無罪朝野新聞ガ  
二件ニテ同毎日新聞ガ二件ニテ二十五圓朝野新聞ガ金廿五圓ノ處ニ罪俱發ニテ無罪扶桑  
新聞ガ禁獄二十日罰金五十圓

廿九日 本年モ既ニ年末ニ迫リ慶事自カラ冗雜都鄙ノ情況ヲ探訪スルニ由リシ乃チ筆  
ヲ茲ニ收メテ尙來年ヲ待テ仔細ニ報ヒント欲ス看官請諒焉  
一月一日 日曜日 晴 舊十二日 正午寒暖計四十四度  
風曆新チ頒チ明治十五年ノ森又四ル 聖恩浩蕩都鄙雲霖雨ノ中ニ鼓腹ス人文ノ進政  
度ノ遷年一年ヨリ急ナリ此際ニ方テ仔細ニ都鄙ノ事情ヲ報ヒント欲スル儘陳說ヲ免カ  
ソズ爲メニ看官ガ愛恩ニ孤クナシトセヨ今年ヨリ是ニ一層ノ勵勉ヲ尽クシ記事ヲ綴密  
コシ以テ愛顧ニ答ヘンコト庶幾ヒハ看官舊ニ依テ寵顧ヲラントテ請フ

二日 月曜日 晴 舊十一日 正午寒暖計四十五度  
新年拜賀昨日新年拜賀ノ御模様ハ例ノ如クナリシガ勅任官方々ノ夫人ニハ昨年マデ  
ハ服制モ十分ナラズシテ參内ノ向モ稀ナリシガ今年ハ十ノ八九御夫婦ニテ參内アリシ  
同日 火曜日 晴 舊十四日 正午寒暖計四十五度  
辨士被罰 演說ノ乘輿ヲ侵カセシトテ讒謗律ニ照サレ禁獄三年罰金九百圓ニ處セラレ  
タル静岡東海曉鐘新報ノ社主前島豊太郎氏ハ其裁判ヲ不當ナリトシテ上告セン處千二  
百圓ノ保釋金ニテ親類預ニナリシト  
希有ノ高齡 攝州有馬郡三田町ノ柳生政光ノ祖父五右衛門ハ百三十九歳ナレモ未タ杖  
ヲ用キズ用向アレバ一人ニテ神戶迄モ出掛ル由メノ容貌ハ六十餘リニ見受ケラルト

四日 水曜日 晴 舊十五日 正午寒暖計四十五度  
政事始 聖上ニハ前九時賢所御參拜夫ヨリ太政官へ臨幸三條太政大臣ヨリ本年中神官  
月次祭ノ事ヲ奏上セラレシ今年ヨリ神道事務總裁有栖川親王ニモ臨席セラレシト  
郡長免職 茨城縣眞壁郡長松本某氏ハ舉行人民ノ望ミニ叶ハヌコト有リシトカニテ郡中  
ノ人民ガ昨年三月中ヨリ改任アラソコト願ヒテ何ノ沙汰モナキヨリ全十一  
月中ヨリ連合戸長ハ辭職ヲナシ松本ガ奉職中決シテ其職ヲ奉シマシト決シタルコト客年  
十二月八日遂ニ免職セラレタリト

五日 水曜日 曇 舊十六日 正午寒暖計四十三度  
花房公使 客年來朝シタル朝鮮修信使ハ全國仁川開港ノ談判及貿易條約改正ノ件ヲ帶  
ヒ來リシ處我邦ヨリ明十五年早々公使ヲ以テ回答ス可キ旨ヲ答ヘラレシカハ花房公使  
ニハ爲メニ近々ニ赴任アル由  
褒章手續 本年ヨリ施行セラル、褒章ヲ賜與セラル可キ者ハ先ハ府縣長官ヨリ其者ノ  
行狀ヲ取調内務卿へ上請シ内務卿ハ之ヲ太政官ニ上申シ全勳賞局ヨリ直ニ本人ニ賜與  
セラルト

日 乘



六日 金曜日 晴 舊十七日 正午寒暖計四十三度  
黨與會議 愛媛縣下松山ノ自由黨ハ去暮湊町ノ正安寺ニ會シ第二期懇談會ヲ開キ地方  
部設置ノ事ヲ決シ此十日ニ又大會ヲ開クト

七日 土曜日 雨 舊十八日 正午寒暖計四十度  
各裁判所 各裁判ハ新法實施ニ付各ソノ標札ヲ改メ昨日ヨリ開庭セリ又重罪裁判ハ年  
ニ三度開キ又刑事コハ見座ヲ廢サレ書記掛附屬トセラレタリ

警官注目 岐阜縣東濃諸郡ハ政談頗ル盛ニシテ向ニ東京ノ會議ニ岩田某ヲ出シ此程全  
氏ノ歸郷ヲ待テ東濃大會ヲ岩村ニ起セシニ會スル者五百余名アリシ而ルコト同縣ノ警官  
ハソノ舉動ニ頗ル心配サルハト云フ

八日 日曜日 曇 舊十九日 正午寒暖計四十度  
三池炭山 筑後國三池ノ炭山ハ炭脈甚ク遠大ニシテ非常ノ出炭アルベキ見込ニテ伊藤  
參議ニハ昨日郵船ニテ赴カレタリ

米商會所 蠟穀町米商會所ハ本年三月ニテ滿期ナレハ兼テ延期ノ儀ヲ出願シタルニ此  
度六ヶ月間ノ延期ヲ聞届ラレタリ

九日 月曜日 晴 舊廿日 正午寒暖計四十三度  
可以模範 愛知縣一等屬木原清吉氏ハ豫テ勉勵家ニテアリシガ客臘上等給ニ昇進ノ辭  
令ヲ渡サレシ處小給ノ人々ヘコソ此節柄増給アラマホシ拙者ハ相當ノ給ニ居ルコトナレ  
ハ増給ハ返上仕度ト書面ヲ添ヘテ辭令書ヲ返納シタリト

十日 火曜日 晴 舊廿一日 正午寒暖計四十三度  
五代友厚 政府ハ本年三月比マテニ資本一千万圓ヲ以テ中央銀行ヲ設立シ大坂ニ其支

店ヲ設ケ五代友厚ヲシテ其ヲ委任セシム、又一説コト同氏ハ澁澤益田等ト一大運送  
會社ヲ目論ムトカ何レモ信スベカラサル説ナル可シ  
藤太秀郷 栃木縣下野安蘇郡ノ唐澤山ハ俵藤太秀郷ノ古跡ナルガ此程全地ノ有志相謀  
リ保存ノ爲メ唐澤山神社ヲ創建シタリ

十一日 水曜日 晴 舊廿二日 正午寒暖計四十三度  
○岩崎彌太郎 向キニ開拓使官有物ヲ關西貿易會社ヘ拂下ケノ説アルヤ三菱會社々長  
岩崎彌太郎氏ハ是ソ我社營業上ニ大關係ヲナスコトナリトテ新聞記者演說客ニ賄賂ヲ贈  
リ政府ノ非舉ヲ攻擊シ其取消ヲ求メント數千圓ノ金ヲ抛ケテタリシハ世ノ知ル所ナル  
ガ昨今同氏ハ頻リニ貴顯ノ門ニ出入シ左様ナルコトハ毛頭之レアリ不申ト言ヒ譯ケニ步  
クトカ彌太モ亦卑屈ナル男ナル哉

十二日 木曜日 晴 舊廿三日 正午寒暖計四十二度  
山本忠禮 函館常備會拂下ヲ請願シタル山本忠禮外六名ハ去暮二十八日ニ山本ハ士族  
ナルヲ以テ閏刑ニ換ヘ禁獄百日外六名ハ懲役九十日ノ處情ヲ量リ贖罪金各六圓七十五  
錢申付ラレタリ官廳ニ抵抗シタル者ト認定サレハ最ト恐ロシキコトナレ

十三日 金曜日 晴 舊廿四日 正午寒暖計四十三度  
女學開校 女子師範學校卒業生丹某姊妹ノ麻布倉坂四丁目ニ建設セシ明倫女學校ハ一  
昨日ヲ以テ開校式ヲ行ヒ朝野ノ紳士ヲ招キテ盛大ノ宴ヲ開ケリ從來女子ノ教全カラザ  
リシガ此ニ始メテ完全ノ教ヲ施スコトナレリト

十四日 土曜日 晴 舊廿五日 正午寒暖計四十三度  
吉井友實 元老院議官兼工部大輔吉井友實氏ハ昨日ヲ以テ願ニ依リ兼官共免サレ正四  
位ニ進級セラレタルガ世評ノ如ク日本鐵道會社ノ社長ニナラル、故ナラン歟